

III

京都外国語大学 単位修得要領



学修をすすめるために

単 位

① 単 位 制

大学における学修は、大学設置基準に定められた単位制に基づいて行っています。開講している授業科目には、一定の単位数を定めており、これらの授業科目の履修登録を行い、教室内および教室外において所定の時間を学修し、試験などに合格することによって単位を修得することができます。

② 単位の考え方

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を時間で表すものです。1単位の学修時間は、授業時間とその授業のために準備（予習・復習）する教室外での自学自修時間を合わせて45時間となっています。したがって、単位の修得には単に授業を受けるだけでなく、予習・復習を行うことが単位を修得するための不可欠な要素であることを十分認識し、4年間の学修を進めてください。なお、本学の授業科目は、講義・演習・実習・実技の授業形態があり、授業形態によって算定基準が異なりますので、下表を参照してください。

授業形態	学修時間	内 訳	
		授業時間 (教室内)	自学自修時間 (教室外)
講 義	45 時間	15 時間	30 時間
演 習	45 時間	30 時間	15 時間
実習・実技	45 時間	45 時間	—

(注) 本学は、演習科目の一部・資格課程科目および留学に伴う認定科目の中で、演習の授業時間 15 時間をもって 1 単位とする場合があります。

授 業

1 学 期 (セメスター)

本学では、1年を春学期と秋学期の2学期に分けています。また、授業は学期毎に14週で完結します。

●春学期：4月1日～9月19日 ●秋学期：9月20日～翌年3月31日

2 授業科目の開講形態

授業科目の開講形態は、「週1回授業」、「週2回授業」、「週1回2講時連続授業」の3つの形態があり、他に特定の期間に集中して行う「集中講義」があります。

3 授業時間

授業は1講時100分、1日6講時で実施しています。各講時の授業時間は右のとおりです。

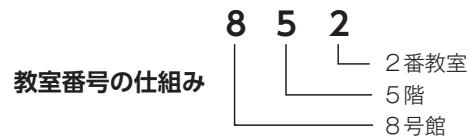
ただし、定期試験期間中の試験時間は異なりますので、38ページを参照してください。

講時	時間
1 講時	9:10～10:50
2 講時	11:00～12:40
3 講時	13:50～15:30
4 講時	15:40～17:20
5 講時	17:30～19:10
6 講時	19:20～21:00

4 教 室

授業を行う教室には、教室番号を表示しています。

教室は試験などにより変更することがありますので、京都外大 Web Campus および掲示で確認してください。



5 休 講

本学または担当教員のやむを得ない理由によって授業を行えない場合は休講とし、京都外大 Web Campus および掲示により連絡します。電話・eメールでの問い合わせは受け付けません。

ただし、担当教員の急病等による休講は時間的に Web 上への掲載ができない場合があります。


6 補 講

授業が休講となった場合またはその他の理由で、授業時間とは別に日時を定めて補講を行うことがあります。補講は所定の補講日以外に、月～金曜日の5・6講時や土曜日等に行います。日時、教室などは京都外大 Web Campus および掲示により連絡します。

7 交通機関の不通、暴風警報・特別警報発令時における授業・定期試験の取り扱い

(1) 交通機関が不通の場合

次の指定したいずれかの交通機関の区間（一部の区間の場合は対象外）が不通の場合は、休講とします。なお、対象となる交通機関・区間および運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

対象となる交通機関・区間		
	JR	米原—西明石区間
	京都市バス・京都市営地下鉄	全区間
	京阪電車	淀屋橋（中之島）—出町柳区間
	阪急電車	神戸三宮—梅田—河原町区間
	近鉄電車	京都—橿原神宮前区間
交通機関の運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時（午前 9 時 10 分）から授業を行います。
	午前 11 時までに運行再開の場合	3 講時（午後 1 時 50 分）から授業を行います。
	午後 3 時までに運行再開の場合	5 講時（午後 5 時 30 分）から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても不通の場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時（午前 9 時 30 分）から定期試験を行います。
	午前 6 時 30 分を過ぎても不通の場合	定期試験は行いません。

(2) 暴風警報が発令された場合

予報 1 次細分区域における京都府南部、あるいは予報 2 次細分区域における南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれかの地域に暴風警報が発令された場合は、休講とします。

なお、同警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

暴風警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時（午前 9 時 10 分）から授業を行います。
	午前 11 時までに解除の場合	3 講時（午後 1 時 50 分）から授業を行います。
	午後 3 時までに解除の場合	5 講時（午後 5 時 30 分）から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時（午前 9 時 30 分）から定期試験を行います。
	午前 6 時 30 分を過ぎても解除されない場合	定期試験は行いません。

(3) 特別警報が発令された場合

上記（2）の暴風警報発令により休講とする地域に特別警報が発令された場合、発令された段階で休講とします。発令が授業中の場合も同様としますが、休講後の帰宅等については、周囲の状況を確認し、本学の危機管理マニュアルに基づき指示します。

(4) 上記の交通機関または地域以外で不通・暴風警報・特別警報の影響を受けた学生は、担当教員にその事情を申し出てください。

(5) 上記の取り扱いにかかわらず、自然災害等の状況によって、別途の措置を講ずる場合があります。

8 授業の出席



履修している授業科目の単位を修得するためには、原則としてその授業科目の各学期実質授業回数の3分の2(10回)以上の出席を必要とします。ただし、3分の2以上の出席だけで単位が修得できるのではなく、出席は単位修得のための最低限必要な要件となりますので、授業にはできる限り出席するようにしてください。

なお、本学では学期毎に必修科目について欠席の多い学生の調査を行い、当該の学生に対して指導を行っています。

また、各授業における出欠は、学生各自のスマートフォンやタブレット端末を使って確認します。スマートフォン等を持っていない場合の確認方法は、担当教員の指示に従ってください。各授業の出欠状況は京都外大 Web Campus の学生サポートシステムで確認することができます。万一、出欠情報に誤りがある場合は、担当教員に申し出てください。※実技・実習の授業科目については、「出欠」の取り扱いに多少の差異がありますので、担当教員の指示に従ってください。

9 授業の欠席



本学には、欠席届(公欠届を含む。)がありません。忌引や病気等で授業を欠席する場合は、事前あるいは事後に各自で担当教員へ連絡してください。ただし、学生は講師控室への入室はできませんので、注意してください。

○学校感染症に罹患した場合の処置

感染症(インフルエンザ・麻疹[はしか]・風疹・水痘[水ぼうそう]等)に感染している、または感染の疑いのある学生については、学校保健安全法に基づき、授業の出席停止の処置を行いますので、速やかに保健室に連絡し、指示を受けてください。

出席停止期間の授業の取り扱いについては、出席停止解除後に教務部で指示を受けてください。

○裁判員選任等に伴う授業の欠席の取り扱い

裁判員制度により、学生が裁判員候補者として裁判所に出向く場合および裁判員候補者として裁判所に出向き、裁判員または補充裁判員に選ばれた場合に授業を欠席する際は、事前または事後に、教務部で指示を受けてください。

10 教員への連絡等

教員への連絡・授業の質問は、授業期間内に学内で行ってください。

また、専任教員はアカデミック・アドバイザー制度を利用してください。(27ページ参照)

なお、非常勤の教員への連絡・授業への質問は、連絡先を公表していませんので授業時間内に行ってください。

11 シラバス(講義概要)

各授業科目の内容は、本学ホームページのWebシラバスに掲載しています。Webシラバスには、各授業科目の到達目標をはじめ、開講時期や担当教員名、単位数、週ごとの授業計画、評価方法(平常試験、定期試験等)、教科書・参考書などが載っています。ただし、授業の進度や到達具合によってシラバスの内容と異なる場合がありますので、最終的な授業の進め方や内容については、担当教員の指示を受けてください。

12 TA制度・SA制度

授業内での学生に対するきめ細やかな指導の充実を図るため、授業担当教員の指導のもと大学院生(ティーチング・アシスタント[TA])や学部生(スチューデント・アシスタント[SA])が授業の補助をすることがあります。

試 験

1 平常試験

担当教員が授業時間内に行う試験で、オーラルテストやレポート提出等も含まれています。実施日や時間、持ち込みの可否、遅刻者の取り扱い等は、担当教員の判断のもとに実施します。事前に一切の情報を与えずに授業時間内に実施することもありますので、普段から授業に出席して平常試験に対応できるようにしておいてください。

また、平常試験は、後に記載する「追試験」の対象とはなりませんので、忌引や病気等で平常試験が受験できない場合は、必ず事前あるいは事後に学生本人がその事情を担当教員へ申し出て指示を受けてください。

なお、レポート等の提出物は必ず担当教員に直接渡してください。

2 定期試験

〔定期試験の試験時間〕

各学期終了後の本学が指定する期間に行う試験で、対象となる授業科目はシラバスで確認してください。試験時間は右のとおりで、時間割等の詳細は8号館の掲示板でお知らせします。

講時	時間	講時	時間
1 講時	9:30～10:30	5 講時	15:40～16:40
2 講時	10:50～11:50	6 講時	17:00～18:00
3 講時	13:00～14:00	7 講時	18:20～19:20
4 講時	14:20～15:20	8 講時	19:40～20:40



〔定期試験受験上の注意〕

1	学費を納入していない人は受験できません。
2	登録していない授業科目は、受験できません。
3	指定した試験場で受験してください。
4	学生証(科目等履修生・単位互換履修生は身分証)を机の上に提示しなければ、受験できません。学生証(身分証)不携帯の人は、学生部で「仮学生証」の交付を受けてください。なお、仮学生証は、当該年度中に2回しか発行しませんので、学生証は常に携帯してください。
5	遅刻者の受験は、試験開始後20分以内に限り認め、それ以後は認めません。なお、遅刻して試験場に入室する際には、学生証を監督者に提示し、指示に従ってください。
6	重複科目は、必ず所定の手続きを行ってください。(次ページ参照)
7	試験場でスマートフォン・携帯電話・電子手帳等を時計あるいは情報機器として使用できませんので、持ち込んだ場合は電源を切り、机には置かないでください。
8	試験場では監督者の指示に従ってください。
9	試験用紙が配布されたら、直ちに年次・クラス・学籍番号・氏名および授業の受講曜講時を、万年筆またはボールペンで記入してください。なお、年次・クラス・学籍番号・氏名の記入がない場合は、当該科目の答案を無効とします。
10	答案の提出は、試験開始後20分以後とします。
11	次の項に該当する人は、不正行為者と認め「京都外国語大学試験における不正行為に関する規程」(第5条第2項により、 原則として当該学期の全受講科目の成績評価を失格とし 、かつ学則第70条により処罰する。)により教授会において審議し、処分します。 ① 本人に代わって受験した人およびそれをさせた人 ② 答案用紙をほかの受験者のものとすり替えた人およびそれに応じた人 ③ 答案をほかの受験者に見せたり、口伝えした人およびそれに応じた人 ④ ほかの受験者の答案をのぞき見た人 ⑤ 紙片、筆記用具、机等にあらかじめ書き込んだ人およびこれを利用した人 ⑥ 教科書、参考書、ノート、携帯電話その他の電子機器等で使用が許可されていないものを試験中に使用した人 ⑦ 教科書、参考書、ノート、携帯電話その他の電子機器等で使用が許可されているものを試験中に貸借した人 ⑧ レポートの作成に当たって ^{ひょうせつ} 剽窃行為をした人 ⑨ 試験監督者の指示に従わない人 ⑩ その他前各号に準じる行為を行った人で教授会において不正行為者と認められた人

※定期試験受験上の注意は、平常試験、追試験等他の試験にも適用します。

【定期試験での重複科目の取り扱い】

試験時間割の関係上、同一曜講時に受験科目が2科目以上重なった場合は、以下のとおり取り扱います。

- (1) 重複科目がある場合は、必ず定期試験開始日の前日までに教務部に願い出て所定の手続きを行ってください。手続きを行わない場合は、いずれの科目も受験することができません。
- (2) 所定の手続きを行った人に対し、教務部から重複科目の受験順位および試験場を指示します。
- (3) 重複科目の受験手続きを行った人は、試験場でその旨を監督者に申し出て、指示に従ってください。
- (4) 重複科目の試験時間は、1科目 60分とします。

3 追試験

定期試験を次の7項目の理由で受験できなかった人を対象に行う試験で、本学が指定する日に行います。

理由		提出書類		
1	天災	罹災証明書		
2	交通事故	診断書または事故証明書		
3	病気	診断書		
4	教育実習・博物館実習	理由書		
5	就職試験・会社訪問	受験証明書または訪問を証明する書類		
6	裁判員選任等	裁判所発行証明書		
7	忌引・その他やむを得ない事由	保証人またはこれに代わる人による理由書		
		忌引の日数	父母・配偶者	7日以内
			子	5日以内
			祖父母・兄弟姉妹	3日以内
			曾祖父母・伯叔父母・甥・姪	1日

※平常試験に対する追試験は行いません。

【受験申請方法】

所定の追試験受験願（試験欠席届を含む）に必要な事項を記入・押印し、証明書・診断書または理由書を添付して、定期試験開始日から定期試験終了日の翌日（翌日が日曜日・祝日の場合は、翌々日）の午後5時までに別に定める受験料を添えて、教務部へ願い出てください。

ただし、理由の如何によっては追試験の願い出を受付けないことがあります。

4 再試験

4年次生の3月卒業対象者で、卒業要件単位の未修得単位数が一定単位数（当該年度の授業科目時間割表を参照）以下の人を対象に行う試験で、本学が指定する日に行います。

再試験の試験時間は1科目 60分、再試験に合格した場合は評価を60点とします。

ただし、再試験が受験できる授業科目は、以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- ・当該年度に履修登録を行い、かつ履修した授業科目
- ・未修得単位数を充足することができる授業科目
- ・F（失格）評価を受けていない授業科目

また、以下の授業科目は再試験の対象になりませんので、当該年度の履修登録の際には注意してください。

外国語学部

- ・選択科目で当該年度の春学期開講の授業科目
- ・「基礎ゼミナール」「言語と平和Ⅰ・Ⅱ」「ゼミ」「資格課程に関する科目」

国際貢献学部

- ・詳細は当該年度の授業科目時間割表でお知らせします。

※9月卒業に際しては、再試験を行いません。

【受験申請方法】

所定の再試験受験願に必要な事項を記入・押印し、卒業判定結果発表日の所定の時間までに別に定める受験料を添えて、教務部へ願い出てください。

5 総合試験 <外国語学部生対象>

総合試験は、専攻語について学科独自で行う試験です。

実施する場合の試験の日時・場所等については、京都外大 Web Campus および掲示でお知らせします。

6 学内語学統一試験 <外国語学部生対象>

スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語について1月に行う試験で、専攻語については積極的に受験してください。また、専攻する言語以外の試験も受験できます。この試験で言語ごとに定められた基準（点数）を満たすことで、外国語強化科目（インターミディエイトの科目・アドバンストの科目）が履修できるようになります。試験の日時・場所等の詳細については、京都外大 Web Campus および掲示でお知らせします。

なお、英語は、同時期に TOEIC L&R [IP] を実施しますので、学内語学統一試験は行いません。

成績評価および単位認定

1 成績評価の方法

成績評価は、担当教員がシラバス（講義概要）に記載している評価方法に基づいて行います。

2 成績評価の基準

成績評価は 100 点満点で評価し、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とします。
なお、以下のいずれかに該当した場合は F（失格）評価となります。

F（失格）評価になる場合

- 授業にほとんど出席せず、かつ点数評価に不可欠なりポートを提出しない、または試験を受けないことにより、履修放棄とみなした場合
- ゼミの受講者が卒業論文または卒業研究を提出しなかった場合
- 教授会において不正行為を行ったと判定した場合（原則として当該学期の全受講科目）

3 成績評価の表記

成績評価は、「成績表」および「学生サポートシステム」には点数で、「成績証明書」には右表の記号で表記します。

また、**本学では不合格科目も表記しますので、履修を中止する授業科目は、所定の期間内に必ず取り消してください。**登録を取り消した授業科目は成績表には「W」で表記しますが、成績証明書には表記しません。

なお、本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修に対する成績評価の表記は、43 ページを参照してください。

成績評価	評価記号	
100 点～90 点	A+	合格
89 点～80 点	A	
79 点～70 点	B	
69 点～60 点	C	
59 点～0 点	D	不合格
失格	F	

4 成績の発表

成績評価は、「成績表」と「学生サポートシステム」に累積して表示します。

学生サポートシステムでの確認時期は、春学期が 9 月中旬、秋学期が 3 月上旬です。詳細は京都外大 Web Campus 等でお知らせしますので、必ず所定の期間に必要な単位の修得状況を確認してください。

また、学生サポートシステムでの成績評価の確認には、学修目標等の入力が必要です。必ず所定の期間に必要な事項を入力しておいてください。

なお、本学では、春学期の成績表を 10 月中旬頃、秋学期の成績表を 3 月中旬頃（卒業年次生を除く。）に保証人宛に郵送します。



5 GPA (Grade Point Average)



GPA とは、単位あたりの成績評価の平均を数字で表したものです。

GPA は、履修登録した全科目（資格課程に関する授業科目は除く。）が対象となります。不合格科目や所定の手続きをせずに履修を中止した授業科目が多い場合は GPA が下がることとなりますので注意してください。

本学の GPA の計算方法は、以下のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{A}^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (\text{A 科目の} \dots) + (\text{B 科目の} \dots) + \dots}{\text{総登録単位数 (全科目の単位数の合計)}}$$

単位認定 (Q1 ~ Q10) の成績評価は、GPA の計算に含みません。

Grade	Score	Point
A ⁺	100 ~ 90	4.0
A	89 ~ 80	3.0
B	79 ~ 70	2.0
C	69 ~ 60	1.0
D	59 ~ 0	0
F (失格)	—	0
W (取消科目)	—	—

6 成績不振学生に対する措置

外国語学部

外国語学部では、学科毎に進級基準を設け、当該年度の修得単位数に基づき、年度末に進級判定を行います。進級判定で「留年」となった人に対しては本学から個別に連絡し、学生生活や勉学計画を振り返り、今後の履修や勉学の進め方などについてアカデミック・アドバイザーと面談する機会を設けますので、大いに活用してください。

また、年間の GPA が 1.0 未満の人に対しては、所属学科の学科長が嚴重注意を行い、**GPA が 3 学期連続で 1.0 未満の人に対しては、勉学継続の意欲がないものとして、学長が退学を勧告することがあります。**

国際貢献学部

国際貢献学部では、**入学後の在学 4 学期間で卒業要件単位を 32 単位以上修得できない場合は、勉学継続の意欲がないものとして「除籍」とすることを、学則第 42 条に定めています。**このような事態を防ぐため、入学後の在学 4 学期間で学期毎の修得単位数が 8 単位未満の人に対しては、アカデミック・アドバイザーが個別に連絡し、学生生活や勉学計画を振り返り、今後の履修や勉学の進め方などについて面談する機会を設けますので、大いに活用してください。

なお、入学後の在学 4 学期間で卒業要件単位を 32 単位以上修得できない場合であっても、特別な理由があり、所属学科が勉学継続の意欲があると判断した場合は、「除籍」の措置はとらず、在学の措置をとることがあります。

7 本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定 <2018年度以降入学者対象>

入学前に他の大学等で修得した単位、在学中に他の大学や大学以外の教育施設等で修得した単位および本学独自のプログラム等で修得した単位を、以下のとおり認定します。なお、申請方法および単位認定の詳細については当該プログラムのページを参照してください。

1. 本学以外の教育施設等の学修成果に対する単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	認定可能単位数の上限	卒業要件に算入する単位数の上限
Q1	本学に入学する前に本学・他大学等の授業科目を履修し修得した単位(新入生対象)	科目対科目の振替認定	認定した科目の科目区分	30	30
Q2	派遣留学・認定留学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	16(1学期間) 32(2学期間) 48(3学期または4学期)	16(1学期間) 32(2学期間) 48(3学期または4学期)
	国内留学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	22(1学期間) 45(2学期間)	22(1学期間) 45(2学期間)
	海外セミナー	短期留学	自由選択	4	4
	Oxford English Programme	短期留学	自由選択	2	
	国立マレーシア科学大学英語研修	短期留学	自由選択	4	
海外語学研修	短期留学	自由選択	2		
Q3	京都外国語短期大学の科目等履修科目	科目等履修科目	自由選択	12	4
Q4	大学コンソーシアム京都の単位互換制度	大学コンソーシアム京都科目	自由選択	12	4
Q5	国内インターンシップ	インターンシップ2	自由選択	4	4
	海外インターンシップ	海外インターンシップ	自由選択	4	
	エアラインスタディプログラム(JAL)	海外インターンシップ	自由選択	4	
Q6	資格検定試験	〇〇語資格検定試験	専門特別演習(日本語学科)	2	4
			自由選択(日本語教員養成プログラムコース2登録者)	4	
			自由選択(国際貢献学部)	2	
	第2外国語検定試験<〇〇語>	自由選択(外国語学部)	2		
ITパスポート試験(旧初級システムアドミニレーター)	情報処理検定試験1	自由選択	2		
基本情報技術者試験(第2種情報処理技術者試験)	情報処理検定試験2	自由選択	2		
Q8	海外フィールドワーク(ベトナム・ネパール)	海外フィールドワーク	自由選択	4	4
	エアラインスタディプログラム(プリズベン)				
	TECSOL&J-SHINE 認定取得プログラム				
	TESOL インターシッププログラム				
	災害ボランティア活動	災害ボランティア	自由選択	2	
	学校教育支援活動	学校教育支援	自由選択	2	
日本語教育支援活動	日本語教育支援	自由選択	2		

2. 本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	認定可能単位数の上限	卒業要件に算入する単位数の上限
Q7	教育実習(外国語学部)	教育実習1	資格課程科目	2	—
		教育実習2		2	
Q9	E-learning(Tutorial Studies)	E-learning(Tutorial Studies)	外国語強化科目(外国語学部)	1	1
			自由選択(国際貢献学部)	1	
	京都研究プロジェクト	Topic Study ○-1(京都研究)	外国語強化(外国語学部)	2	4
		Topic Study ○-2(京都研究)			
		Topic Study ○-3(京都研究)			
		Topic Study ○-4(京都研究)			
		京都研究プロジェクト1	自由選択		
京都研究プロジェクト2					
京都研究プロジェクト3					
京都研究プロジェクト4					
Q10	卒業選択(外国語学部)	卒業論文・卒業研究	卒業選択	2	2
	Graduation Thesis・卒業論文・Project・卒業研究(国際貢献学部)		コース科目	2	2



外国語学部



I 大学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

卒業要件

4年（8学期）以上在学し、以下のとおり授業科目区分に従って124単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。

卒業要件を満たすために綿密な履修計画を立て、学生本人の責任において卒業要件を満たしているかを確認してください。

授業科目区分	卒業要件単位数							
	英米語学科	スペイン語学	フランス語学	ドイツ語学	ブラジルポルトガル語学	中国語学科	イタリア語学	
導入	総合科目	4	4	4	4	4	4	4
	基礎ゼミナール	2	2	2	2	2	2	2
基幹	専攻語科目	30	34	34	34	34	34	34
	第2外国語科目	8	8	8	8	8	8	8
	外国語強化科目	20 ※	16 ※	16 ※	16 ※	16 ※	16 ※	16 ※
	第3外国語科目（注1）	－ ※	－ ※	－ ※	－ ※	－ ※	－ ※	－ ※
展開	グローバル・スタディ科目群（注2） < >の単位は内数	(エリアA) 20 ※	<8>学科指定 20 ※	(注3) 20 ※	<8>学科指定 20 ※	(注4) 20 ※	<8>学科指定 20 ※	<8>学科指定 20 ※
		(エリアB)	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>
	キャリア・スタディ科目群（注3）	16 ※	16 ※	16 ※	16 ※	16 ※	16 ※	16 ※
	卒業選択（注4）	2	2	2	2	2	2	2
	自由選択（注5）	22	22	22	22	22	22	22
	計	124	124	124	124	124	124	124

授業科目区分	卒業要件単位数		
	日本語学科		
	(日本語を母語とする人)	(日本語を母語としない人)	
導入	総合科目	4	4
	基礎ゼミナール	2	－
基幹	専門科目	24	24
	第2外国語科目	8	－
	外国語強化科目	12 ※	22 ※
	第3外国語科目（注1）	－ ※	－ ※
	専門特別演習科目	10 ※	10 ※
展開	グローバル・スタディ科目群（注2） < >の単位は内数	(エリアA) 24 ※	<12>学科指定 24 ※
		(エリアB)	<6>
	キャリア・スタディ科目群（注3）	16 ※	16 ※
	卒業選択（注4）	2	2
	自由選択（注5）	22	22
	計	124	124

注1 専攻する言語と第2外国語科目以外の外国語を修得する場合の授業科目区分です。

注2 「エリアA」は各学科が指定する授業科目の中で定められた単位を、「エリアB」は6単位を修得したうえで、「エリアA」と「エリアB」からあわせて20単位（日本語学科は24単位）を修得してください。

注3 選択（登録）したコースの授業科目の中から、16単位を修得してください。登録したコース以外の科目の修得単位は自由選択に算入します。

注4 卒業選択は「卒業論文・卒業研究」の2単位を必修とします。

注5 自由選択として割り当てられた授業科目だけではなく、「基幹」「展開」の中で必要単位数欄に※印を付した授業科目区分の卒業に必要な単位数を超えて修得した単位も自由選択に算入します。

■「日本語を母語としない人」とは、学籍番号の下3桁が600番台の人をさします。

外国語強化科目履修上の注意点

外国語強化科目の卒業要件単位数は、インターメディエイト以上または「英語通訳・翻訳インテンシブ」「英語教員養成インテンシブ」の授業科目の単位を含めて修得する必要があります。したがって、エレメンタリーおよび「TOEIC集中対策」の授業科目の修得単位のみで卒業要件単位数を満たしても卒業することができませんので、充分注意してください。（「日本語インテンシブ」を除く。）

履修登録

履修登録は、所定の期間内に学生本人が履修する授業科目を自ら決定し、**学生本人の責任において登録する手続き**のことです。

履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目が受けられませんし、試験も受けられず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、履修登録にあたっては、本学ホームページに公開しているシラバス（講義概要）を大いに活用してください。

1 履修登録の時期

4月（原則として年1回）に春学期および秋学期に開講する授業科目を併せて登録します。ただし、1年次生は秋学期に開講する授業科目（指定した授業科目を除く。）を登録できませんので、秋学期の所定の期間に登録してください。

また、秋学期に留学や休学が決定している場合でも、4月に春学期および秋学期に開講する授業科目を併せて登録してください。

2 履修登録の方法

京都外大 Web Campus の「Web 履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間内に登録できない場合は、必ず事前に教務部へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数を確保し、学修の質を確保するため、年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。

1年次生	1年間で 36単位 （資格課程に関する授業科目は含まない。）とし、春学期の GPA（卒業要件）が2.0に満たない場合は、 32単位 とします。
2～4年次生	1年間で 48単位 （資格課程に関する授業科目は含まない。）とし、前学期までの GPA（卒業要件）が2.7を超えている場合は、 上限を超えて登録 することができます。

4 第2外国語科目の登録

【日本語を母語としない人（学籍番号の下3桁が600番台の人）は除きます。】

入学後の予備登録期間に、母語以外の言語を選択してください。なお、登録後に言語の変更は**できません**ので注意してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

Web 履修登録の画面上または時間割表に表示しますので、確認のうえ登録してください。なお、再履修等によりクラス（担当者）変更が必要な場合は、4月の授業開始までに実施する「再履修等による指定クラス変更相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、「ゼミⅠ・Ⅱ（3年次配当）」を除き、**配当年次に従って登録**してください。

ただし、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

（例えば、1年次生は2年次配当の授業科目は登録できませんが、4年次生は1～3年次配当の授業科目が登録できます。）

7 受講者を制限または選抜する授業科目（選択科目）の登録

受講者数が多い場合は、受講者を制限または選抜することがありますので、**必ず1回目の授業に出席し**、必要な手続きを経て受講できるか確認のうえ、登録してください。また、登録者数が多く、教育上効果がないと判断した場合は、履修登録後であっても受講者数を制限することがあります。

8 履修登録の確認

コードの入力ミスなどにより誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了するとともに、登録完了時には「内容控え」を印刷し、登録内容を確認のうえ保管しておいてください。また、**受講時間割表確認期間に受講時間割表を印刷して、登録した科目が間違いなく受講時間割表に記載されているかを必ず確認してください。**万一、履修登録エラーが出ている、登録完了時と異なっている、進級や卒業にかかわる誤りがある場合には、教務部に申し出て指示を受けてください。

9 履修登録科目の取消・秋学期開講科目の履修登録の変更

授業に出席した後に履修を中止する場合は、各学期の所定の期間に**京都外大 Web Campus**の「Web 履修登録」で、**必修科目（再履修科目・ゼミを含む）を除き**、進級基準や卒業要件を満たす範囲内で取消を行うことができます。取消後に別の授業科目を追加で登録したり、取り消した授業科目を当該の学期に再度登録することはできませんので、十分注意してください。なお、取消の手続きをした授業科目は、成績表には「W」として記載し、GPAを算出する対象科目とはなりません。また、4月に履修登録した秋学期の授業科目は、秋学期の所定の期間に履修登録を変更（追加・削除）することができます。**京都外大 Web Campus**の「Web 履修登録」で、**必修科目（再履修科目・ゼミを含む）を除き**、進級基準や卒業要件を満たす範囲内で手続きを行ってください。

なお、登録できる上限単位数には春学期に不合格になった授業科目の単位を含みます。

10 その他の注意事項

- ・ 所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
- ・ 履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません。
- ・ 同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
- ・ 単位を修得済みの授業科目は登録できません。
- ・ 授業担当者が異なっても同一科目を複数登録することはできません。
- ・ 大学コンソーシアム京都の単位互換制度および京都外国語短期大学の科目等履修生制度は、京都外大 Web Campus で登録することはできません。

導 入

【総合科目・基礎ゼミナール】

総合科目	言語と平和についての総合的な理解を深め、本学で学ぶうえでの基本的な姿勢を培うことを目標とします。
基礎ゼミナール	外国語大学の学生として外国語を運用し、実社会で活躍するための能力、すなわち論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。

< 全学科 (必修) >

配当年次に従い、6 単位を修得してください。

なお、日本語学科の日本語を母語としない人(学籍番号の下3桁が600番台の人)は、「基礎ゼミナール」を履修する必要はありません。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
言語と平和 I	2	1	春	リレー形式の授業で、クラスを指定します。
言語と平和 II	2	1	秋	演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
基礎ゼミナール	2	1	春	

基 幹

1 【専攻語科目】

英米語学科・スペイン語学科・フランス語学科・ドイツ語学科・ブラジルポルトガル語学科・中国語学科・イタリア語学科

専攻する言語の知識を深く学び、その運用力を高めることによって、専攻する言語の専門家として自立する力を身につけることを目標とします。

< 英米語学科 (必修) >

配当年次に従い、30 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
English Seminar I	1	1	春	① 授業科目は習熟度別クラスで行い、クラス(担当者)を指定します。 ② 「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。
Academic English Skills I (週2回授業)	2	1	春	
English Workshop I (週2回授業)	2	1	春	
Academic Writing I	1	1	春	
Communicative Grammar I	1	1	春	
TOEIC Workshop I	1	1	春	
English Seminar II	1	1	秋	
Academic English Skills II (週2回授業)	2	1	秋	
English Workshop II (週2回授業)	2	1	秋	
Academic Writing II	1	1	秋	
Communicative Grammar II	1	1	秋	
TOEIC Workshop II	1	1	秋	
English Seminar III	1	2	春	
Academic English Skills III	1	2	春	
English Workshop III	1	2	春	
Academic Writing III	1	2	春	
English Seminar IV	1	2	秋	
Academic English Skills IV	1	2	秋	
English Workshop IV	1	2	秋	
Academic Writing IV	1	2	秋	
Academic English Skills V	1	3	春	
English Workshop V	1	3	春	
Academic Writing V	1	3	春	
Academic English Skills VI	1	3	秋	
English Workshop VI	1	3	秋	
Academic Writing VI	1	3	秋	

< スペイン語学科 (必修) >

配当年次に従い、34 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
スペイン語初級文法 I	1	1	春	授業科目のクラス (担当者) を指定します。
マルチスペイン語 I	1	1	春	
実践スペイン語 I	1	1	春	
チャレンジスペイン語 A-I	1	1	春	
チャレンジスペイン語 B-I	1	1	春	
スペイン語初級文法 II	1	1	秋	
マルチスペイン語 II	1	1	秋	
実践スペイン語 II	1	1	秋	
チャレンジスペイン語 A-II	1	1	秋	
チャレンジスペイン語 B-II	1	1	秋	
◆ スペイン語中級文法 I	1	2	春	
◆ マルチスペイン語 III	1	2	春	
◆ オフィススペイン語 I	1	2	春	
◆ 実践スペイン語 III-1	1	2	春	
◆ 実践スペイン語 III-2	1	2	春	
◆ リーディングスペイン語 I	1	2	春	
◆ ライティングスペイン語 I	1	2	春	
◆ スペイン語中級文法 II	1	2	秋	
◆ マルチスペイン語 IV	1	2	秋	
◆ オフィススペイン語 II	1	2	秋	
◆ 実践スペイン語 IV-1	1	2	秋	
◆ 実践スペイン語 IV-2	1	2	秋	
◆ リーディングスペイン語 II	1	2	秋	
◆ ライティングスペイン語 II	1	2	秋	
◆ 実践スペイン語 V-1	1	3	春	
◆ 実践スペイン語 V-2	1	3	春	
◆ リーディングスペイン語 III	1	3	春	
◆ ライティングスペイン語 III	1	3	春	
◆ 実践スペイン語 VI-1	1	3	秋	
◆ 実践スペイン語 VI-2	1	3	秋	
◆ リーディングスペイン語 IV	1	3	秋	
◆ ライティングスペイン語 IV	1	3	秋	
◆ スペイン語総合演習 I	1	4	春	
◆ スペイン語総合演習 II	1	4	秋	

① 授業科目は習熟度別クラスで行い、クラス (担当者) を指定します。

② ◆印科目はスペイン語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)

< フランス語学科 (必修) >

配当年次に従い、34 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
◆ フランス語基礎演習 I (週 2 回授業)	2	1	春	① 授業科目のクラス (担当者) を指定します。 ② 「週 2 回授業」は必ず 2 回とも履修してください。 ③ ◆印科目はフランス語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)
◆ 視聴覚フランス語 I-1	1	1	春	
◆ 視聴覚フランス語 I-2	1	1	春	
◆ フランス語会話 I-1	1	1	春	
◆ フランス語会話 I-2	1	1	春	
◆ 音読フランス語 I	1	1	春	
◆ フランス語基礎演習 II (週 2 回授業)	2	1	秋	
◆ 視聴覚フランス語 II-1	1	1	秋	
◆ 視聴覚フランス語 II-2	1	1	秋	
◆ フランス語会話 II-1	1	1	秋	
◆ フランス語会話 II-2	1	1	秋	
◆ 音読フランス語 II	1	1	秋	
◆ フランス語総合演習 I-1	1	2	春	
◆ フランス語総合演習 I-2	1	2	春	
◆ 視聴覚フランス語 III-1	1	2	春	
◆ 視聴覚フランス語 III-2	1	2	春	
◆ フランス語会話 III-1	1	2	春	
◆ フランス語会話 III-2	1	2	春	
◆ フランス語総合演習 II-1	1	2	秋	
◆ フランス語総合演習 II-2	1	2	秋	
◆ 視聴覚フランス語 IV-1	1	2	秋	
◆ 視聴覚フランス語 IV-2	1	2	秋	
◆ フランス語会話 IV-1	1	2	秋	
◆ フランス語会話 IV-2	1	2	秋	
◆ COMPREHENSION ORALE I	1	3	春	
◆ EXPRESSION ORALE I	1	3	春	
◆ COMPREHENSION ECRITE I	1	3	春	
◆ COMPREHENSION ORALE II	1	3	秋	
◆ EXPRESSION ORALE II	1	3	秋	
◆ COMPREHENSION ECRITE II	1	3	秋	
◆ COMPREHENSION ET EXPRESSION ORALES I	1	4	春	
◆ COMPREHENSION ET EXPRESSION ORALES II	1	4	秋	

① 授業科目は習熟度別クラスで行い、クラス (担当者) を指定します。

② ◆印科目はフランス語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)

< ドイツ語学科 (必修) >

配当年次に従い、34 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項	
ドイツ語文法Ⅰ (週 2 回授業)	2	1	春	① 授業科目のクラス (担当者) を指定します。 ② 「週 2 回授業」 は必ず 2 回とも履修してください。	
視聴覚ドイツ語Ⅰ (週 2 回授業)	2	1	春		
ドイツ語会話Ⅰ-1	1	1	春		
ドイツ語会話Ⅰ-2	1	1	春		
ドイツ語作文・読解Ⅰ	1	1	春		
ドイツ語文法Ⅱ (週 2 回授業)	2	1	秋		
視聴覚ドイツ語Ⅱ (週 2 回授業)	2	1	秋		
ドイツ語会話Ⅱ-1	1	1	秋		
ドイツ語会話Ⅱ-2	1	1	秋		
ドイツ語作文・読解Ⅱ	1	1	秋		
国際ドイツ語検定対策 1	1	1	秋		
◆ 中級ドイツ語文法Ⅰ	1	2	春		① 授業科目は習熟度別クラスで行い、クラス (担当者) を指定します。 ② ◆印科目はドイツ語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)
◆ 視聴覚ドイツ語Ⅲ	1	2	春		
◆ ドイツ語会話Ⅲ-1	1	2	春		
◆ ドイツ語会話Ⅲ-2	1	2	春		
◆ ドイツ語作文・読解Ⅲ	1	2	春		
◆ 国際ドイツ語検定対策 2	1	2	春		
◆ 中級ドイツ語文法Ⅱ	1	2	秋		
◆ 視聴覚ドイツ語Ⅳ	1	2	秋		
◆ ドイツ語会話Ⅳ-1	1	2	秋		
◆ ドイツ語会話Ⅳ-2	1	2	秋		
◆ ドイツ語作文・読解Ⅳ	1	2	秋		
◆ ドイツ語会話Ⅴ-1	1	3	春		
◆ ドイツ語会話Ⅴ-2	1	3	春		
◆ ドイツ語作文・読解Ⅴ	1	3	春		
◆ ドイツ語会話Ⅵ-1	1	3	秋		
◆ ドイツ語会話Ⅵ-2	1	3	秋		
◆ ドイツ語作文・読解Ⅵ	1	3	秋		
◆ ドイツ語総合演習Ⅰ	1	4	春		
◆ ドイツ語総合演習Ⅱ	1	4	秋		

< ブラジルポルトガル語学科 (必修) >

配当年次に従い、34 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項	
ポルトガル語基礎演習Ⅰ (週 2 回授業)	2	1	春	① 授業科目のクラス (担当者) を指定します。 ② 「週 2 回授業」 は必ず 2 回とも履修してください。	
総合ポルトガル語演習Ⅰ-1	1	1	春		
総合ポルトガル語演習Ⅰ-2	1	1	春		
ポルトガル語初級会話Ⅰ	1	1	春		
ポルトガル語講読Ⅰ	1	1	春		
ポルトガル語基礎演習Ⅱ (週 2 回授業)	2	1	秋		
総合ポルトガル語演習Ⅱ-1	1	1	秋		
総合ポルトガル語演習Ⅱ-2	1	1	秋		
ポルトガル語初級会話Ⅱ	1	1	秋		
ポルトガル語作文Ⅰ	1	1	秋		
◆ ポルトガル語基礎演習Ⅲ-1	1	2	春		① 授業科目は習熟度別クラスで行い、クラス (担当者) を指定します。 ② ◆印科目はブラジルポルトガル語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)
◆ ポルトガル語基礎演習Ⅲ-2	1	2	春		
◆ 総合ポルトガル語演習Ⅲ	1	2	春		
◆ ポルトガル語中級会話Ⅰ	1	2	春		
◆ ポルトガル語講読Ⅱ	1	2	春		
◆ ポルトガル語作文Ⅱ	1	2	春		
◆ ポルトガル語基礎演習Ⅳ-1	1	2	秋		
◆ ポルトガル語基礎演習Ⅳ-2	1	2	秋		
◆ 総合ポルトガル語演習Ⅳ	1	2	秋		
◆ ポルトガル語中級会話Ⅱ	1	2	秋		
◆ ポルトガル語講読Ⅲ	1	2	秋		
◆ ポルトガル語作文Ⅲ	1	2	秋		
◆ 総合ポルトガル語演習Ⅴ	1	3	春		
◆ ポルトガル語上級会話Ⅰ	1	3	春		
◆ ポルトガル語講読Ⅳ	1	3	春		
◆ ポルトガル語応用演習Ⅰ	1	3	春		
◆ 総合ポルトガル語演習Ⅵ	1	3	秋		
◆ ポルトガル語上級会話Ⅱ	1	3	秋		
◆ ポルトガル語講読Ⅴ	1	3	秋		
◆ ポルトガル語応用演習Ⅱ	1	3	秋		
◆ ポルトガル語応用演習Ⅲ-1	1	4	春		
◆ ポルトガル語応用演習Ⅲ-2	1	4	秋		

< 中国語学科 (必修) >

配当年次に従い、34 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項	
中国語基礎演習 I (週 2 回授業)	2	1	春	① 授業科目のクラス (担当者) を指定します。 ② 「週 2 回授業」 は必ず 2 回とも履修してください。	
視聴覚中国語 I	1	1	春		
中国語会話 I - A	1	1	春		
中国語会話 I - B	1	1	春		
中国語発音	1	1	春		
中国語基礎演習 II (週 2 回授業)	2	1	秋		
視聴覚中国語 II	1	1	秋		
中国語会話 II - A	1	1	秋		
中国語会話 II - B	1	1	秋		
中国語作文 I	1	1	秋		
◆ 視聴覚中国語 III	1	2	春		① 授業科目は習熟度別クラスで行い、クラス (担当者) を指定します。 ② ◆印科目は中国語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)
◆ 中国語会話 III - A	1	2	春		
◆ 中国語会話 III - B	1	2	春		
◆ 中国語講読 I	1	2	春		
◆ 中国語作文 II	1	2	春		
◆ 視聴覚中国語 IV	1	2	秋		
◆ 中国語会話 IV - A	1	2	秋		
◆ 中国語会話 IV - B	1	2	秋		
◆ 中国語講読 II	1	2	秋		
◆ 中国語作文 III	1	2	秋		
◆ 視聴覚中国語 V	1	3	春		
◆ 中国語会話 V	1	3	春		
◆ 中国語講読 III	1	3	春		
◆ 中国語作文 IV	1	3	春		
◆ 視聴覚中国語 VI	1	3	秋		
◆ 中国語会話 VI	1	3	秋		
◆ 中国語講読 IV	1	3	秋		
◆ 中国語作文 V	1	3	秋		
◆ 中国語会話 VII	1	4	春		
◆ 中国語作文 VI	1	4	春		
◆ 中国語会話 VIII	1	4	秋		
◆ 中国語作文 VII	1	4	秋		

< イタリア語学科 (必修) >

配当年次に従い、34 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項	
基礎イタリア語 I (週 2 回授業)	2	1	春	① 授業科目のクラス (担当者) を指定します。 ② 「週 2 回授業」 は必ず 2 回とも履修してください	
イタリア語会話 I - 1	1	1	春		
イタリア語会話 I - 2	1	1	春		
イタリア語総合演習 I (週 2 回授業)	2	1	春		
基礎イタリア語 II (週 2 回授業)	2	1	秋		
イタリア語会話 II - 1	1	1	秋		
イタリア語会話 II - 2	1	1	秋		
イタリア語総合演習 II (週 2 回授業)	2	1	秋		
◆ イタリア語会話 III - 1	1	2	春		① 授業科目は習熟度別クラスで行い、クラス (担当者) を指定します。 ② ◆印科目はイタリア語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)
◆ イタリア語会話 III - 2	1	2	春		
◆ 実践イタリア語 I - 1	1	2	春		
◆ 実践イタリア語 I - 2	1	2	春		
◆ イタリア語総合演習 III	1	2	春		
◆ イタリア地域比較文化 I	1	2	春		
◆ イタリア語会話 IV - 1	1	2	秋		
◆ イタリア語会話 IV - 2	1	2	秋		
◆ 実践イタリア語 II - 1	1	2	秋		
◆ 実践イタリア語 II - 2	1	2	秋		
◆ イタリア語総合演習 IV	1	2	秋		
◆ イタリア地域比較文化 II	1	2	秋		
◆ イタリア語会話 V - 1	1	3	春		
◆ イタリア語会話 V - 2	1	3	春		
◆ 実践イタリア語 III	1	3	春		
◆ イタリア語総合演習 V	1	3	春		
◆ イタリア語会話 VI - 1	1	3	秋		
◆ イタリア語会話 VI - 2	1	3	秋		
◆ 実践イタリア語 IV	1	3	秋		
◆ イタリア語総合演習 VI	1	3	秋		
◆ イタリア語総合演習 VII	1	4	春		
◆ イタリア語総合演習 VIII	1	4	秋		

2 【専門科目】

日本語学科	日本語教員・国語教員・日本文化の紹介者等として活躍できるように、日本語学・日本文化・日本語教育の基礎的な知識の修得を目標とします。
--------------	---

< 日本語学科 (必修) >

配当年次に従い、24 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
日本語学の基礎知識 I	2	1	春	授業科目のクラス (担当者) を指定します。
日本文化の基礎知識 I	2	1	春	
日本語教育の基礎知識 I	2	1	春	
日本語学の基礎知識 II	2	1	秋	
日本文化の基礎知識 II	2	1	秋	
日本語教育の基礎知識 II	2	1	秋	
日本語の歴史 I	2	2	春	
言語学概論 I	2	2	春	
日本近代文学 I	2	2	春	
日本語の歴史 II	2	2	秋	
言語学概論 II	2	2	秋	
日本近代文学 II	2	2	秋	

3 【第2外国語科目】

第2外国語科目

専攻する言語のほかに、もう一つの外国語を学ぶことにより、その運用能力を高めることを目標とする。また、その外国語の運用能力をさらに高めるとともに、その言語についての専門的理解を深めることを目標とします。

以下の言語の中から専攻する言語以外で、母語以外の外国語を1つ選択し、配当年次に従い、8単位を修得してください。[日本語学科の日本語を母語としない人(学籍番号下3桁が600番台の人)は除きます。]

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
英語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	春	① 1年次生は、所定の期間に予備登録を行い、指定クラスの担当者を履修登録画面で確認してください。 ② 2年次生は、1年次に選択した外国語のクラスを履修登録画面で確認してください。 ③ 「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。 ④ 授業科目時間割表にペアが記載されている授業科目は、必ず同じペアで履修してください。 ⑤ 1年次の予備登録で選択した外国語は変更できません。
英語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	1	秋	
英語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	春	
英語Ⅳ-1・Ⅳ-2	各1	2	秋	
基礎スペイン語(週2回授業)	2	1	春	
スペイン語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
スペイン語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
スペイン語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎フランス語(週2回授業)	2	1	春	
フランス語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
フランス語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
フランス語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎ドイツ語(週2回授業)	2	1	春	
ドイツ語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
ドイツ語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
ドイツ語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎ポルトガル語(週2回授業)	2	1	春	
ポルトガル語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
ポルトガル語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
ポルトガル語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎中国語(週2回授業)	2	1	春	
中国語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
中国語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
中国語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎イタリア語(週2回授業)	2	1	春	
イタリア語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
イタリア語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
イタリア語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎アラビア語(週2回授業)	2	1	春	
アラビア語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
アラビア語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
アラビア語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎オランダ語(週2回授業)	2	1	春	
オランダ語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
オランダ語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
オランダ語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	
基礎ロシア語(週2回授業)	2	1	春	
ロシア語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	1	秋	
ロシア語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	春	
ロシア語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	2	秋	

4 【第3外国語科目】

第3外国語科目

専攻語と第2外国語のほかに、外国語を学ぶことによって、広く言語についての理解と洞察力を身につけることを目標とします。

専攻する言語および第2外国語科目で選択した言語以外で母語以外の言語を、新たに第3外国語として配当年次に従い、履修することができます。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
ラテン語Ⅰ	1	2	春	① 「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。 ② 授業科目時間割表にペアが記載されている科目は、必ず同じペアで履修してください。 ③ 修得した単位は自由選択に算入します。
ラテン語Ⅱ	1	2	秋	
ギリシア語Ⅰ	1	2	春	
ギリシア語Ⅱ	1	2	秋	
インドネシア語Ⅰ	1	2	春	
インドネシア語Ⅱ	1	2	秋	
トルコ語Ⅰ	1	2	春	
トルコ語Ⅱ	1	2	秋	
インド語Ⅰ	1	2	春	
インド語Ⅱ	1	2	秋	
タイ語Ⅰ	1	2	春	
タイ語Ⅱ	1	2	秋	
ベトナム語Ⅰ	1	2	春	
ベトナム語Ⅱ	1	2	秋	
スワヒリ語Ⅰ	1	2	春	
スワヒリ語Ⅱ	1	2	秋	
英語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	春	
英語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	2	秋	
英語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	春	
英語Ⅳ-1・Ⅳ-2	各1	3	秋	
基礎スペイン語(週2回授業)	2	2	春	
スペイン語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
スペイン語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
スペイン語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎フランス語(週2回授業)	2	2	春	
フランス語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
フランス語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
フランス語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎ドイツ語(週2回授業)	2	2	春	
ドイツ語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
ドイツ語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
ドイツ語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎ポルトガル語(週2回授業)	2	2	春	
ポルトガル語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
ポルトガル語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
ポルトガル語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎中国語(週2回授業)	2	2	春	
中国語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
中国語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
中国語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎イタリア語(週2回授業)	2	2	春	
イタリア語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
イタリア語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
イタリア語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎アラビア語(週2回授業)	2	2	春	
アラビア語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
アラビア語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
アラビア語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎オランダ語(週2回授業)	2	2	春	
オランダ語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
オランダ語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
オランダ語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	
基礎ロシア語(週2回授業)	2	2	春	
ロシア語Ⅰ-1・Ⅰ-2	各1	2	秋	
ロシア語Ⅱ-1・Ⅱ-2	各1	3	春	
ロシア語Ⅲ-1・Ⅲ-2	各1	3	秋	

5 【外国語強化科目】

外国語強化科目

専攻語あるいは第2外国語・第3外国語として学ぶ各言語について、より実践的な運用能力を高めるとともに、ハイレベルな各種語学検定試験にも合格することを目標とします。

配当年次に従い、卒業に必要な単位を修得してください。

外国語強化科目には、「英語インテンシブ」「初習外国語インテンシブ」「英語通訳・翻訳インテンシブ」「英語教員養成インテンシブ」「日本語インテンシブ」「TOEIC 集中対策」があり、「日本語インテンシブ」「TOEIC 集中対策」以外は、それぞれにレベルを設定し履修基準を設けています。

履修上の注意点

外国語強化科目の卒業要件単位数は、インターミディエイト以上または「英語通訳・翻訳インテンシブ」「英語教員養成インテンシブ」の授業科目の単位を含めて修得する必要があります。したがって、エレメンタリーおよび「TOEIC 集中対策」の授業科目の修得単位のみで卒業要件単位数を満たしても卒業することができませんので、充分注意してください。（「日本語インテンシブ」を除く。）

■ 履修基準を満たした場合の申請手続き

履修基準を満たした場合はそれを証明する手続きが必要となりますので、以下のとおり手続きを行ってください。

インターミディエイトまたはアドバンストの履修基準を満たした場合は、下記の要領で申請手続きを行ってください。原則として、各学期の授業期間中にアカデミック・アドバイザーに証明書を提出し承認を受けられれば、次の学期から承認を受けたレベルの授業科目を履修することができます。

ただし、学内で実施する「TOEIC L&R(IP)」および「学内語学統一試験」については、受験後に「学生サポートシステム」に結果を反映しますので、申請手続きは不要です。履修基準を満たしていれば、次の学期から当該レベルの授業科目を履修することができます。

【申請の方法】

< 検定試験結果の入力 >

学生サポートシステムで検定試験の結果を入力して「申請」

< 証明書の提出 >

申請した語学検定試験の証明書をアカデミック・アドバイザーに提出

< 承認結果の確認 >

学生サポートシステムで承認結果を確認

【申請の期間】

原則として各学期の授業期間中としますが、語学検定試験の日程の関係で、結果発表日が夏期あるいは春期休暇中になる場合は、事前にアカデミック・アドバイザーに相談してください。**各学期の承認期限（「Campus Schedule」参照）までに承認を受けた人は次の学期から当該レベルの授業科目を履修することができます。**

※スペイン語・フランス語・ドイツ語・ブラジルポルトガル語・中国語・イタリア語学科の編入学生が、専攻する言語と同じ言語の外国語強化科目を履修する場合は、履修基準を満たしていなくてもインターミディエイトの授業科目を履修することができます。

注 資格検定試験の単位認定については、別途手続きが必要です。

[英語インテンシブ]

レベル	授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修基準
エレメンタリー	TOEIC Listening I	1	1	春	※英米語学科で指定した人のみが履修できる授業科目です。
	TOEIC Listening II	1	1	秋	
	TOEIC Reading I	1	1	春	
	TOEIC Reading II	1	1	秋	
	TOEIC Reading III	1	2	春	
	TOEIC Reading IV	1	2	秋	
	TOEIC Workshop III	1	2	春	
	TOEIC Workshop IV	1	2	秋	
	Pronunciation Clinic	1	1	春/秋	
	E-Learning(Tutorial Studies)	1	1	春/秋	
編入学時認定科目 (英語)	1~8	—	—		
インテリジェント	Intermediate TOEIC Workshop	2	1	春/秋	① TOEIC L&R (IP を含む) 550 点以上 ② TOEFL iBT 57 点以上 ③ IELTS 4.5 以上
	Intermediate IELTS Workshop	2	1	春/秋	
	Intermediate TOEFL Workshop	2	1	春/秋	
	Media English I	2	2	春	
	Discussion Skills I	2	2	春	
	Discussion Skills II	2	2	秋	
	Public Speaking I	2	2	春	
	Public Speaking II	2	2	秋	
	Debate I	2	2	春	
	Debate II	2	2	秋	
	English at the Office I	2	2	春	
	English at the Office II	2	2	秋	
	English for Airlines I	2	2	春	
	English for Airlines II	2	2	秋	
	English for Hotels I	2	2	春	
	English for Hotels II	2	2	秋	
	Screen English I	2	2	春	
	Screen English II	2	2	秋	
	Intercultural Communication in Practice I	2	2	春	
	Intercultural Communication in Practice II	2	2	秋	
Topic Study A-1 (京都研究)	2	2	春/秋		
Topic Study A-2 (京都研究)	2	2	春/秋		
Topic Study A-3 (京都研究)	2	2	春/秋		
Topic Study A-4 (京都研究)	2	2	春/秋		
国内・海外留学認定科目 (英語)	1~20	—	—		
アドバンス	Advanced TOEIC Workshop I	2	1	春/秋	① TOEIC L&R (IP を含む) 650 点以上 ② TOEFL iBT 68 点以上 ③ IELTS 5 以上 ④ 実用英語技能検定 準1 級以上
	Advanced TOEIC Workshop II	2	2	春/秋	
	Advanced IELTS Workshop I	2	1	春/秋	
	Advanced IELTS Workshop II	2	2	春/秋	
	Advanced TOEFL Workshop I	2	1	春/秋	
	Advanced TOEFL Workshop II	2	2	春/秋	
	Media English II	2	2	春	
	Integrated Skills Workshop	2	2	秋	
	Public Speaking III	2	2	春	
	Public Speaking IV	2	2	秋	
	Debate III	2	2	春	
	Debate IV	2	2	秋	
	英語資格検定試験 (113 ページ参照)	2	—	—	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

I 大学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

[初習外国語インテンシブ]

レベル	授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修基準		
スペイン語	エレメンタリー	資格スペイン語演習Ⅰ	1	1	秋	① スペイン語技能検定試験 4級以上 ② 学内スペイン語統一試験 50点以上	
	資格スペイン語演習Ⅱ	1	2	春			
	トピック・スタディE-5	1	2	春			
	トピック・スタディE-6	1	2	秋			
	資格スペイン語演習Ⅲ	2	2	春			
	資格スペイン語演習Ⅳ	2	2	秋			
	トピック・スタディE-7	2	2	春			
	トピック・スタディE-8	2	2	秋			
	トピック・スタディE-9	2	2	春			
	トピック・スタディE-10	2	2	秋			
	スペイン語世界の言葉Ⅰ	2	2	春			
	スペイン語世界の言葉Ⅱ	2	2	秋			
	スペイン語上級文法Ⅰ	2	3	春			
	スペイン語上級文法Ⅱ	2	3	秋			
	ビジネススペイン語Ⅰ	2	3	春			
	ビジネススペイン語Ⅱ	2	3	秋			
	トピック・スタディE-1(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディE-2(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディE-3(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディE-4(京都研究)	2	2	春/秋			
	編入学時認定科目(スペイン語)	1~8	—	—			
	国内・海外留学認定科目(スペイン語)	1~20	—	—			
	アドバンスト	スペイン語通訳・翻訳演習Ⅰ	2	3	春		① DELE A2以上 ② 学内スペイン語統一試験 70点以上
	スペイン語通訳・翻訳演習Ⅱ	2	3	秋			
	スペイン語通訳・翻訳演習Ⅲ	2	4	春			
	スペイン語通訳・翻訳演習Ⅳ	2	4	秋			
資格スペイン語演習Ⅴ	2	3	春				
資格スペイン語演習Ⅵ	2	3	秋				
スペイン語資格検定試験(113ページ参照)	2	—	—				
フランス語	エレメンタリー	資格フランス語Ⅰ	1	1	秋	① 実用フランス語技能検定試験 3級以上 ② 学内フランス語統一試験 50点以上	
	資格フランス語Ⅱ	1	1	秋			
	資格フランス語Ⅲ	1	2	春			
	フランス語基礎Ⅰ-1	1	1	秋			
	フランス語基礎Ⅰ-2	1	1	秋			
	フランス語基礎Ⅱ	1	2	春			
	PONT SONORE	2	2	春/秋			
	資格フランス語Ⅳ	2	1	秋			
	資格フランス語Ⅴ	2	2	春			
	資格フランス語Ⅵ	2	2	春			
	資格フランス語Ⅶ	2	2	秋			
	応用フランス語Ⅰ	2	2	秋			
	応用フランス語Ⅱ	2	3	春			
	上級フランス語会話Ⅰ	2	2	秋			
	上級フランス語会話Ⅱ	2	3	春			
	フランス語作品研究Ⅰ	2	2	秋			
	フランス語作品研究Ⅱ	2	3	春			
	時事フランス語Ⅰ	2	3	春			
	時事フランス語Ⅱ	2	3	秋			
	ビジネスフランス語Ⅰ	2	3	春			
	ビジネスフランス語Ⅱ	2	3	秋			
	トピック・スタディF-1(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディF-2(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディF-3(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディF-4(京都研究)	2	2	春/秋			
	編入学時認定科目(フランス語)	1~8	—	—			
	国内・海外留学認定科目(フランス語)	1~20	—	—			
	フランス語資格検定試験(113ページ参照)	2	—	—			
	アドバンスト	上級者のためのフランス語演習1	2	1	春		① 実用フランス語技能検定試験 2級以上 ② 学内フランス語統一試験 85点以上 ③ DELF・DALF B1以上 ④ TCF 300以上
	上級者のためのフランス語演習2	2	1	秋			
上級者のためのフランス語演習3	2	2	春				
上級者のためのフランス語演習4	2	2	秋				
上級者のためのフランス語演習5	2	3	春				
上級者のためのフランス語演習6	2	3	秋				
上級者のためのフランス語演習7	2	4	春				
上級者のためのフランス語演習8	2	4	秋				
資格フランス語Ⅷ	2	2	春				
資格フランス語Ⅸ	2	2	秋				
翻訳通訳フランス語Ⅰ	2	3	春				
翻訳通訳フランス語Ⅱ	2	3	秋				

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

レベル	授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修基準		
ドイツ語	エレメンタリー	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	秋	① ドイツ語技能検定試験 4級以上 ② ゲーテ・インスティトゥート A1以上 ③ 学内ドイツ語統一試験 60点以上	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1	2	春			
	ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	秋			
	インターミディエイティブ	資格ドイツ語初級	2	2	春		
		資格ドイツ語中級1	2	2	秋		
		Landeskunde 1	2	2	春		
		Landeskunde 2	2	2	秋		
		国際ドイツ語検定対策3	2	2	秋		
		国際ドイツ語検定対策4	2	3	春		
		時事ドイツ語1	2	3	春		
		時事ドイツ語2	2	3	秋		
		トピック・スタディG-1(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディG-2(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディG-3(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディG-4(京都研究)	2	2	春/秋		
	編入学時認定科目(ドイツ語)	1~8	—	—			
	国内・海外留学認定科目(ドイツ語)	1~20	—	—			
	アドバンスト	資格ドイツ語中級2	2	2	秋		① ドイツ語技能検定試験 3級以上 ② ゲーテ・インスティトゥート A2以上 ③ 学内ドイツ語統一試験 80点以上
		Landeskunde 3	2	2	春		
		Landeskunde 4	2	2	秋		
ドイツ語学演習1		2	3	春			
ドイツ語学演習2		2	3	秋			
ビジネスドイツ語1		2	3	春			
ビジネスドイツ語2		2	3	秋			
国際ドイツ語検定対策5		2	3	春			
国際ドイツ語検定対策6		2	3	秋			
ドイツ語ディベート1		2	3	春			
ドイツ語ディベート2		2	3	秋			
翻訳通訳ドイツ語1		2	2	秋			
翻訳通訳ドイツ語2		2	3	春			
ドイツ語資格検定試験(113ページ参照)	2	—	—				
ポルトガル語	エレメンタリー	ポルトガル語文法の基礎	1	1	秋	① 外国語としてのポルトガル語検定試験 準初級以上 ② 学内ポルトガル語統一試験 55点以上	
	ポルトガル語聴解の基礎	1	2	春			
	ポルトガル語読解の基礎	1	2	秋			
	ポルトガル語口頭表現の基礎	1	2	春			
	ポルトガル語文章表現の基礎	1	2	秋			
	インターミディエイティブ	ポルトガル語の音声Ⅰ	2	2	春		
		ポルトガル語の音声Ⅱ	2	2	秋		
		ポルトガル語聴解Ⅰ	2	2	春		
		ポルトガル語聴解Ⅱ	2	2	秋		
		ポルトガル語口頭表現Ⅰ	2	2	春		
		ポルトガル語口頭表現Ⅱ	2	2	秋		
		ポルトガル語文章表現Ⅰ	2	2	春		
		ポルトガル語文章表現Ⅱ	2	2	秋		
		ポルトガル語読解Ⅰ	2	2	春		
		ポルトガル語読解Ⅱ	2	2	秋		
		トピック・スタディH-1(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディH-2(京都研究)	2	2	春/秋		
	トピック・スタディH-3(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディH-4(京都研究)	2	2	春/秋			
	編入学時認定科目(ポルトガル語)	1~8	—	—			
国内・海外留学認定科目(ポルトガル語)	1~20	—	—				
アドバンスト	ポルトガル語聴解Ⅲ	2	2	春	① 外国語としてのポルトガル語検定試験 初級以上 ② 学内ポルトガル語統一試験 80点以上		
	ポルトガル語口頭表現Ⅲ	2	2	春			
	ポルトガル語読解Ⅲ	2	2	秋			
	ポルトガル語文章表現Ⅲ	2	2	秋			
	ポルトガル語資格検定試験(113ページ参照)	2	—	—			

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

Ⅰ 本学の概要

Ⅱ 学修する前に知っておくべきこと

Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

レベル	授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修基準		
中国語	エントリー	資格中国語Ⅰ	1	1	春	① 実用中国語技能検定試験 4級以上 ② 新HSK・旧HSK 3級以上 ③ 中国語検定試験 4級以上 ④ 学内中国語統一試験 60点以上	
		資格中国語Ⅱ	1	1	秋		
	インターメディアイト	ビジネス中国語Ⅰ	2	2	秋		
		ビジネス中国語Ⅱ	2	3	春		
		時事メディア中国語Ⅰ	2	2	秋		
		時事メディア中国語Ⅱ	2	3	春		
		資格中国語Ⅲ	2	2	春		
		資格中国語Ⅳ	2	2	秋		
		古典中国語Ⅰ	2	3	春		
		古典中国語Ⅱ	2	3	秋		
		中国語上級会話Ⅰ	2	3	春		
		中国語上級会話Ⅱ	2	3	秋		
		上級視聴覚中国語Ⅰ	2	4	春		
		上級視聴覚中国語Ⅱ	2	4	秋		
		トピック・スタディール1(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディール2(京都研究)	2	2	春/秋		
	トピック・スタディール3(京都研究)	2	2	春/秋			
	トピック・スタディール4(京都研究)	2	2	春/秋			
	編入学時認定科目(中国語)	1~8	—	—			
	国内・海外留学認定科目(中国語)	1~20	—	—			
アドバンス	ビジネス中国語Ⅲ	2	3	秋	① 実用中国語技能検定試験 3級以上 ② 新HSK・旧HSK 4級以上 ③ 中国語検定試験 3級以上 ④ 学内中国語統一試験 80点以上		
	ビジネス中国語Ⅳ	2	4	春			
	時事メディア中国語Ⅲ	2	3	秋			
	時事メディア中国語Ⅳ	2	4	春			
	翻訳通訳中国語Ⅰ	2	2	秋			
	翻訳通訳中国語Ⅱ	2	3	春			
	翻訳通訳中国語Ⅲ	2	3	秋			
	翻訳通訳中国語Ⅳ	2	4	春			
	プレゼン中国語	2	4	春			
	速読中国語	2	4	秋			
中国語資格検定試験(113ページ参照)	2	—	—				
イタリア語	エントリー	イタリア語基礎Ⅰ	1	1	秋	① 実用イタリア語検定試験 4級以上 ② CILS A1以上 ③ 学内イタリア語統一試験 60点以上	
		イタリア語基礎Ⅱ	1	2	春		
		イタリア語基礎Ⅲ	1	2	秋		
	インターメディアイト	資格イタリア語Ⅰ	2	2	春		
		資格イタリア語Ⅱ	2	2	秋		
		Grammatica in italianoⅠ	2	2	春		
		Grammatica in italianoⅡ	2	2	秋		
		イタリア語作文Ⅰ	2	3	春		
		イタリア語作文Ⅱ	2	3	秋		
		イタリア語中級会話Ⅰ	2	3	春		
		イタリア語中級会話Ⅱ	2	3	秋		
		トピック・スタディール1(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディール2(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディール3(京都研究)	2	2	春/秋		
		トピック・スタディール4(京都研究)	2	2	春/秋		
		編入学時認定科目(イタリア語)	1~8	—	—		
		国内・海外留学認定科目(イタリア語)	1~20	—	—		
	アドバンス	資格イタリア語Ⅲ	2	3	春		① 実用イタリア語検定試験 3級以上 ② CILS B1以上 ③ 学内イタリア語統一試験 80点以上
		イタリア語上級会話	2	3	秋		
		通訳イタリア語Ⅰ	2	3	春		
通訳イタリア語Ⅱ		2	3	秋			
イタリア語翻訳演習Ⅰ		2	3	春			
イタリア語翻訳演習Ⅱ		2	3	秋			
イタリア語資格検定試験(113ページ参照)		2	—	—			

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

[英語通訳・翻訳インテンシブ]

レベル	授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修基準	
英語	インターメディアイト	English for Interpreters & GuidesⅠ	2	2	春	① TOEIC L&R (IPを含む) 550点以上 ② TOEFL iBT 57点以上 ③ IELTS 4.5以上
		English for Interpreters & GuidesⅡ	2	2	秋	
		English-Japanese TranslationⅠ	2	2	春	
		Japanese-English TranslationⅠ	2	2	春	
	アドバンス	English for Interpreters & GuidesⅢ	2	2	春	
		English for Interpreters & GuidesⅣ	2	2	秋	
		English-Japanese TranslationⅡ	2	2	秋	
		Japanese-English TranslationⅡ	2	2	秋	
		Simultaneous InterpretationⅠ	2	2	春	
		Simultaneous InterpretationⅡ	2	2	秋	

[英語教員養成インテンシブ]

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修基準
Teaching Listening/Speaking and Pronunciation I	2	2	春	① TOEIC L&R (IPを含む) 550 点以上 ② TOEFL iBT 57 点以上 ③ IELTS 4.5 以上
Teaching Listening/Speaking and Pronunciation II	2	2	春	
Teaching Grammar I	2	2	秋	
Teaching Grammar II	2	2	秋	
How Languages are Learned in TEFL I	2	2	春	
How Languages are Learned in TEFL II	2	2	秋	
Foreign Language Activities in Elementary School	2	2	秋	
Teaching English for Young Language Learners	2	2	春	
Learning and Teaching English I	2	2	春	
Learning and Teaching English II	2	3	秋	
Second Language Acquisition in TEFL	2	3	春	
Teaching and Testing	2	3	春	
TEFL Special Studies	2	3	春	
English Teaching Workshop I (for Junior high schools)	2	3	秋	
English Teaching Workshop II (for Senior high schools)	2	3	秋	

[日本語インテンシブ]

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修対象者等
日本語 A-1 (アカデミック)	1	1	春	① 日本語を母語としない人 (日本語学科は学籍番号の下3桁が600番台の人) で、日本語能力の強化が必要と所属学科が判断した人を履修対象者とします。 ② 日本語学科の日本語を母語としない人 (学籍番号の下3桁が600番台の人) が履修する1年次配当の授業科目は学科が指定します。 ③ 日本語学科以外の日本語を母語としない人で、日本語能力の強化が必要と所属学科が判断した人が修得した単位は、自由選択の単位に算入します。
日本語 A-2 (アカデミック)	1	1	春	
日本語 A-3 (アカデミック)	1	1	秋	
日本語 A-4 (アカデミック)	1	1	秋	
日本語 A-5 (アカデミック)	1	2	春	
日本語 A-6 (アカデミック)	1	2	春	
日本語 A-7 (アカデミック)	1	2	秋	
日本語 A-8 (アカデミック)	1	2	秋	
日本語 A-9 (アカデミック)	1	3	春	
日本語 A-10 (アカデミック)	1	3	秋	
日本語 B-1 (ブラッシュアップ)	1	1	春	
日本語 B-2 (ブラッシュアップ)	1	1	春	
日本語 B-3 (ブラッシュアップ)	1	1	春	
日本語 B-4 (ブラッシュアップ)	1	1	秋	
日本語 B-5 (ブラッシュアップ)	1	1	秋	
日本語 B-6 (ブラッシュアップ)	1	1	秋	
日本語 B-7 (ブラッシュアップ)	1	2	春	
日本語 B-8 (ブラッシュアップ)	1	2	春	
日本語 B-9 (ブラッシュアップ)	1	2	春	
日本語 B-10 (ブラッシュアップ)	1	2	秋	
日本語 B-11 (ブラッシュアップ)	1	2	秋	
日本語 B-12 (ブラッシュアップ)	1	2	秋	
日本語 C-1 (キャッチアップ)	1	1	春	
日本語 C-2 (キャッチアップ)	1	1	春	
日本語 C-3 (キャッチアップ)	1	1	春	
日本語 C-4 (キャッチアップ)	1	1	春	
日本語 C-5 (キャッチアップ)	1	1	春	
日本語 C-6 (キャッチアップ)	1	1	秋	
日本語 C-7 (キャッチアップ)	1	1	秋	
日本語 C-8 (キャッチアップ)	1	1	秋	
日本語 C-9 (キャッチアップ)	1	1	秋	
日本語 C-10 (キャッチアップ)	1	1	秋	
編入学時認定科目 (日本語)	1~12	—	—	
国内・海外留学認定科目 (日本語)	1~20	—	—	
日本語音声学概論	2	1	春	日本語学科の日本語教員養成専攻履修者および日本語以外の学科の日本語教員養成プログラム履修者を対象とします。
日本語音声表現法	2	1	秋	
第二言語習得論	2	2	春	
資格日本語教育	2	2	秋	
日本語表記法	2	2	秋	
日本語のスキル1	2	1	春	
日本語のスキル2-1	2	2	春	
日本語のスキル2-2	2	2	秋	
日本語のスキル3	2	2	秋	
日本語のスキル4	2	2	秋	
日本語のスキル5	2	3	春	
日本語のスキル6	2	3	秋	
日本語のスキル7	2	3	春	
日本語のスキル8	2	3	秋	
編入学時認定科目 (日本語)	1~12	—	—	
国内・海外留学認定科目 (日本語)	1~20	—	—	

[TOEIC 集中対策]

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修対象者等
TOEIC Intensive I	2	1	春	英米語学科以外の学生で、目安として TOEIC L&R (IPを含む) で 300~545 点を取得した人を対象とします。
TOEIC Intensive II	2	1	秋	
TOEIC Intensive III	2	2	春	
TOEIC Intensive IV	2	2	秋	

6 【専門特別演習科目】

日本語学科

日本語教員・国語教員・日本文化の紹介者等として必要な、実践的な日本語の運用能力・研究能力および教授法の修得を目標とします。

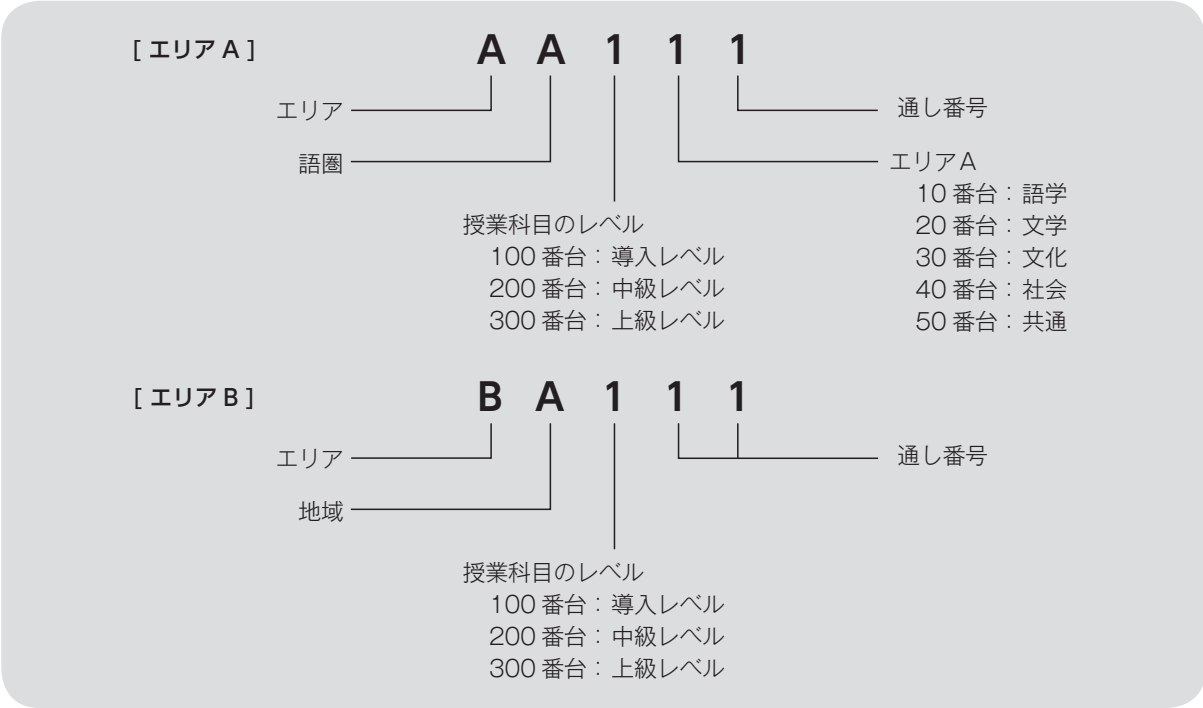
配当年次に従い、10 単位を修得してください。

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
◆ 漢文学Ⅰ	2	1	春	① 卒業に必要な単位数を超えて修得した単位は自由選択に算入します。 ② ◆印は日本語学科以外の学生も履修できる授業科目です。(学科間開放)
◆ 漢文学Ⅱ	2	1	秋	
◆ 日本の伝統文化Ⅰ	2	1	春	
◆ 日本の伝統文化Ⅱ	2	1	秋	
書道Ⅰ	2	1	秋	
書道Ⅱ	2	2	春	
◆ 京都モノ学Ⅰ	2	1	春	
◆ 京都モノ学Ⅱ	2	1	秋	
日本語学特論Ⅰ	2	3	春	
日本語学特論Ⅱ	2	3	秋	
日本文学特論Ⅰ	2	3	春	
日本文学特論Ⅱ	2	3	秋	
日本文化特論Ⅰ	2	3	春	
日本文化特論Ⅱ	2	3	秋	
実践日本語教育Ⅰ	2	1	秋	
実践日本語教育Ⅱ	2	2	春	
実践日本語教育Ⅲ	2	3	秋	
日本語教育と国語教育Ⅰ	2	3	春	
日本語教育と国語教育Ⅱ	2	3	秋	
日本語教育実習Ⅰ	2	4	春	
日本語教育実習Ⅱ	2	4	秋	
国内外日本語教壇実習	1～8	—	—	
編入学時認定科目	1～4	—	—	
日本語資格検定試験 (113 ページ参照)	2	—	—	

展 開

1 【グローバル・スタディ科目群】

グローバル・スタディ科目群は、「エリア A」と「エリア B」に分けています。
 配当年次に従い、「エリア A」は各学科が指定する授業科目の中で定められた単位を、「エリア B」は6単位を修得したうえで、「エリア A」と「エリア B」から合わせて20単位（日本語学科は24単位）を修得してください。
 また、各授業科目にはナンバリング（記号と番号）を付けています。ナンバリングによって授業科目の分野やレベル履修順序などを読み取ることができます。ナンバリングの意味は以下のとおりです。



※ 100 番台から順に履修することを目安としてください。

[エリア A]

各言語圏の言語・文学・文化・社会についての観察・考察を進め、高い専門性を有する見解を提示する能力を身につけることを目標とします。

英語圏の言語・文化・社会 (AA)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
△ 英語学概論	AA111	2	2	春/秋	英米語学科の人は、学科指定 (46 ページ参照) として△印の授業科目から 8 単位を必ず修得してください。
英語語法文法 I	AA112	2	2	秋	
英語意味論	AA113	2	2	秋	
実践英語学	AA114	2	2	秋	
英語音声学	AA115	2	2	秋	
英語形態論	AA116	2	2	秋	
英語統語論 I	AA117	2	2	秋	
△ 英米の文学と芸術入門 I	AA121	2	2	春	
△ 英米の文学と芸術入門 II	AA122	2	2	秋	
△ 英米社会研究入門 I	AA141	2	2	春	
△ 英米社会研究入門 II	AA142	2	2	秋	
△ 英米地域研究入門 I	AA151	2	2	春	
△ 英米地域研究入門 II	AA152	2	2	秋	
英語圏の言語と社会	AA153	2	2	秋	
英語語法文法 II	AA211	2	3	春	
英語語用論	AA212	2	3	春	
英語学特殊研究	AA213	2	3	秋	
英語音韻論	AA214	2	3	春	
英語統語論 II	AA215	2	3	春	
英語統語論 III	AA216	2	3	秋	
言語研究ゼミ I	AA217	2	3	春	
言語研究ゼミ II	AA218	2	3	秋	
英語圏文学と芸術の研究 I	AA221	2	3	春	
英語圏文学と芸術の研究 II	AA222	2	3	秋	
比較文化特殊研究	AA231	2	3	秋	
比較文化研究ゼミ I	AA232	2	3	春	
比較文化研究ゼミ II	AA233	2	3	秋	
英語圏社会研究 I	AA241	2	3	春	
英語圏社会研究 II	AA242	2	3	秋	
英語圏地域研究 I	AA251	2	3	春	
英語圏地域研究 II	AA252	2	3	秋	
英語圏の言語と文化	AA253	2	3	春	
英語教育研究ゼミ I	AA254	2	3	春	
英語教育研究ゼミ II	AA255	2	3	秋	
言語研究ゼミ III	AA311	2	4	春	
言語研究ゼミ IV	AA312	2	4	秋	
比較文化研究ゼミ III	AA331	2	4	春	
比較文化研究ゼミ IV	AA332	2	4	秋	
英語教育研究ゼミ III	AA351	2	4	春	
英語教育研究ゼミ IV	AA352	2	4	秋	
△ 編入学時認定科目 (英語圏)		1~4	—	—	
△ 国内・海外留学認定科目 (英語圏)		1~8	—	—	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

スペイン語圏の言語・文化・社会 (AB)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
△ スペイン語学入門 I	AB111	2	2	春	スペイン語学科の人は、学科指定 (46 ページ参照) として▲印の授業科目 4 単位を、△印の授業科目から 4 単位を必ず修得してください。
△ スペイン語学入門 II	AB112	2	2	秋	
△ スペイン語圏芸術入門 I	AB121	2	2	春	
△ スペイン語圏芸術入門 II	AB122	2	2	秋	
△ ラテンアメリカ文明史 I	AB131	2	2	春	
△ ラテンアメリカ文明史 II	AB132	2	2	秋	
△ スペインの社会と文化 I	AB141	2	2	春	
△ スペインの社会と文化 II	AB142	2	2	秋	
▲ スペイン語圏の基礎知識 I	AB151	2	1	春	
▲ スペイン語圏の基礎知識 II	AB152	2	1	秋	
△ スペイン語の歴史 I	AB211	2	3	春	
△ スペイン語の歴史 II	AB212	2	3	秋	
スペイン語圏言語ゼミ I	AB213	2	3	春	
スペイン語圏言語ゼミ II	AB214	2	3	秋	
△ スペイン語圏文学作品研究 I	AB221	2	3	春	
△ スペイン語圏文学作品研究 II	AB222	2	3	秋	
スペイン語圏芸術ゼミ I	AB231	2	3	春	
スペイン語圏芸術ゼミ II	AB232	2	3	秋	
スペイン語圏歴史ゼミ I	AB233	2	3	春	
スペイン語圏歴史ゼミ II	AB234	2	3	秋	
スペイン語圏社会ゼミ I	AB241	2	3	春	
スペイン語圏社会ゼミ II	AB242	2	3	秋	
スペイン語圏言語ゼミ III	AB311	2	4	春	
スペイン語圏言語ゼミ IV	AB312	2	4	秋	
スペイン語圏芸術ゼミ III	AB331	2	4	春	
スペイン語圏芸術ゼミ IV	AB332	2	4	秋	
スペイン語圏歴史ゼミ III	AB333	2	4	春	
スペイン語圏歴史ゼミ IV	AB334	2	4	秋	
スペイン語圏社会ゼミ III	AB341	2	4	春	
スペイン語圏社会ゼミ IV	AB342	2	4	秋	
△ 編入学時認定科目 (スペイン語圏)		1~2	—	—	
△ 国内・海外留学認定科目 (スペイン語圏)		1~4	—	—	

フランス語圏の言語・文化・社会 (AC)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
▲ フランス語学の基礎知識	AC111	2	2	春	フランス語学科の人は、学科指定(46ページ参照)として▲印の授業科目8単位を必ず修得してください。
フランス語史Ⅰ	AC112	2	2	春	
フランス語史Ⅱ	AC113	2	2	秋	
フランス語学概論Ⅰ	AC114	2	2	春	
フランス語学概論Ⅱ	AC115	2	2	秋	
▲ フランス文学の基礎知識	AC121	2	2	秋	
フランス文学史Ⅰ	AC122	2	2	春	
フランス文学史Ⅱ	AC123	2	2	秋	
フランス文学概論Ⅰ	AC124	2	2	春	
フランス文学概論Ⅱ	AC125	2	2	秋	
フランス文化概論Ⅰ	AC131	2	2	春	
フランス文化概論Ⅱ	AC132	2	2	秋	
フランス文化史Ⅰ	AC133	2	2	春	
フランス文化史Ⅱ	AC134	2	2	秋	
▲ フランスの基礎知識Ⅰ	AC151	2	1	春	
▲ フランスの基礎知識Ⅱ	AC152	2	1	秋	
フランス語学トピックスタディ	AC211	2	3	秋	
フランス語学演習Ⅰ	AC212	2	3	春	
フランス語学演習Ⅱ	AC213	2	3	秋	
フランス語学ゼミⅠ	AC214	2	3	春	
フランス語学ゼミⅡ	AC215	2	3	秋	
フランス文学トピックスタディ	AC221	2	3	秋	
フランス文学演習Ⅰ	AC222	2	3	春	
フランス文学演習Ⅱ	AC223	2	3	秋	
フランス文学ゼミⅠ	AC224	2	3	春	
フランス文学ゼミⅡ	AC225	2	3	秋	
フランス文化トピックスタディ	AC231	2	3	春	
フランス文化演習Ⅰ-1	AC232	2	3	春	
フランス文化演習Ⅱ-1	AC233	2	3	秋	
フランス文化演習Ⅰ-2	AC234	2	3	春	
フランス文化演習Ⅱ-2	AC235	2	3	秋	
フランス文明論	AC236	2	3	春	
フランス文化ゼミⅠ	AC237	2	3	春	
フランス文化ゼミⅡ	AC238	2	3	秋	
フランス社会トピックスタディ	AC241	2	3	秋	
フランス語学ゼミⅢ	AC311	2	4	春	
フランス語学ゼミⅣ	AC312	2	4	秋	
フランス文学ゼミⅢ	AC321	2	4	春	
フランス文学ゼミⅣ	AC322	2	4	秋	
フランス文化ゼミⅢ	AC331	2	4	春	
フランス文化ゼミⅣ	AC332	2	4	秋	

ドイツ語圏の言語・文化・社会 (AD)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
▲ ドイツ語学の基礎知識	AD111	2	2	春	ドイツ語学科の人は、学科指定(46ページ参照)として▲印の授業科目8単位を必ず修得してください。
ドイツ語学概論	AD112	2	2	秋	
▲ ドイツ文学の基礎知識	AD121	2	2	春	
ドイツ文学概論	AD122	2	2	秋	
▲ ドイツ語圏の文化	AD131	2	1	春	
ドイツ文化概論	AD132	2	2	春	
▲ ドイツ語圏の社会	AD141	2	1	秋	
ドイツ語圏の現代事情Ⅰ	AD142	2	2	春	
ドイツ語圏の現代事情Ⅱ	AD143	2	2	秋	
ドイツ語圏の言語と文化ゼミⅠ	AD211	2	3	春	
ドイツ語圏の言語と文化ゼミⅡ	AD212	2	3	秋	
ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅠ	AD221	2	3	春	
ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅡ	AD222	2	3	秋	
ドイツ音楽史Ⅰ	AD231	2	3	春	
ドイツ音楽史Ⅱ	AD232	2	3	秋	
ドイツ文化演習Ⅰ	AD233	2	3	春	
ドイツ文化演習Ⅱ	AD234	2	3	秋	
ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅠ	AD241	2	3	春	
ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅡ	AD242	2	3	秋	
ドイツ語圏の言語と文化ゼミⅢ	AD311	2	4	春	
ドイツ語圏の言語と文化ゼミⅣ	AD312	2	4	秋	
ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅢ	AD321	2	4	春	
ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅣ	AD322	2	4	秋	
ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅢ	AD341	2	4	春	
ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅣ	AD342	2	4	秋	

ブラジルポルトガル語圏の言語・文化・社会 (AE)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
▲ ポルトガル文化圏語学の基礎	AE111	2	1	春	ブラジルポルトガル語学科の人は、 学科指定 (46 ページ参照) として ▲印の授業科目 8 単位を必ず修 得してください。
ポルトガル語学入門Ⅰ	AE112	2	2	春	
ポルトガル語学入門Ⅱ	AE113	2	2	秋	
▲ ポルトガル文化圏文学の基礎	AE121	2	1	秋	
ポルトガル語圏文学入門Ⅰ	AE122	2	2	春	
ポルトガル語圏文学入門Ⅱ	AE123	2	2	秋	
▲ ポルトガル語圏文化の基礎	AE131	2	1	春	
ポルトガルの歴史と地理	AE132	2	2	春	
ブラジルの歴史と地理	AE133	2	2	秋	
▲ ポルトガル語圏社会の基礎	AE141	2	1	秋	
現代ポルトガル事情	AE142	2	2	春	
現代ポルトガルと EU 事情	AE143	2	2	秋	
現代ブラジル事情	AE144	2	2	春	
ポルトガル語学演習Ⅰ	AE211	2	3	春	
ポルトガル語学演習Ⅱ	AE212	2	3	秋	
ポルトガル語学ゼミⅠ	AE213	2	3	春	
ポルトガル語学ゼミⅡ	AE214	2	3	秋	
ポルトガル語圏文学演習Ⅰ	AE221	2	3	春	
ポルトガル語圏文学演習Ⅱ	AE222	2	3	秋	
ポルトガル語圏文学ゼミⅠ	AE223	2	3	春	
ポルトガル語圏文学ゼミⅡ	AE224	2	3	秋	
ポルトガル語圏地域文化演習Ⅰ	AE231	2	3	春	
ポルトガル語圏地域文化演習Ⅱ	AE232	2	3	秋	
ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅠ	AE233	2	3	春	
ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅡ	AE234	2	3	秋	
ポルトガル語圏社会ゼミⅠ	AE241	2	3	春	
ポルトガル語圏社会ゼミⅡ	AE242	2	3	秋	
ポルトガル語学ゼミⅢ	AE311	2	4	春	
ポルトガル語学ゼミⅣ	AE312	2	4	秋	
ポルトガル語圏文学ゼミⅢ	AE321	2	4	春	
ポルトガル語圏文学ゼミⅣ	AE322	2	4	秋	
ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅢ	AE331	2	4	春	
ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅣ	AE332	2	4	秋	
ポルトガル語圏社会ゼミⅢ	AE341	2	4	春	
ポルトガル語圏社会ゼミⅣ	AE342	2	4	秋	

中国語圏の言語・文化・社会 (AF)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
△ 中国語学概論	AF111	2	2	春	中国語学科の人は、学科指定 (46 ページ参照) として△印の授業 科目から 8 単位を必ず修得して ください。
△ 中国文学概論	AF121	2	2	秋	
△ 中国政治概論	AF141	2	2	春	
△ 中国の基礎知識Ⅰ	AF151	2	1	春	
△ 中国の基礎知識Ⅱ	AF152	2	1	秋	
△ 中国経済概論	AF153	2	2	秋	
中国語学研究Ⅰ	AF211	2	3	春	
中国語学研究Ⅱ	AF212	2	3	秋	
中国方言演習Ⅰ	AF213	2	3	春	
中国方言演習Ⅱ	AF214	2	3	秋	
中国文学研究Ⅰ	AF221	2	3	春	
中国文学研究Ⅱ	AF222	2	3	秋	
中国文化研究Ⅰ	AF231	2	3	春	
中国文化研究Ⅱ	AF232	2	3	秋	
中国政治研究Ⅰ	AF241	2	3	春	
中国政治研究Ⅱ	AF242	2	3	秋	
中国語教育研究Ⅰ	AF251	2	3	春	
中国語教育研究Ⅱ	AF252	2	3	秋	
中国経済研究Ⅰ	AF253	2	3	春	
中国経済研究Ⅱ	AF254	2	3	秋	
中国語圏ゼミⅠ	AF255	2	3	春	
中国語圏ゼミⅡ	AF256	2	3	秋	
中国語圏ゼミⅢ	AF351	2	4	春	
中国語圏ゼミⅣ	AF352	2	4	秋	
△ 編入学時認定科目 (中国語圏)		1~4	—	—	
△ 国内・海外留学認定科目 (中国語圏)		1~8	—	—	

日本語圏の言語・文化・社会 (AG)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
△ 社会言語学 I	AG111	2	2	春	日本語学科の人は、学科指定 (46 ページ参照) として△印の授業科目から 12 単位を必ず修得してください。
△ 社会言語学 II	AG112	2	2	秋	
△ 日本文学史 I	AG121	2	2	春	
△ 日本文学史 II	AG122	2	2	秋	
△ 日本古典文学 I	AG123	2	2	春	
△ 日本古典文学 II	AG124	2	2	秋	
△ 和漢比較文学 I	AG125	2	2	春	
△ 和漢比較文学 II	AG126	2	2	秋	
△ 漢字文化論 I	AG131	2	2	春	
△ 漢字文化論 II	AG132	2	2	秋	
△ 日本の思想	AG133	2	2	春	
△ 日本文化と宗教	AG134	2	2	秋	
△ 京都モノ研究 I	AG135	2	2	春	
△ 京都モノ研究 II	AG136	2	2	秋	
△ 現代日本社会論 I	AG141	2	2	春	
△ 現代日本社会論 II	AG142	2	2	秋	
△ 世界と日本 I	AG151	2	1	春	
△ 世界と日本 II	AG152	2	1	秋	
現代日本語研究ゼミ I	AG211	2	3	春	
現代日本語研究ゼミ II	AG212	2	3	秋	
日本文学研究ゼミ I	AG221	2	3	春	
日本文学研究ゼミ II	AG222	2	3	秋	
△ 文化情報論	AG231	2	3	春	
△ 文化情報研究 I	AG232	2	3	春	
△ 文化情報研究 II	AG233	2	3	秋	
日本文化研究ゼミ I	AG234	2	3	春	
日本文化研究ゼミ II	AG235	2	3	秋	
日本語教育研究ゼミ I	AG251	2	3	春	
日本語教育研究ゼミ II	AG252	2	3	秋	
対照研究ゼミ I	AG253	2	3	春	
対照研究ゼミ II	AG254	2	3	秋	
国語教育研究ゼミ I	AG255	2	3	春	
国語教育研究ゼミ II	AG256	2	3	秋	
現代日本語研究ゼミ III	AG311	2	4	春	
現代日本語研究ゼミ IV	AG312	2	4	秋	
日本文学研究ゼミ III	AG321	2	4	春	
日本文学研究ゼミ IV	AG322	2	4	秋	
日本文化研究ゼミ III	AG331	2	4	春	
日本文化研究ゼミ IV	AG332	2	4	秋	
日本語教育研究ゼミ III	AG351	2	4	春	
日本語教育研究ゼミ IV	AG352	2	4	秋	
対照研究ゼミ III	AG353	2	4	春	
対照研究ゼミ IV	AG354	2	4	秋	
国語教育研究ゼミ III	AG355	2	4	春	
国語教育研究ゼミ IV	AG356	2	4	秋	
△ 編入学時認定科目 (日本語圏)		1~6	—	—	
△ 国内・海外留学認定科目 (日本語圏)		1~12	—	—	

イタリア語圏の言語・文化・社会 (AH)

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
△ イタリア語学の基礎知識	AH111	2	2	春	イタリア語学科の人は、学科指定 (46 ページ参照) として△印の授業科目から 8 単位を必ず修得してください。
△ イタリア文学の基礎知識	AH121	2	2	秋	
△ イタリア文化の基礎知識	AH131	2	2	春	
イタリアの芸術 I	AH132	2	2	春	
イタリアの芸術 II	AH133	2	2	秋	
△ イタリアの現代社会	AH141	2	1	秋	
△ イタリア社会の基礎知識	AH142	2	2	秋	
△ イタリアの歴史	AH151	2	1	春	
イタリア語学特殊研究 I	AH211	2	3	春	
イタリア語学特殊研究 II	AH212	2	3	秋	
イタリア言語文化ゼミ I	AH213	2	3	春	
イタリア言語文化ゼミ II	AH214	2	3	秋	
イタリア文学特殊研究 I	AH221	2	3	春	
イタリア文学特殊研究 II	AH222	2	3	秋	
イタリア文化特殊研究 I	AH231	2	3	春	
イタリア文化特殊研究 II	AH232	2	3	秋	
イタリア生活文化論	AH233	2	3	春	
イタリア歴史文化ゼミ I	AH234	2	3	春	
イタリア歴史文化ゼミ II	AH235	2	3	秋	
イタリア社会特殊研究 I	AH241	2	3	春	
イタリア社会特殊研究 II	AH242	2	3	秋	
イタリア社会文化ゼミ I	AH243	2	3	春	
イタリア社会文化ゼミ II	AH244	2	3	秋	
イタリア言語文化ゼミ III	AH311	2	4	春	
イタリア言語文化ゼミ IV	AH312	2	4	秋	
イタリア歴史文化ゼミ III	AH331	2	4	春	
イタリア歴史文化ゼミ IV	AH332	2	4	秋	
イタリア社会文化ゼミ III	AH341	2	4	春	
イタリア社会文化ゼミ IV	AH342	2	4	秋	
△ 編入学時認定科目 (イタリア語圏)		1~2	—	—	
△ 国内・海外留学認定科目 (イタリア語圏)		1~4	—	—	

I 大学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

[エリア B]

グローバルな視点から、さまざまな人々の活動の展開についての観察・考察を進め、高い専門性を有する見解を提示する能力を身につけること、または異なる言語で双方向に翻訳する技能を身につけることを目標とする。

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
欧米地域 (BA)					
植民地論	BA101	2	2～4	春/秋	
現代ヨーロッパ地域事情Ⅰ	BA102	2	2～4	春/秋	
欧米の歴史・文化	BA103	2	2～4	春/秋	
ヨーロッパの美術Ⅰ	BA104	2	2～4	春/秋	
ヨーロッパと国際社会	BA105	2	2～4	春/秋	
ロシア東欧の社会	BA106	2	2～4	春/秋	
ヨーロッパの哲学Ⅰ	BA107	2	2～4	春/秋	
現代ラテンアメリカ地域事情Ⅰ	BA108	2	2～4	春/秋	
現代北米地域事情Ⅰ	BA109	2	2～4	春/秋	
現代ヨーロッパ地域事情Ⅱ	BA201	2	2～4	春/秋	
ヨーロッパの美術Ⅱ	BA202	2	2～4	春/秋	
キリスト教世界の思想と社会	BA203	2	2～4	春/秋	
ヨーロッパの歴史と思想	BA204	2	2～4	春/秋	
ロシア東欧の文化	BA205	2	2～4	春/秋	
ヨーロッパの哲学Ⅱ	BA206	2	2～4	春/秋	
現代ラテンアメリカ地域事情Ⅱ	BA207	2	2～4	春/秋	
現代北米地域事情Ⅱ	BA208	2	2～4	春/秋	
ヨーロッパの演劇	BA209	2	2～4	春/秋	
イスラーム世界とヨーロッパ	BA20A	2	2～4	春/秋	
アジア・中東・アフリカ地域 (BB)					
中東の歴史と文化Ⅰ	BB101	2	2～4	春/秋	
日本史の見方Ⅰ	BB102	2	2～4	春/秋	
アジアの歴史と文化Ⅰ	BB103	2	2～4	春/秋	
日本の歴史と文化Ⅰ	BB104	2	2～4	春/秋	
日欧比較文明論Ⅰ	BB105	2	2～4	春/秋	
現代アジア地域事情Ⅰ	BB106	2	2～4	春/秋	
現代中東・アフリカ地域事情Ⅰ	BB107	2	2～4	春/秋	
現代日本社会と伝統文化Ⅰ	BB108	2	2～4	春/秋	
中国文化圏の歴史	BB109	2	2～4	春/秋	
南アジアの歴史と文化Ⅰ	BB10A	2	2～4	春/秋	
朝鮮半島の歴史と文化	BB10B	2	2～4	春/秋	
アフリカ文化事情	BB10C	2	2～4	春/秋	
イスラーム世界の思想と社会	BB201	2	2～4	春/秋	
中東の歴史と文化Ⅱ	BB202	2	2～4	春/秋	
日本史の見方Ⅱ	BB203	2	2～4	春/秋	
アジアの歴史と文化Ⅱ	BB204	2	2～4	春/秋	
日本の歴史と文化Ⅱ	BB205	2	2～4	春/秋	
日欧比較文明論Ⅱ	BB206	2	2～4	春/秋	
現代アジア地域事情Ⅱ	BB207	2	2～4	春/秋	
現代中東・アフリカ地域事情Ⅱ	BB208	2	2～4	春/秋	
現代日本社会と伝統文化Ⅱ	BB209	2	2～4	春/秋	
環太平洋の文明史	BB20A	2	2～4	春/秋	
イスラーム世界とアジア	BB20B	2	2～4	春/秋	
南アジアの歴史と文化Ⅱ	BB20C	2	2～4	春/秋	
国際文化 (BC)					
世界の諸宗教	BC101	2	2～4	春/秋	
グローバル化の歴史	BC102	2	2～4	春/秋	
世界史 A - 政治・経済を中心に	BC103	2	1	秋	
世界史 B - 文化に注目して	BC104	2	1	秋	
世界史 C - 地域交流に着目して	BC105	2	1	秋	
東西文化の交流Ⅰ	BC106	2	2～4	春/秋	
日欧の交流Ⅰ	BC107	2	2～4	春/秋	
越境文化論Ⅰ	BC108	2	2～4	春/秋	
グローバル化とジェンダー	BC109	2	2～4	春/秋	
異文化理解のための考古学	BC10A	2	1	秋	
異文化理解のための人類学	BC10B	2	1	秋	
ユーラシアの歴史と文化Ⅰ	BC10C	2	2～4	春/秋	
比較美術史Ⅰ	BC10D	2	2～4	春/秋	
国際コミュニケーション演習Ⅰ	BC10E	2	2～4	春/秋	
グローバル化する世界と間文化主義Ⅰ	BC10F	2	2～4	春/秋	
東西文化の交流Ⅱ	BC201	2	2～4	春/秋	
日欧の交流Ⅱ	BC202	2	2～4	春/秋	
日欧の交流Ⅲ	BC203	2	2～4	春/秋	
越境文化論Ⅱ	BC204	2	2～4	春/秋	
比較文化論	BC205	2	2～4	春/秋	
ユーラシアの歴史と文化Ⅱ	BC206	2	2～4	春/秋	
比較美術史Ⅱ	BC207	2	2～4	春/秋	
国際コミュニケーション演習Ⅱ	BC208	2	2～4	春/秋	
グローバル化する世界と間文化主義Ⅱ	BC209	2	2～4	春/秋	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
国際関係 (BD)					
国際政治学の基礎 I	BD101	2	2～4	春/秋	
国際安全保障論 I	BD102	2	2～4	春/秋	
国際平和協力論 I	BD103	2	2～4	春/秋	
日本外交課題論 I	BD10E	2	2～4	春/秋	
外交戦略論 I	BD104	2	2～4	春/秋	
平和学概論 I	BD105	2	2～4	春/秋	
国際関係論入門	BD106	2	2～4	春/秋	
国際関係史	BD107	2	2～4	春/秋	
東アジア政治外交史 I	BD10F	2	2～4	春/秋	
東アジア政治外交史 II	BD10G	2	2～4	春/秋	
国際社会論	BD108	2	2～4	春/秋	
国際法 I	BD109	2	2～4	春/秋	
国際開発論	BD10A	2	2～4	春/秋	
国際経済学の基礎	BD10B	2	2～4	春/秋	
国家論 I	BD10C	2	2～4	春/秋	
戦争論 I	BD10D	2	2～4	春/秋	
国際政治学の基礎 II	BD201	2	2～4	春/秋	
国際安全保障論 II	BD202	2	2～4	春/秋	
国際機構論	BD203	2	2～4	春/秋	
国際平和協力論 II	BD204	2	2～4	春/秋	
日本外交課題論 II	BD20F	2	2～4	春/秋	
外交戦略論 II	BD205	2	2～4	春/秋	
国際関係論特殊研究	BD206	2	2～4	春/秋	
平和学概論 II	BD207	2	2～4	春/秋	
平和構築論	BD208	2	2～4	春/秋	
国際 NGO 論	BD209	2	2～4	春/秋	
国際法 II	BD20A	2	2～4	春/秋	
途上地域の諸問題	BD20B	2	2～4	春/秋	
国家論 II	BD20C	2	2～4	春/秋	
戦争論 II	BD20D	2	2～4	春/秋	
模擬国連会議 (PBL)	BD20E	2	2～4	春/秋	
言語理論と応用 (BE)					
言語の仕組み	BE101	2	1	秋	
言語の成り立ち	BE102	2	2～4	春/秋	
意味論・語用論入門	BE103	2	2～4	春/秋	
音声学入門	BE104	2	2～4	春/秋	
世界の中の日本語 I	BE105	2	1	秋	
世界の中の日本語 II	BE106	2	1	秋	
言語と行動	BE107	2	2～4	春/秋	
世界の言語と文化	BE108	2	2～4	春/秋	
日英表現比較 (PBL)	BE109	2	2～4	春/秋	
日英対照言語学	BE201	2	2～4	春/秋	
日中対照言語学	BE202	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E S) I	BE203	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E S) II	BE204	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E F) I	BE205	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E F) II	BE206	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E G) I	BE207	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E G) II	BE208	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E P) I	BE209	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E P) II	BE20A	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E C) I	BE20B	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E C) II	BE20C	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E I) I	BE20D	2	2～4	春/秋	
2言語同時学習 (E I) II	BE20E	2	2～4	春/秋	
ロマンス語同時学習 (F P) I	BE20S	2	2～4	春/秋	
ロマンス語同時学習 (F P) II	BE20T	2	2～4	春/秋	
ロマンス諸語比較文法 I	BE20F	2	2～4	春/秋	
ロマンス諸語比較文法 II	BE20G	2	2～4	春/秋	
認知意味論 I	BE20H	2	2～4	春/秋	
認知意味論 II	BE20I	2	2～4	春/秋	
認知構文論 I	BE20J	2	2～4	春/秋	
認知構文論 II	BE20K	2	2～4	春/秋	
生成文法 I	BE20L	2	2～4	春/秋	
生成文法 II	BE20M	2	2～4	春/秋	
形式意味論	BE20N	2	2～4	春/秋	
バイリンガルの言語形成	BE20P	2	2～4	春/秋	
共通 (BZ)					
グローバル研究ゼミ I	BZ201	2	3	春	
グローバル研究ゼミ II	BZ202	2	3	秋	
グローバル研究ゼミ III	BZ301	2	4	春	
グローバル研究ゼミ IV	BZ302	2	4	秋	
国際教養ゼミ I	BZ203	2	3	春	
国際教養ゼミ II	BZ204	2	3	秋	
国際教養ゼミ III	BZ303	2	4	春	
国際教養ゼミ IV	BZ304	2	4	秋	
編入学時認定科目	BZ101	1～34	—	—	
国内・海外留学認定科目	BZ102	1～24	—	—	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

キャリア・スタディ科目群

グローバル・ローカルな視点から、特定領域について深く体系的に学び、現実の事象に対する理解力を高めるとともに職業選択を意識しながら、問題を発見し解決する能力を身につけることを目標とします。

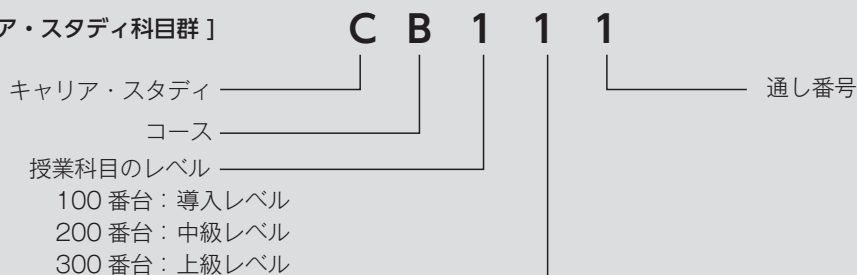
2 【キャリア・スタディ科目群】

キャリア・スタディ科目群は「生活・環境」「教育」「サービス・ホスピタリティ」「情報・メディア」「ビジネス・マネジメント」「公共政策」の6つのコースに分けています。コースの登録は、2年次秋学期の成績発表時に行います。

配当年次に従い、登録したコースの授業科目から16単位を修得してください。登録したコース以外で修得した単位は自由選択に算入します。

また、各授業科目にはナンバリング（記号と番号）を付けています。ナンバリングによって授業科目の分野やレベル、履修順序などを読み取ることができます。ナンバリングの意味は以下のとおりです。

【キャリア・スタディ科目群】



〈生活・環境〉

10番台：経済
20番台：環境
30番台：健康
40番台：文化
50番台：資源利用
90番台：共通

〈教育〉

10番台：教育一般
20番台：心理学
30番台：社会
40番台：教職
50番台：日本語教育
60番台：英語教育
90番台：共通

〈サービス・ホスピタリティ〉

10番台：サービス・ホスピタリティ
20番台：観光ビジネス
30番台：ホテルビジネス
40番台：航空ビジネス
50番台：プライダルビジネス
60番台：ツアープランニング
70番台：文化交流
90番台：共通

〈情報・メディア〉

10番台：数学と社会
20番台：メディア
30番台：情報と社会
40番台：情報技術
90番台：共通

〈ビジネス・マネジメント〉

10番台：キャリア
20番台：経済・法
30番台：経営一般
40番台：国際ビジネス
50番台：経営その他
60番台：簿記
90番台：共通

〈公共政策〉

10番台：法学
20番台：政治学
30番台：社会・経済学
40番台：行政学
50番台：政策学
60番台：地域政策実践論
70番台：多文化コミュニケーション実践論
90番台：共通

※ 100番台から順に履修することを目安としてください。

※ 「PBL」は108ページを参照してください。

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
生活・環境 (CA)	日常生活を支える衣食住関連の諸活動について、人間生活や環境の視点から学びます。〈役立つ職業分野〉 衣食住、文化関連産業				
生活と経済	CA111	2	2～4	春/秋	
生活と法律	CA112	2	2～4	春/秋	
生活と環境	CA121	2	2～4	春/秋	
宇宙の科学	CA122	2	2～4	春/秋	
生活と健康	CA131	2	2～4	春/秋	
生活と文化	CA141	2	2～4	春/秋	
ライフスタイル論	CA151	2	2～4	春/秋	
流通のしくみ	CA211	2	2～4	春/秋	
衣食住関連経営論	CA212	2	2～4	春/秋	
現代と社会環境	CA221	2	2～4	春/秋	
都市と環境	CA222	2	2～4	春/秋	
グローバル環境論	CA223	2	2～4	春/秋	
スポーツ文化論	CA231	2	2～4	春/秋	
宗教と人間	CA241	2	2～4	春/秋	
ジェンダー論	CA242	2	2～4	春/秋	
生活空間の科学	CA243	2	2～4	春/秋	
民俗学から見た衣食住	CA244	2	2～4	春/秋	
考古学から復元する生活文化史	CA245	2	2～4	春/秋	
生活と芸術	CA246	2	2～4	春/秋	
生活とエネルギー	CA251	2	2～4	春/秋	
生活と天然資源	CA252	2	2～4	春/秋	
Environmental Issues	CA224	2	2～4	春/秋	
Food and Human Culture and Environment	CA225	2	2～4	春/秋	
Eat to Live & Live to Eat - Food around the world	CA232	2	2～4	春/秋	
Research of Japanese Culture (PBL)	CA247	2	2～4	春/秋	
Sustainable Development	CA253	2	2～4	春/秋	
地域社会と環境 (PBL)	CA213	2	2～4	春/秋	
サイエンスコミュニケーション (PBL)	CA226	2	2～4	春/秋	
生活・環境研究ゼミⅠ	CA291	2	3	春	
生活・環境研究ゼミⅡ	CA292	2	3	秋	
生活・環境研究ゼミⅢ	CA391	2	4	春	
生活・環境研究ゼミⅣ	CA392	2	4	秋	
編入学時認定科目 (生活・環境)	CA191	1～8	—	—	
国内・海外留学認定科目① (生活・環境)	CA192	1～16	—	—	
国内・海外留学認定科目② (生活・環境)	CA293	1～16	—	—	
教育 (CB)	学校教育に限らず、多様な教育関連の諸活動について学びます。〈役立つ職業分野〉 教員または教育産業				
同和教育と人権	CB111	2	1	秋	
生涯学習概論	CB112	2	1	秋	
教育の課題Ⅰ	CB113	2	1	秋	
コーチングの理論	CB131	2	2～4	春/秋	
創造性研究	CB132	2	2～4	春/秋	
日本語教育文法Ⅰ	CB151	2	2～4	春/秋	
児童英語教育基礎論	CB161	2	2～4	春/秋	
多文化理解と人権	CB211	2	2～4	春/秋	
教育の課題Ⅱ	CB212	2	2～4	春/秋	
コミュニケーションの心理	CB221	2	2～4	春/秋	
青少年の行動と心理	CB222	2	2～4	春/秋	
臨床心理学	CB223	2	2～4	春/秋	
教育社会学	CB231	2	2～4	春/秋	
コーチングの実践	CB232	2	2～4	春/秋	
現代生活とスポーツ	CB233	2	2～4	春/秋	
教職研究	CB241	2	2～4	春/秋	
学校教育研究	CB242	2	2～4	春/秋	
日本語教授法	CB251	2	2～4	春/秋	
日本語教育文法Ⅱ	CB252	2	2～4	春/秋	
日本語教育評価法	CB253	2	2～4	春/秋	
児童英語教育教材論	CB261	2	2～4	春/秋	
外国語習得論	CB262	2	2～4	春/秋	
英語教師論	CB263	2	2～4	春/秋	
小学校外国語活動指導	CB264	2	2～4	春/秋	
学校教育支援活動演習	CB265	2	2～4	春/秋	
Language Teaching & Learning	CB266	2	2～4	春/秋	
Nonverbal Communication in Language Teaching and Learning	CB267	2	2～4	春/秋	
創造性の実践 (PBL)	CB234	2	2～4	春/秋	
教育研究ゼミⅠ	CB291	2	3	春	
教育研究ゼミⅡ	CB292	2	3	秋	
教育研究ゼミⅢ	CB391	2	4	春	
教育研究ゼミⅣ	CB392	2	4	秋	
編入学時認定科目 (教育)	CB191	1～8	—	—	
国内・海外留学認定科目① (教育)	CB192	1～16	—	—	
国内・海外留学認定科目② (教育)	CB293	1～16	—	—	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

Ⅰ 大学の概要

Ⅱ 学修する前に知っておくべきこと

Ⅲ 京都市外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
サービス・ホスピタリティ(CC)	観光を中心としたサービス関連の諸活動について学びます。			<役立つ職業分野> 航空・旅行・ホテル等サービス産業	
サービス戦略論	CC111	2	2～4	春/秋	
キャリア形成Ⅰ	CC112	2	2～4	春/秋	
キャリア形成Ⅱ	CC113	2	2～4	春/秋	
サービス・マーケティング	CC114	2	2～4	春/秋	
イベント・プランニング	CC115	2	2～4	春/秋	
日本の地理概論	CC116	2	2～4	春/秋	
京都文化論Ⅰ	CC118	2	2～4	春/秋	
ホスピタリティ論	CC211	2	2～4	春/秋	
サービス・コミュニケーション	CC212	2	2～4	春/秋	
文化商品論	CC213	2	2～4	春/秋	
文化遺産と観光	CC214	2	2～4	春/秋	
消費者行動	CC215	2	2～4	春/秋	
京都文化論Ⅱ	CC217	2	2～4	春/秋	
文化産業	CC218	2	2～4	春/秋	
世界の地理概論	CC219	2	2～4	春/秋	
観光ビジネス概論	CC221	2	2～4	春/秋	
観光ビジネス演習	CC222	2	2～4	春/秋	
旅行実務概論	CC223	2	2～4	春/秋	
ホテルビジネス概論	CC231	2	2～4	春/秋	
ホテルビジネス演習	CC232	2	2～4	春/秋	
航空ビジネス概論	CC241	2	2～4	春/秋	
航空ビジネス演習	CC242	2	2～4	春/秋	
プライダルビジネス概論	CC251	2	2～4	春/秋	
プライダルビジネス演習	CC252	2	2～4	春/秋	
Cross Cultural Studies I	CC271	2	2～4	春/秋	
Cross Cultural Studies II	CC272	2	2～4	春/秋	
ツアープランニング (PBL)	CC261	2	2～4	春/秋	
京都モノ・コト探究Ⅰ (PBL)	CC262	2	2～4	春/秋	
京都モノ・コト探究Ⅱ (PBL)	CC263	2	2～4	春/秋	
サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅠ	CC291	2	3	春	
サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅡ	CC292	2	3	秋	
サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅢ	CC391	2	4	春	
サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅣ	CC392	2	4	秋	
編入学時認定科目 (サービス・ホスピタリティ)	CC191	1～8	—	—	
国内・海外留学認定科目① (サービス・ホスピタリティ)	CC192	1～16	—	—	
国内・海外留学認定科目② (サービス・ホスピタリティ)	CC293	1～16	—	—	
情報・メディア (CD)	情報、情報技術およびメディア関連の諸活動について学びます。			<役立つ職業分野> マスメディア、広告、通信産業	
数学の基礎	CD111	2	2～4	春/秋	
マスメディア基礎論	CD121	2	2～4	春/秋	
メディアリテラシー論	CD122	2	2～4	春/秋	
コンピュータの仕組み	CD131	2	2～4	春/秋	
情報社会論	CD132	2	2～4	春/秋	
マルチメディアプレゼンテーション演習	CD141	2	2～4	春/秋	
ビジネスコンピューティングⅠ	CD142	2	2～4	春/秋	
情報と論理	CD211	2	2～4	春/秋	
統計による社会の理解	CD212	2	2～4	春/秋	
調査・統計の実践Ⅰ	CD213	2	2～4	春/秋	
調査・統計の実践Ⅱ	CD214	2	2～4	春/秋	
メディアの現在Ⅰ	CD221	2	2～4	春/秋	
メディアの現在Ⅱ	CD222	2	2～4	春/秋	
ネットジャーナリズム論	CD223	2	2～4	春/秋	
コンピュータと企業	CD231	2	2～4	春/秋	
ビジネスコンピューティングⅡ	CD232	2	2～4	春/秋	
ネットワーク社会論	CD233	2	2～4	春/秋	
情報倫理	CD234	2	2～4	春/秋	
科学技術の歴史	CD235	2	2～4	春/秋	
ポップカルチャー論	CD236	2	2～4	春/秋	
Webデザイン演習	CD241	2	2～4	春/秋	
CG演習	CD242	2	2～4	春/秋	
Webプログラミング演習	CD243	2	2～4	春/秋	
Interactive Webpublishing (PBL)	CD244	2	2～4	春/秋	
映像メディアの制作 (PBL)	CD245	2	2～4	春/秋	
マルチメディアの制作 (PBL)	CD246	2	2～4	春/秋	
情報・メディア研究ゼミⅠ	CD291	2	3	春	
情報・メディア研究ゼミⅡ	CD292	2	3	秋	
情報・メディア研究ゼミⅢ	CD391	2	4	春	
情報・メディア研究ゼミⅣ	CD392	2	4	秋	
編入学時認定科目 (情報・メディア)	CD191	1～8	—	—	
国内・海外留学認定科目① (情報・メディア)	CD192	1～16	—	—	
国内・海外留学認定科目② (情報・メディア)	CD293	1～16	—	—	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

授業科目名	ナンバリング	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
ビジネス・マネジメント (CE)	企業とそのマネジメントに関連する諸活動について学びます。 <役立つ職業分野>メーカー・商社、物流				
リーダーシップ概論	CE111	2	2～4	春/秋	
キャリアベーシック	CE112	2	1	秋	
法学の基礎	CE121	2	2～4	春/秋	
経済学の基礎	CE122	2	2～4	春/秋	
国際ビジネス	CE141	2	2～4	春/秋	
簿記会計の仕組みⅠ	CE161	2	2～4	春/秋	
グローバルリーダーシップ	CE211	2	2～4	春/秋	
経済政策の基礎	CE222	2	2～4	春/秋	
金融の仕組み	CE223	2	2～4	春/秋	
貿易論	CE224	2	2～4	春/秋	
日本経済と経済政策	CE225	2	2～4	春/秋	
法と社会	CE226	2	2～4	春/秋	
国際経済の仕組み	CE227	2	2～4	春/秋	
経営管理論	CE231	2	2～4	春/秋	
組織論	CE232	2	2～4	春/秋	
人事管理の歴史	CE233	2	2～4	春/秋	
生産管理論	CE234	2	2～4	春/秋	
中小企業論	CE235	2	2～4	春/秋	
マーケティング戦略論	CE236	2	2～4	春/秋	
アカウンティング	CE237	2	2～4	春/秋	
多国籍企業と異文化間就業力	CE244	2	2～4	春/秋	
企業文化論	CE251	2	2～4	春/秋	
起業と起業文化	CE252	2	2～4	春/秋	
知財マネジメント	CE253	2	2～4	春/秋	
CSR マネジメント	CE254	2	2～4	春/秋	
簿記会計の仕組みⅡ	CE261	2	2～4	春/秋	
Introduction to International Business and Management	CE142	2	2～4	春/秋	
Global Major Corporations in Japan	CE241	2	2～4	春/秋	
International Business and Management Advanced	CE242	2	2～4	春/秋	
Japanese Major Corporations	CE243	2	2～4	春/秋	
日本のものづくり (PBL)	CE238	2	2～4	春/秋	
Management of International Conference (PBL)	CE245	2	2～4	春/秋	
International Marketing Competition (PBL)	CE246	2	2～4	春/秋	
ビジネス・マネジメント研究ゼミⅠ	CE291	2	3	春	
ビジネス・マネジメント研究ゼミⅡ	CE292	2	3	秋	
ビジネス・マネジメント研究ゼミⅢ	CE391	2	4	春	
ビジネス・マネジメント研究ゼミⅣ	CE392	2	4	秋	
編入学時認定科目 (ビジネス・マネジメント)	CE191	1～8	—	—	
国内・海外留学認定科目① (ビジネス・マネジメント)	CE192	1～16	—	—	
国内・海外留学認定科目② (ビジネス・マネジメント)	CE293	1～16	—	—	
公共政策 (CF)	政府や行政に関連する諸活動について学びます。 <役立つ職業分野>NPO・NGO、地方自治体、国際機関、国家公務員				
日本国憲法	CF111	2	1	秋	
政治学Ⅰ	CF121	2	2～4	春/秋	
政治学Ⅱ	CF122	2	2～4	春/秋	
現代社会の見方	CF131	2	2～4	春/秋	
現代と社会	CF132	2	2～4	春/秋	
財政の仕組みⅠ	CF141	2	2～4	春/秋	
地域文化研究Ⅰ	CF161	2	2～4	春/秋	
憲法Ⅰ	CF211	2	2～4	春/秋	
憲法Ⅱ	CF212	2	2～4	春/秋	
国際政治史Ⅰ	CF221	2	2～4	春/秋	
国際政治史Ⅱ	CF222	2	2～4	春/秋	
地域経済	CF231	2	2～4	春/秋	
財政の仕組みⅡ	CF241	2	2～4	春/秋	
公共・行政意思決定論	CF242	2	2～4	春/秋	
地方自治	CF243	2	2～4	春/秋	
地方自治体と国際交流	CF244	2	2～4	春/秋	
環境政策	CF251	2	2～4	春/秋	
スポーツ政策	CF252	2	2～4	春/秋	
言語政策	CF253	2	2～4	春/秋	
教育政策	CF254	2	2～4	春/秋	
NGO・NPO 活動論	CF261	2	2～4	春/秋	
ボランティア活動論	CF262	2	2～4	春/秋	
コミュニティビジネス	CF263	2	2～4	春/秋	
アートマネジメント	CF264	2	2～4	春/秋	
スポーツと国際交流	CF265	2	2～4	春/秋	
地域文化研究Ⅱ	CF266	2	2～4	春/秋	
多文化間コミュニケーション	CF271	2	2～4	春/秋	
Human Relationship in Contemporary SocietyⅠ (PBL)	CF232	2	2～4	春/秋	
Human Relationship in Contemporary SocietyⅡ (PBL)	CF233	2	2～4	春/秋	
Multicultural Understanding and Communication	CF272	2	2～4	春/秋	
ミュージアムマネジメント (PBL)	CF267	2	2～4	春/秋	
スポーツとまちづくり (PBL)	CF268	2	2～4	春/秋	
多文化共生 (PBL)	CF273	2	2～4	春/秋	
公共政策研究ゼミⅠ	CF291	2	3	春	
公共政策研究ゼミⅡ	CF292	2	3	秋	
公共政策研究ゼミⅢ	CF391	2	4	春	
公共政策研究ゼミⅣ	CF392	2	4	秋	
編入学時認定科目 (公共政策)	CF191	1～8	—	—	
国内・海外留学認定科目① (公共政策)	CF192	1～16	—	—	
国内・海外留学認定科目② (公共政策)	CF293	1～16	—	—	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

卒業選択

外国語学部を卒業するためには、卒業選択（卒業論文・卒業研究）が必修となっています。グローバル・スタディ科目群またはキャリア・スタディ科目群で開講するいずれかのゼミを原則として3年次から2年間履修し、作成に必要な研究指導を受け、卒業論文または卒業研究を提出し、合格しなければなりません。

ゼミは3年次から登録しますが、研究指導の関係から受講者数の調整を行いますので、以下のとおり手続きを行ってください。

【登録の流れ】

2年次	9～10月	各ゼミの内容を本学ホームページで確認し、所定の期日までに希望のゼミを申請（登録）してください。希望者が多いゼミについては、面談等により受講者数の調整（選考）を行います。 ※ゼミ説明会等のスケジュールの詳細は、京都外大 Web Campus および掲示でお知らせします。
	12～1月	受講者数調整（選考）後の結果を京都外大 Web Campus で発表します。
3年次	4月	発表内容に従いゼミを履修登録してください。

ゼミ履修上の注意

受講者数調整（選考）後のゼミの変更はできませんので、充分注意してください。

また、所定のゼミ登録を行わずゼミが決まっていない人は、授業開始日までに教務部へ申し出てください。

【卒業論文・卒業研究の提出資格】

4年次生（ただし、在学期間が6学期以上の人）が春学期および秋学期に4年次配当のゼミⅢ・Ⅳを履修した場合は、当該年度の卒業論文・卒業研究の提出資格がありますので、秋学期の提出期間に提出してください。

< 4年次生で休学し次年度の9月卒業を予定している場合 >

春学期または秋学期のいずれかを休学し次年度の9月卒業を予定している場合は、次年度春学期のゼミを履修し、春学期の提出期間に卒業論文または卒業研究を提出してください。

< 留学（派遣留学・認定留学）の場合 >

4年次生（ただし、在学期間が6学期以上の人）が春学期・秋学期のいずれか1学期間、または春学期・秋学期の2学期間留学（派遣留学・認定留学）する場合も当該年度の卒業論文・卒業研究の提出資格があります。したがって、留学中も必ずゼミ担当者と連絡をとり指導を受けたうえで、秋学期の提出期間に提出してください。

1 卒業論文

1. 卒業論文の題目・卒業論文計画書

担当教員の指示に従って、担当教員に提出してください。また、卒業論文の題目を変更する場合も担当教員の指示に従ってください。

2. 卒業論文の提出

(1) 提出期間

3月卒業	12月13日～20日	受付時間：9：00～17：00 受付場所：本学指定の場所
9月卒業	7月1日～20日	

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。

※提出期限に遅れた場合は受け付けませんので、注意してください。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長することがありますが、追試験に準じた手続きが必要となります。

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

(2) 本文の使用言語

原則として、専攻する外国語を使用してください。ただし、担当教員または所属学科が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

(3) 本文の書式

< パソコンを使用する場合 >

以下のとおり設定してください。原則として専攻語で20枚以上（中国語は7枚以上）とします。また、日本語の場合は16,000字以上を原則とします。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの文字数等	外国語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、CenturyまたはTimes New Romanの12ポイント26行に設定。 日本語（中国語を含む）では、10.5または11ポイントの文字の大きさと、1枚につき一行40字（アルファベットは半角80字）30行で、横書きに設定。

< 手書きの場合 >

黒インクの万年筆またはボールペンを使用し、A4版400字詰原稿用紙40枚以上とします。

(4) 本文以外の添付書類（本文の枚数には含まれません。）

① 卒業論文題目（本学所定用紙）

② 内題・検索用キーワード（本学所定用紙）

2部作成し、1部は本文に添付し、1部は卒業論文とは別に提出してください。

③ 論文要旨

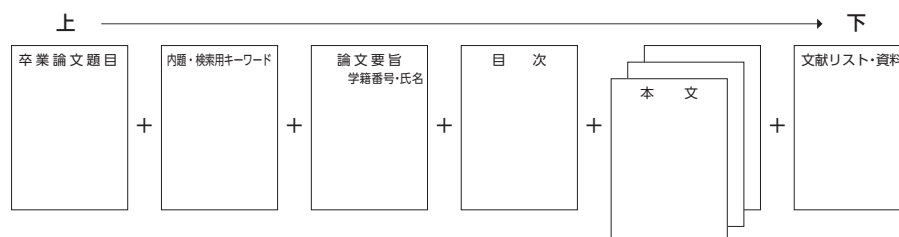
パソコンを使用し、日本語（A4用紙1～2枚・800～1,200字）で2部作成してください。1部は本文に添付し、1部は卒業論文とは別に提出してください。なお、学籍番号および氏名を必ず記入してください。

④ 目次

⑤ 文献リスト・資料

(5) ファイルの綴じ方

本学所定のファイル（A4縦型、透明のレールクリヤーホルダー）を使用し、以下のとおり綴じてください。



3. 卒業論文の評価

論文審査および口述試問により評価し、合格した場合は卒業選択の単位として2単位を認定します。

2 卒業研究

1. テーマの決定・中間報告

担当教員と相談のうえ研究テーマを決定し、本学所定用紙を担当教員へ提出してください。また、研究テーマについてゼミの授業で中間発表を行います。

2. 卒業研究の提出

(1) 提出期間

3月卒業	12月13日～20日	受付時間：9：00～17：00 受付場所：本学指定の場所
9月卒業	7月1日～20日	

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。

※提出期限に遅れた場合は受け付けませんので、注意してください。ただし、特別な理由(追試験に相当する理由)がある場合は、以下のとおり期限を延長することがありますが、追試験に準じた手続きが必要となります。

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

(2) 本文の使用言語

原則として、専攻する外国語を使用してください。ただし、担当教員または所属学科が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

(3) 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。原則として専攻語で5枚以上(中国語は3枚以上、日本語は7枚以上)とします。また、例外的にレポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し所属学科の許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの文字数等	外国語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、CenturyまたはTimes New Romanの12ポイント26行に設定。 日本語(中国語を含む)では、10.5または11ポイントの文字の大きさで、1枚につき一行40字(アルファベットは半角80字)30行で、横書きに設定。 ※図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度にしてください。

(4) 本文以外の添付書類(本文の枚数には含みません。)

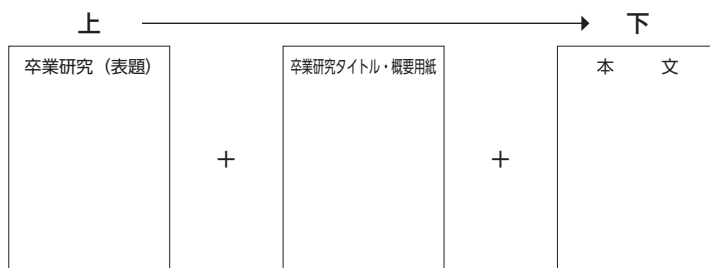
① 卒業研究表題(本学所定用紙)

② 卒業研究タイトル・概要用紙(本学所定用紙)

パソコンを使用し、日本語でタイトルは40字以内、概要は400字以内で2部作成してください。1部は本文に添付し、1部は卒業研究とは別に提出してください。なお、学籍番号および氏名を必ず記入してください。

(5) ファイルの綴じ方

本学所定のファイル(A4縦型、透明のルールクリヤーホルダー)を使用し、以下のとおり綴じてください。



3. 卒業研究の評価

中間報告、卒業研究および口頭発表により評価し、合格した場合は卒業選択の単位として2単位を認定します。

3 卒業論文の要旨および卒業研究の概要保存

本学では、卒業論文の論文要旨および卒業研究の概要を学術用コンテンツとして保存します。

自由選択

自由選択は、以下の中から 22 単位を修得してください。

< 本学が自由選択として開講する授業科目 >

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項	
情報技術の実践	2	1	秋		
健康科学の実践と理論	2	1	春/秋		
テクニカルスポーツⅠ	1	2	春	・テクニカルスポーツⅢ～Ⅵ、シーズンスポーツⅢ・Ⅳは、卒業要件単位に算入しません。 ・「テクニカルスポーツ」「シーズンスポーツ」は、「健康科学の実践と理論」(2単位)を修得済みでなければ履修できません。 ・「テクニカルスポーツ」のⅠ・Ⅲ・ⅤとⅡ・Ⅳ・Ⅵは順に履修してください。「シーズンスポーツ」のⅠ・Ⅲはマリンスポーツ、Ⅱ・Ⅳはスノースポーツで、Ⅰ・ⅢまたはⅡ・Ⅳの順に履修してください。「テクニカルスポーツ」と「シーズンスポーツ」は同時に履修できます。またマリンスポーツ・スノースポーツの両方を履修できます。詳細は 79 ページ参照してください。	
テクニカルスポーツⅡ	1	2	秋		
テクニカルスポーツⅢ	1	3	春		
テクニカルスポーツⅣ	1	3	秋		
テクニカルスポーツⅤ	1	4	春		
テクニカルスポーツⅥ	1	4	秋		
シーズンスポーツⅠ	1	2～4	春/秋		
シーズンスポーツⅡ	1	2～4	春/秋		
シーズンスポーツⅢ	1	2～4	春/秋		
シーズンスポーツⅣ	1	2～4	春/秋		
卒業論文作成入門	2	2～4	春/秋		
数的理解	2	2～4	春/秋		
地球の異文化理解 1～4	2				大学コンソーシアム京都で開講する本学科目
特殊研究Ⅰ (企業からの寄付講座)	2	2～4	春/秋		
特殊研究Ⅱ (企業のグローバルマインド)	2	2～4	春/秋		
特殊研究Ⅲ (Japanese Law and Society)	2	1～4	春/秋		履修条件 TOEIC L&R 650 点以上
特殊研究Ⅳ (Japanese Perspectives on Global Peace-Building Initiatives)	2	1～4	春/秋	履修条件 TOEIC L&R 650 点以上	
特殊研究Ⅴ (Japan seen through animations)	2	1～4	春/秋	履修条件 TOEIC L&R 650 点以上	
特殊研究Ⅵ (International Negotiation)	2	1～4	春/秋	履修条件 TOEIC L&R 650 点以上	
特殊研究Ⅶ (Public Diplomacy)	2	1～4	春/秋	履修条件 TOEIC L&R 650 点以上	

※「春/秋」の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。

< 上記以外 >

- ・所属学科以外の専攻語科目・専門特別演習科目(学科間開放)
- ・外国語強化科目・専門特別演習科目・グローバル・スタディ科目群・キャリア・スタディ科目群で卒業要件単位数を超えて修得した単位
- ・日本語学科以外の日本語を母語としない人が日本語インテンシブで修得した単位
- ・キャリア・スタディ科目群の登録コース以外で修得した単位
- ・第3外国語を履修して修得した単位
- ・日本学インスティテュート科目
- ・国際貢献学部で開講する授業科目の内、国際貢献学部が指定する授業科目
- ・本学以外の教育施設等で修得した単位(43 ページ参照)
- ・本学独自のプログラム等で修得した単位(43 ページ参照)

日本学インスティテュート科目

「日本学インスティテュート科目」は、日本に対する理解力と発信力を高めるため、日本独自の社会・制度・文化・価値観等について、外国人留学生、交換留学生と日本語を母語とする学生がともに英語で学びます。留学生と授業で交流する機会となりますので、積極的に履修してください。

なお、修得した単位は自由選択に算入します。

【日本学インスティテュート科目】

授業科目名	単位	配当年次	開講学期	履修上の注意事項
Business Administration in Japan	2	1	春	
Current Japan and Tradition	2	1	春	
Japan Pop Cultures	2	1	春	
Japanese Diplomacy and Security	2	1	春	
Japanese Economy	2	1	春	
Japanese Geography	2	1	春	
Japanese History	2	1	春	
Japanese History and Culture	2	1	春	
Japanese Philosophy	2	1	秋	
Destination Kyoto	2	1	秋	
Media in Japan	2	1	秋	
Modern Japanese History	2	1	秋	
Religions in Japan	2	1	秋	

国際貢献学部の授業科目の履修

国際貢献学部で開講する授業科目の内、「専門科目（コア科目、ゼミ、英語演習科目および日本語演習科目を除く。）」および「教養科目」を、2年次生から配当年次に従って履修することができます。

なお、修得した単位は6単位を上限として自由選択に算入します。

学科間開放（2～4年次生対象）

「学科間開放」では、所属学科以外で開講する一部の専攻語科目および専門特別演習科目（◆印を付している授業科目）を履修することができます。2・3年次から履修する場合は、第2外国語科目や外国語強化科目のエレメンタリーの授業科目を履修し、当該言語の「学内語学統一試験」を1月に受験してください。

また、履修する場合は、「学科間開放科目受講申込書」を所定の日（「Campus Schedule」参照）までに教務部へ提出してください。履修を許可する場合は、履修登録期間内（「Campus Schedule」参照）に履修登録の画面上に表示しますので、登録を完了してください。（履修が許可されるまでは授業に出席してください。）

なお、日本語学科の専門特別演習科目を履修する場合は、申し込みの必要はありませんので、配当年次に従って履修登録し、1週目の授業で担当教員に申し出てください。

健康科学の実践と理論



スポーツの実践と講義をとおして身体運動能力や協調性を養い、健康の保持・増進に関する諸問題を学ぶことにより、良好な社会生活を営む力を身につけることを目標としています。授業は、実技種目・講義・集中講義で行い、1週目の授業で、授業概要説明と希望種目の抽選を行いますので必ず出席してください。詳しくは、シラバスを参照してください。

① 実技種目	バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー（7週実施）
② 講義	「講義概要説明」・「競技種目の理解」・「障害、外傷」・「スポーツ社会学」・「スポーツ生理学」・「測定と評価」・「まとめ」（7週実施）

- ・「健康科学の実践と理論」は、教育職員免許状取得に必要な「体育に関する科目（2単位）」です。
- ・授業開始までに行う定期健康診断は、授業の一環として扱いますので、必ず受診してください。



テクニカルスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、より高いスポーツ技術の習得、戦術の理解、ゲームの運営や分析について学び、試合や大会の企画・運営ができる能力を各学習段階に応じて習得するコースです。受講希望者が多い場合は、1週目の授業で抽選を行います。また、種目の詳細はシラバスで確認してください。

※ユニバーサルスポーツについて

ペタンク、シャッフルボード、ターゲットバードゴルフ、グランドゴルフ、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、ユニホック、ゴールボール、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボールのルール理解と実践を行います。

※ダンスについて

春学期：エンパワリング・ヨガでは、自分の体との繋がりを強化するために、呼吸を意識し、自身本来の力を活性化して柔軟性、身体感覚、集中力の育成を目指します。

秋学期：リラクゼーション・ヨガでは、落ち着いて呼吸を感じ、バランス、ケアを学びます。



シーズンスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、学外施設を使用した野外活動（集中実技授業）を実施するコースです。なお、このコースの履修希望者は、必ずシーズンスポーツオリエンテーション（日時・場所は「Campus Schedule」参照）に出席してください。

種目名	時期	場所	期間	費用
マリンスポーツ	9月上旬	沖縄県恩納村	4日間	60,000円(予定) ※別途、交通費が必要
スノースポーツ	2月中旬	長野県梅池高原	5日間	40,000円(予定) ※別途、交通費が必要

障がい者初級スポーツ指導員の資格取得

（財）日本障がい者スポーツ協会公認の初級スポーツ指導員の資格とは、障がい者にスポーツ・レクリエーションの生活化を促進する指導技術を習得した人に対して、同協会が公認する資格です。本学の授業科目を履修することにより、この資格を取得することができます。希望する学生は、以下の科目一覧および必要単位数を参照し、履修計画を立ててください。

なお、申請する際には、申請・認定料、登録料として9,300円（予定）が必要です。申請は、以下の科目の単位の修得が見込まれる年度の1月に教務部で行ってください。

科目名（必修科目）	単位	備考
スポーツと国際交流	2	CS（公共政策）
スポーツ政策	2	CS（公共政策）
テクニカルスポーツⅠ～Ⅵから、いずれか2科目（ただし、ユニバーサルスポーツに限る）	1・1	自由選択の科目
必要単位数	6	

※備考欄のCSはキャリア・スタディ科目群の略。

進級判定・卒業判定

1 進級判定

学科毎に進級基準を設け、当該年度に修得した単位数に基づき、年度末に進級判定を行います。判定結果は「進級」または「留年」のいずれかで、「留年」と判定された人は、上級年次に進めなくなり、4年間で卒業することができなくなります。なお、判定結果は所定の日（「Campus Schedule」参照）に京都外大 Web Campus でお知らせします。

< 進級基準 >

	1年次から2年次への進級基準		2年次から3年次への進級基準	3年次から4年次への進級基準
在学期間	1学期以上		3学期以上	5学期以上
卒業要件の合計単位数	—		124単位中の56単位以上	124単位中の84単位以上
全学科共通の基準	—		基礎ゼミナール 2単位 総合科目(言語と平和Ⅰ・Ⅱ) 4単位	第2外国語科目1・2年次分8単位中の4単位以上
各学科の基準	英米語学科	専攻語科目 8単位以上	各学科の専攻語・専門科目1年次分のすべての単位	各学科の専攻語・専門科目2年次分のすべての単位
	スペイン語学科	専攻語科目 6単位以上		
	フランス語学科	専攻語科目 8単位以上		
	ドイツ語学科	専攻語科目 8単位以上		
	ブラジルポルトガル語学科	専攻語科目 6単位以上		
	中国語学科	専攻語科目 7単位以上		
	日本語学科	専門科目 6単位以上		
	イタリア語学科	専攻語科目 7単位以上		

< 進級基準 (日本語学科の日本語を母語としない人) >

	1年次から2年次への進級基準	2年次から3年次への進級基準	3年次から4年次への進級基準
在学期間	1学期以上	3学期以上	5学期以上
卒業要件の合計単位数	—	124単位中の56単位以上	124単位中の84単位以上
学科の基準	日本語学科専門科目 6単位以上		

※ 卒業要件の合計単位数は、総修得単位数ではありません。卒業要件の124単位は、各学科で定める授業科目区分毎の必要単位数の合計です。基準の合計単位数には、授業科目区分毎の必要単位数を超えて修得した単位や、資格課程で修得した単位は含みません。また、キャリア・スタディ科目群のコース登録を3年次に行うことにより、同科目群の単位数が「自由選択」に変わることがありますので、注意してください。

2 卒業判定

4年次生で、休学期間を除いて8学期以上在学し、4年次配当のゼミの指導を2学期間受けた人を対象に、在学中に修得した単位数に基づき、年度末および春学期末に卒業判定を行います。

1. 3月卒業

判定結果は「卒業」、「保留」または「卒業延期」のいずれかとなります。

「保留」と判定された人は、所定の手続きを経て「再試験」を受験することができます。「再試験」の結果に基づき、再度卒業判定を行い、判定結果は「卒業」または「卒業延期」のいずれかとなります。

「卒業延期」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業することができず、在学を継続することになります。また、未修得の授業科目が秋学期開講科目の場合は、所属学科が春学期開講科目の中から指定した授業科目を振り替えて履修することにより、次年度の9月卒業が可能になることがあります。

なお、判定結果は所定の日（「Campus Schedule」参照）に京都外大 Web Campus でお知らせします。

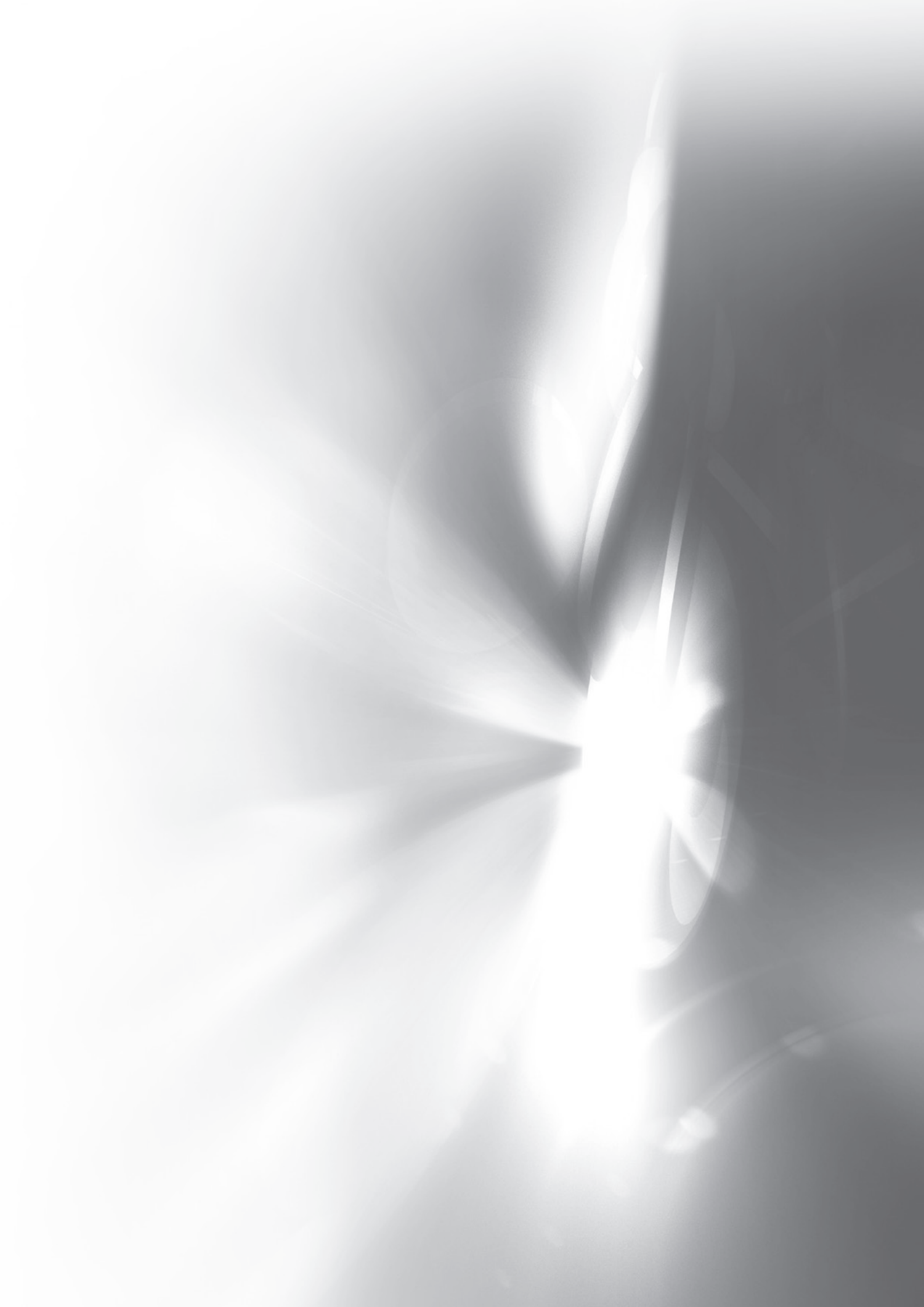
2. 9月卒業

判定結果は「卒業」または「卒業延期」のいずれかとなります。

9月卒業を希望する人は、当該年度の4月の履修登録時に9月卒業の申請手続きを教務部で行ってください。9月卒業の申請手続きを行わない場合は、卒業要件単位数を満たしていても卒業できませんので注意してください。

「卒業延期」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業することができず、在学を継続することになります。

なお、判定結果は9月中旬に京都外大 Web Campus でお知らせします。



国際貢献学部

I 本学の概要

II 学修の進め方について

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

卒業要件

4年（8学期）以上在学し、以下の授業科目区分に従って124単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。

卒業要件を満たすために綿密な履修計画を立て、学生本人の責任において卒業要件を満たしているかを確認してください。

授業科目区分		グローバルスタディーズ学科		グローバル観光学科	
		日本語を母語とする人	日本語を母語としない人	日本語を母語とする人	日本語を母語としない人
専門科目	コア科目	30	30	26	26
	国際協力コース科目	16	16		
	グローバルビジネスコース科目				
	観光政策コース科目			20	20
	観光ビジネスコース科目				
	コース共通科目	26	26	16	16
	英語演習科目	14	14	20	
	日本語演習科目		—		24
外国語科目	英語強化科目	—	—	—	—
	第2外国語科目	6	—	6	—
	第3外国語科目	—	—	—	—
教養科目	地域・文化領域科目	16	16	16	16
	社会科学領域科目				
	自然・人間科学領域科目				
	キャリア形成領域科目				
日本学インスティテュート科目		4	4	4	4
自由選択		12	18	16	18
計		124	124	124	124

※「日本語を母語としない人」とは、学籍番号の下3桁が600番台の人をさします。

※自由選択は、専門科目、外国語科目、教養科目及び日本学インスティテュート科目で、卒業に必要な単位数を超えて修得した単位等を算入する科目区分です。

履修登録

履修登録は、所定の期間内に学生本人が履修する授業科目を自ら決定し、**学生本人の責任において登録する手続き**のことです。

履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目が受けられませんが、試験も受けられず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、履修登録にあたっては、本学ホームページに公開しているシラバス（講義概要）を大いに活用してください。

1 履修登録の時期

4月（原則として年1回）に春学期および秋学期に開講する授業科目を併せて登録します。また、秋学期に留学や休学が決定している場合でも、4月に春学期および秋学期に開講する授業科目を併せて登録してください。

2 履修登録の方法

京都外大 Web Campus の「Web 履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間内に登録できない場合は、必ず事前に教務部へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数を確保し、学修の質を確保するため、学期毎および年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。学期毎の単位数が上限単位数内であっても年間の上限単位数を超えることはできません。

春学期	秋学期	年間
26	26	48

4 第2外国語科目の登録（日本語を母語としない人を除く。）

入学後の予備登録期間に、母語以外の言語を選択してください。なお、登録後に言語の変更はできませんので注意してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

Web 履修登録の画面上または時間割表に表示しますので、確認のうえ登録してください。なお、再履修等により変更が必要な場合は、4月の授業開始までに実施する「再履修等による指定クラス変更相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録**してください。

ただし、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

（例えば、1年次生は2年次配当の授業科目は登録できませんが、4年次生は1～3年次配当の授業科目が登録できます。）

7 受講者を制限または選抜する授業科目（選択科目）の登録

受講者数が多い場合は、受講者を制限または選抜することがありますので、**必ず1回目の授業に出席し、必要な手続きを経て受講できるか確認のうえ、登録**してください。また、登録者数が多く、教育上効果がないと判断した場合は、履修登録後であっても受講者数を制限することがあります。

8 履修登録の確認

コードの入力ミスなどにより誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了するとともに、登録完了時には「内容控え」を印刷し、登録内容を確認のうえ保管しておいてください。また、受講時間割表確認期間に受講時間割表を印刷して、登録した科目が間違いなく受講時間割表に記載されているかを必ず確認してください。万一、履修登録エラーが出ている、登録完了時と異なっている、卒業にかかわる誤りがある場合には、教務部に申し出て指示を受けてください。

9 履修登録科目の取消・秋学期開講科目の履修登録の変更

授業に出席した後に履修を中止する場合は、各学期の所定の期間に京都外大 Web Campus の「Web 履修登録」で、**必修科目（再履修科目・ゼミを含む）を除き**、卒業要件を満たす範囲内で取消の手続きを行ってください。取消後に別の授業科目を追加で登録したり、取り消した授業科目を当該の学期に再度登録することはできませんので、十分注意してください。なお、取消の手続きをした授業科目は、成績表には「W」として記載し、GPA を算出する対象科目とはなりません。

また、4月に履修登録した秋学期の授業科目は、秋学期の所定の期間に履修登録を変更（追加・削除）することができます。京都外大 Web Campus の「Web 履修登録」で、**必修科目（再履修科目・ゼミを含む）を除き**、卒業要件を満たす範囲内で手続きを行ってください。

なお、登録できる上限単位数には春学期に不合格になった授業科目の単位を含みます。

10 その他の注意事項

- ・履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません。
- ・同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
- ・単位を修得済みの授業科目は登録できません。
- ・授業担当者が異なっても同一科目を複数登録することはできません。
- ・大学コンソーシアム京都の単位互換制度および京都外国語短期大学の科目等履修生制度は、京都外大 Web Campus で登録することはできません。

科目区分毎の目標

グローバルスタディーズ学科

専門科目	コア科目	本学の建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS—言語を通して世界の平和を—」を理解し、学科で学ぶ基本的姿勢を身につけ、関連する Community Engagement を通じて理論と実践の合一をめざします。
	国際協力コース科目	世界平和・世界秩序に関する幅広い知識と、人類に共通する地球規模の課題解決に貢献するために必要な実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培います。
	グローバルビジネスコース科目	経済・社会の発展と人類普遍的な価値目標である「豊かさ」に関する知識及びビジネスを通して国際社会に貢献するために必要な実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培います。
	コース共通科目	国際協力とグローバルビジネスの両コースに関連する専門科目を通して、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究します。
	英語演習科目	専門科目を英語で学んだり、海外で Community Engagement を実践したりするための英語力を培います。
	日本語演習科目	各自の日本語運用力に応じて、日本語の個別技能を向上させます。
外国語科目	英語強化科目	英語のより実践的な運用能力を高めるとともに、ハイレベルな英語資格検定試験でも成果を上げられるようにします。
	第2外国語科目	英語の他に、もう一つの外国語を学ぶことにより、その運用能力を高め、その言語についての専門的理解を深めます。
	第3外国語科目	第2外国語以外の外国語を学ぶことによって、広く言語についての理解と洞察力を身につけます。
教養科目		実践的な教養教育をめざすとともに、広く国際人として活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけます。
日本学インスティテュート科目		日本独自の社会・制度・文化・価値観等について、外国人留学生と日本語を母語とする学生がともに英語で学び、日本に対する理解力と発信力を高めます。

グローバル観光学科

専門科目	コア科目	本学の建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS—言語を通して世界の平和を—」を理解し、学科で学ぶ基本的姿勢を身につけ、関連する Community Engagement を通じて理論と実践の合一をめざします。
	観光政策コース科目	地域が持つ固有の価値を尊重し、地域経済と地域文化を融合させて地域の発展を可能とするために必要な知識と実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培います。
	観光ビジネスコース科目	観光ビジネスで必要な幅広い知識と基礎理論、即戦力となる実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培います。
	コース共通科目	観光政策と観光ビジネスの両コースに関連する専門科目を選択し、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究します。
	英語演習科目	海外で Community Engagement を実践するための英語力を培います。
	日本語演習科目	専門科目を日本語で学んだり、日本国内で Community Engagement を実践したりするための日本語力を培うとともに、卒業論文・卒業研究を日本語で作成できるようにします。
外国語科目	英語強化科目	英語のより実践的な運用能力を高めるとともに、ハイレベルな英語資格検定試験でも成果を上げられるようにします。
	第2外国語科目	英語の他に、もう一つの外国語を学ぶことにより、その運用能力を高め、その言語についての専門的理解を深めます。
	第3外国語科目	第2外国語以外の外国語を学ぶことによって、広く言語についての理解と洞察力を身につけます。
教養科目		実践的な教養教育をめざすとともに、広く国際人として活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけます。
日本学インスティテュート科目		日本独自の社会・制度・文化・価値感等について、外国人留学生と日本語を母語とする学生がともに英語で学び、日本に対する理解力と発信力を高めます。

専門科目

【グローバルスタディーズ学科】

科目区分	1 年次				2 年次						
	春学期		秋学期		春学期		秋学期				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位			
コア	必修	Global Engagement	2	Global Engagement and Peace (S)	2						
		Model United Nations	2								
		Contemporary Global History	2								
		Introductory Seminar I	2	Introductory Seminar II	2						
				Introduction to Economics (週2回授業)	4						
				Digital Literacy	2						
コア	選択			Community Engagement Workshop I	2	Community Engagement Workshop II	2				
						Statistics	2				
								Community Engagement S1 (集中講義)	6		
								Community Engagement S2 (集中講義)	6		
								Community Engagement S3 (集中講義)			
								Community Engagement S4 (集中講義)	6		
国際協力	選択							Community Engagement S6 (集中講義)	6		
						International Development Cooperation (週2回授業)	4				
						Ethics for Peace Design (集中講義)	2				
						Conflict Resolution	2				
グローバルビジネス	選択										
						Introduction to Global Business (週2回授業)	4				
						Ethics for Global Business	2				
						Accounting and Finance (集中講義)	2				
コース共通	選択										
						Issues in International Relations (週2回授業)	4				
						Issues in Global Economy and Business	2				
						International Organizations / Intro. to the United Nations	2				
						Intro. to Presentation Preparation Design & Delivery I	2	Intro. to Presentation Preparation Design & Delivery II	2		
								Gender and Society (週2回授業)	4		
										Microeconomics (週2回授業)	4
										Macroeconomics (週2回授業)	4
										Security Studies	2
										International Energy Affairs	2
英語演習	必修										
						English Communication for Global Studies I (週2回授業)	4	English Communication for Global Studies II (週2回授業)	4		
						Academic Writing for Global Studies I	2	Academic Writing for Global Studies II	2	Academic Writing for Global Studies III	2
日本語演習(日本語を母語としない人)	選択										
						日本語 I - 1	2	日本語 II - 1	2	日本語 III - 1	2
						日本語 I - 2	2	日本語 II - 2	2	日本語 III - 2	2
						日本語 I - 3	2	日本語 II - 3	2	日本語 III - 3	2
				日本語 I - 4	2	日本語 II - 4	2	日本語 III - 4	2		

※集中講義は学期の前半または後半に集中して授業等を行います。当該年度の授業科目時間割表で確認してください。 ※「週2回授業」は、必ず2回とも履修してください。

※㊦を付した授業科目については、下記「履修上の注意事項」を確認のうえ履修してください。



履修上の注意事項

1	コア科目(必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、24単位を修得してください。 ②「Model United Nations」、「Introductory Seminar I・II」、「Digital Literacy」、「Community Engagement Workshop I・II」はクラスを指定します。
2	コア科目(選択) ①配当年次に従い、いずれか1科目を選択して履修し、6単位を修得してください。 ②所定の単位を修得した後に、他の「Community Engagement」を履修して修得した単位は6単位を上限として自由選択に算入します。
3	国際協力コース科目・グローバルビジネスコース科目 ①配当年次に従い、登録したコースから選択して履修し、以下の単位を含めて、16単位を修得してください。 ・国際協力コース登録者は「Peace Design Seminar III(2単位)・IV(2単位)」の計4単位、グローバルビジネスコース登録者は「Global Business Seminar III(2単位)・IV(2単位)」の計4単位 ・「Graduation Thesis」、「Project A」、「Project B」のいずれか2単位 ②コース登録は1年次秋学期の授業終了後に行います。

3 年次				4 年次				卒業要件 単位数
春学期		秋学期		春学期		秋学期		
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
								24
	6							6
Community Engagement S5 (集中講義)	6							
Peace Design Seminar I	2	Peace Design Seminar II	2	Peace Design Seminar III	2	Peace Design Seminar IV	2	16
		Global Justice	2			Graduation Thesis / Project A	2	
							0~4	
			1~8					
Global Business Seminar I	2	Global Business Seminar II	2	Global Business Seminar III	2	Global Business Seminar IV	2	16
		Corporate Finance	2			Graduation Thesis / Project B	2	
							0~4	
			1~8					
Digital Communication	2	International Labor (週2回授業)	4	Strategic Cost Management (集中講義)	2	Japan-US Relations and East Asia (週2回授業)	4	26
Global Negotiation (集中講義)	2	International Finance	2	Topics on Labor and Management (週2回授業)	4			
International Trade (集中講義) ㊸	2	Country Risk Analysis ㊸	2					
Gender and Leadership (集中講義)	2	Brand Communications and Storytelling in Business	2					
Corporate Social Responsibility (集中講義)	2	Environmental Policy (集中講義)	2					
Econometrics ㊸	2							
Economics of Development ㊸	2							
Public Economics ㊸	2						0~26	
			1~12					14
日本語Ⅳ-1	2	日本語Ⅳ-2	2					(-)

※ () 内は日本語を母語としない人の卒業要件単位数

4	コース共通科目 ①配当年次に従い、選択して履修し、26単位を修得してください。 ②[Organization Management]および[Business Strategy]を履修するためには、グローバルビジネスコースの[Introduction to Global Business]を履修しておいてください。 ③[International Trade]を履修するためには、「Microeconomics」を履修しておいてください。 ④[Econometrics]を履修するためには、コアの[Statistics]、コース共通の[Microeconomics] [Macroeconomics]を履修しておいてください。 ⑤[Economics of Development]および[Public Economics]を履修するためには、「Microeconomics」[Macroeconomics]を履修しておいてください。 ⑥[Country Risk Analysis]を履修するためには、「Macroeconomics」を履修しておいてください。
5	英語演習科目 ①配当年次に従い、すべての科目を履修し、14単位を修得してください。 ②クラスを指定します。
6	日本語演習科目 ①日本語を母語とする人は履修できません。 ②日本語を母語としない人が履修して修得した単位は、自由選択に算入します。

[グローバル観光学科]

科目区分	1 年次				2 年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
コア	必修	Global Engagement	2						
		グローバル観光概論	2						
		京都文化概論	2						
		Community Engagement Workshop I	2			Community Engagement Workshop II	2		
	選択	経営学概論	2	経済学概論	2				
				Global Engagement and Peace (T)	2				
				異文化間コミュニケーション論 A	2	グローバル地域研究 A	2		
				異文化間コミュニケーション論 B	2	グローバル地域研究 B	2		
コース共通	選択						Community Engagement T1 (集中講義)	6	
							Community Engagement T2 (集中講義)	6	
							Community Engagement T3 (集中講義)	6	
							Community Engagement T4 (集中講義)	6	
							Community Engagement T5 (集中講義)	6	
							Community Engagement T6 (集中講義)	6	
							Community Engagement T7 (集中講義)	6	
							Community Engagement T8 (集中講義)	6	
観光政策コース	選択			New Media Marketing in Tourism	2	観光行政・政策論	2		
				観光まちづくり論	2	New Media Lab	2		
観光ビジネスコース	選択			Kyoto Introduction Methods	2	観光マーケティング	2		
				会計学入門	2	旅行ビジネス	2		
コース共通	必修	観光社会学	2	観光人類学	2				
		観光地理学	2						
		多言語観光論	2	観光調査・研究法	2	ミクロ経済学 (週2回授業)	4	経営戦略論 (集中講義)	2
		文化遺産と観光	2	京都の歴史	2	マクロ経済学 (週2回授業)	4	スピリチュアルツーリズム (集中講義)	2
				観光メディア論 (集中講義)	2	企業財務と会計	2	ユニバーサルツーリズム (集中講義)	2
						観光倫理学	2	エコ/グリーンツーリズム (集中講義)	2
						インバウンド観光ビジネス	2	フードツーリズム (集中講義)	2
						ホテル事業論	2	エスニックツーリズム (集中講義)	2
						Game Based Tourism	2		
						観光消費者行動論	2		
						京都モノ・コト学	2		
						サステナブルツーリズム (集中講義)	2		
英語演習 (日本語を母語とする人)	必修	Reading Skills for Research	1	Presentation Skills for Research	1	English for Academic Research	1		
		Writing Skills for Research	1	Communication Skills for Fieldwork Research	1	Communication Skills for Tourism	1		
日本語演習 (日本語を母語としない人)	選択	TOEIC Preparation	1	Global Affairs Seminar I	1	Global Affairs Seminar II	1		
		IELTS & TOEFL Preparation	1	Hospitality English I	1	Hospitality English II	1		
日本語演習 (日本語を母語とする人)	必修	日本語Ⅰ-1	2	日本語Ⅱ-1	2	日本語Ⅲ-1	2		
		日本語Ⅰ-2	2	日本語Ⅱ-2	2	日本語Ⅲ-2	2		
		日本語Ⅰ-3	2	日本語Ⅱ-3	2	日本語Ⅲ-3	2		
		日本語Ⅰ-4	2	日本語Ⅱ-4	2	日本語Ⅲ-4	2		

※集中講義は学期の前半または後半に集中して授業等を行います。当該年度の授業科目時間割表で確認してください。

※㊦を付した授業科目については、下記「履修上の注意事項」を確認のうえ履修してください。

履修上の注意事項	
1	コア科目(必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。 ②「Community Engagement Workshop I・II」はクラスを指定します。
2	コア科目(選択) [異文化間コミュニケーション論、グローバル地域研究] ①配当年次に従い、選択して履修し、4単位を修得してください。
3	コア科目(選択) [Community Engagement] ①配当年次に従い、いずれか1科目を選択して履修し、6単位を修得してください。 ②所定の単位を修得した後に、他の「Community Engagement」を履修して修得した単位は6単位を上限として自由選択に算入します。
4	観光政策コース科目・観光ビジネスコース科目 ①配当年次に従い、登録したコースから選択して履修し、以下の単位を含めて、20単位を修得してください。 ・観光政策コース登録者は「グローバル観光政策ゼミⅢ(2単位)・Ⅳ(2単位)」の計4単位、観光ビジネスコース登録者は「グローバル観光ビジネスゼミⅢ(2単位)・Ⅳ(2単位)」の計4単位 ・卒業論文、卒業研究A、卒業研究Bのいずれか2単位 ②「観光交通論」を履修するためには、コース共通科目の「ミクロ経済学」を履修しておいてください。 ③「サービスイノベーション論」を履修するためには、コース共通科目の「経営組織論」「経営戦略論」を履修しておいてください。 ④コース登録は1年次春学期の授業終了後に行います。

3 年次				4 年次				卒業要件 単位数
春学期		秋学期		春学期		秋学期		
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
								16
								4
								6
								6
地域振興論	2	MICE 論	2	グローバル観光政策ゼミⅢ	2	グローバル観光政策ゼミⅣ	2	0~10
グローバル観光政策ゼミⅠ	2	グローバル観光政策ゼミⅡ	2			卒業論文または卒業研究 A	2	
								20
観光交通論 ㊸	2	サービスイノベーション論 ㊸	2	グローバル観光ビジネスゼミⅢ	2	グローバル観光ビジネスゼミⅣ	2	0~10
グローバル観光ビジネスゼミⅠ	2	グローバル観光ビジネスゼミⅡ	2			卒業論文または卒業研究 B	2	
								6
スポーツツーリズム (集中講義)	2	環境計画論	2					0~10
コンテンツツーリズム (集中講義)	2							
東アジアツーリズム事情 (集中講義)	2							
開発経済学 ㊸	2							
公共経済学 ㊸	2							
観光関連法規	2							
観光まちづくり実践Ⅰ (PBL)	2	観光まちづくり実践Ⅱ (PBL)	2					
		観光の思想	2					
		観光経営論 (集中講義)	2					
		観光とリスクマネジメント (集中講義)	2					
								20
English Workshop for Tourism I	2	English Workshop for Tourism II	2	Destination Studies I	2	Destination Studies II	2	20
日本語Ⅳ-1	2	日本語Ⅳ-2	2					(24)

※ () 内は日本語を母語としない人の卒業要件単位数

5	コース共通科目 ①必修科目は、配当年次に従い、すべての科目を履修し、6単位を修得してください。 ②選択科目は、配当年次に従い、選択して履修し、10単位を修得してください。 ③「開発経済学」および「公共経済学」を履修するためには、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修しておいてください。 ④「週2回授業」は、必ず2回とも履修してください。
6	英語演習科目 ①日本語を母語とする人は、配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、20単位を修得してください。 ②日本語を母語としない人は履修できません。 ③クラスを指定します。
7	日本語演習科目 ①日本語を母語としない人は、配当年次に従い、選択して履修し、24単位を修得してください。 ②日本語を母語とする人は、履修できません。

I 大学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

外国語科目

[グローバルスタディーズ学科・グローバル観光学科 共通]

科目区分	1年次				2年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
英語強化	選択	TOEIC Listening I	1	TOEIC Listening II	1				
		TOEIC Reading I	1	TOEIC Reading II	1				
		TOEIC Intensive I	2	TOEIC Intensive II	2	TOEIC Intensive III	2	TOEIC Intensive IV	2
		Intermediate TOEIC Workshop							
		Intermediate IELTS Workshop							
		Advanced TOEIC Workshop I				Advanced TOEIC Workshop II		2	
		Advanced IELTS Workshop I				Advanced IELTS Workshop II		2	
第2外国語	選択	基礎スペイン語 (週2回授業)	2	スペイン語Ⅰ-1	1	スペイン語Ⅱ-1	1	スペイン語Ⅲ-1	1
				スペイン語Ⅰ-2	1	スペイン語Ⅱ-2	1	スペイン語Ⅲ-2	1
		基礎フランス語 (週2回授業)	2	フランス語Ⅰ-1	1	フランス語Ⅱ-1	1	フランス語Ⅲ-1	1
				フランス語Ⅰ-2	1	フランス語Ⅱ-2	1	フランス語Ⅲ-2	1
		基礎ドイツ語 (週2回授業)	2	ドイツ語Ⅰ-1	1	ドイツ語Ⅱ-1	1	ドイツ語Ⅲ-1	1
				ドイツ語Ⅰ-2	1	ドイツ語Ⅱ-2	1	ドイツ語Ⅲ-2	1
		基礎ポルトガル語 (週2回授業)	2	ポルトガル語Ⅰ-1	1	ポルトガル語Ⅱ-1	1	ポルトガル語Ⅲ-1	1
				ポルトガル語Ⅰ-2	1	ポルトガル語Ⅱ-2	1	ポルトガル語Ⅲ-2	1
		基礎中国語 (週2回授業)	2	中国語Ⅰ-1	1	中国語Ⅱ-1	1	中国語Ⅲ-1	1
				中国語Ⅰ-2	1	中国語Ⅱ-2	1	中国語Ⅲ-2	1
		基礎イタリア語 (週2回授業)	2	イタリア語Ⅰ-1	1	イタリア語Ⅱ-1	1	イタリア語Ⅲ-1	1
				イタリア語Ⅰ-2	1	イタリア語Ⅱ-2	1	イタリア語Ⅲ-2	1
		基礎アラビア語 (週2回授業)	2	アラビア語Ⅰ-1	1	アラビア語Ⅱ-1	1	アラビア語Ⅲ-1	1
				アラビア語Ⅰ-2	1	アラビア語Ⅱ-2	1	アラビア語Ⅲ-2	1
		基礎オランダ語 (週2回授業)	2	オランダ語Ⅰ-1	1	オランダ語Ⅱ-1	1	オランダ語Ⅲ-1	1
				オランダ語Ⅰ-2	1	オランダ語Ⅱ-2	1	オランダ語Ⅲ-2	1
基礎ロシア語 (週2回授業)	2	ロシア語Ⅰ-1	1	ロシア語Ⅱ-1	1	ロシア語Ⅲ-1	1		
		ロシア語Ⅰ-2	1	ロシア語Ⅱ-2	1	ロシア語Ⅲ-2	1		
第3外国語	選択			マレー・インドネシア語Ⅰ	1	マレー・インドネシア語Ⅱ	1		
				トルコ語Ⅰ	1	トルコ語Ⅱ	1		
				インド語Ⅰ	1	インド語Ⅱ	1		
				タイ語Ⅰ	1	タイ語Ⅱ	1		
				ベトナム語Ⅰ	1	ベトナム語Ⅱ	1		
				スワヒリ語Ⅰ	1	スワヒリ語Ⅱ	1		



履修上の注意事項

1	<p>英語強化科目</p> <p>①配当年次に従い、選択して履修することができます。修得した単位は自由選択に算入します。</p> <p>②春学期・秋学期両方に担当している授業科目の開講学期は、毎年度配布する授業科目時間割表で確認してください。</p>
2	<p>第2外国語科目</p> <p>①日本語を母語とする人は、配当年次に従って、1言語を選択して履修し、6単位を修得してください。6単位を超えて修得した単位は自由選択に算入します。</p> <p>②日本語を母語としない人は、母語以外の1言語を選択し、配当年次に従って履修することができます。修得した単位は自由選択に算入します。</p> <p>③1年次生は、所定の日に予備登録を行い、指定クラスを履修登録画面で確認してください。(日本語を母語とする人のみ)</p> <p>④2年次生は、1年次に選択した外国語の指定クラスを履修登録画面で確認してください。</p> <p>⑤「週2回授業」は、必ず2回とも履修してください。</p> <p>⑥授業科目時間割表で「ペア」と記載のあるものは、必ず同じペアの授業科目を履修してください。</p> <p>⑦1年次の予備登録で選択した外国語は変更できません。</p>
3	<p>第3外国語科目</p> <p>母語以外の1言語を選択して履修することができます。修得した単位は自由選択に算入します。</p>

	3年次				4年次				卒業要件 単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
									—
									6(-)
									—

※ () 内は日本語を母語としない人の卒業要件単位数

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

教養科目

[グローバルスタディーズ学科・グローバル観光学科 共通]

科目区分	1 年次				2 年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
地域・文化領域	選択	哲学	2	世界史 A - 政治・経済を中心に	2	アフリカ文化事情	2		
						ロシア東欧の社会	2		
						Food and Human Culture and Environment	2		
						Eat to Live & Live to Eat - Food around the world	2		
						Intercultural Communication in Practice I	2	Intercultural Communication in Practice II	2
						現代ヨーロッパ地域事情 I	2	現代ヨーロッパ地域事情 II	2
						現代北米地域事情 I	2	現代北米地域事情 II	2
						現代ラテンアメリカ地域事情 I	2	現代ラテンアメリカ地域事情 II	2
						現代アジア地域事情 I	2	現代アジア地域事情 II	2
						現代中東・アフリカ地域事情 I	2	現代中東・アフリカ地域事情 II	2
						南アジアの歴史と文化 I	2	南アジアの歴史と文化 II	2
						ポップカルチャー論	2		
								世界の諸宗教	2
						イスラーム世界の思想と社会	2		
						ミュージアムマネジメント (PBL)	2		
社会科学領域	選択	政治学	2	日本国憲法	2	国際法	2		
		Public Diplomacy	2			国際関係論入門	2		
						国際安全保障論	2		
						日本経済と経済政策	2		
						国際経済学の基礎	2		
						国際開発論	2		
						マスメディア基礎論	2		
						模擬国連会議 (PBL)	2		
						国際政治史 I	2	国際政治史 II	2
						外交戦略論 I	2	外交戦略論 II	2
						国際 NGO 論	2		
						国際機構論	2		
自然・人間科学領域	選択	リーダーシップ概論	2	グローバル環境論	2	多文化理解と人権	2		
		生活と環境	2	同和教育と人権	2	グローバルリーダーシップ	2		
				生涯学習概論	2	都市と環境	2		
						Environmental Issues	2		
						スポーツ政策	2		
						テクニカルスポーツ I ㊦	1	テクニカルスポーツ II ㊦	1
								スポーツと国際交流	2
								現代と社会環境	2
								環境政策	2
								Sustainable Development	2
						多文化共生 (PBL)	2		
キャリア形成領域	選択			情報技術の実践	2	マルチメディアプレゼンテーション演習	2		
				Interactive Webpublishing(PBL)	2	キャリア形成	2		
						日本のものづくり (PBL)	2		
						ツアープランニング (PBL)	2		
						サービス戦略論	2		
						マーケティング戦略論	2		
						サービス・マーケティング	2		
						CSR マネジメント	2		
						NGO・NPO 活動論	2		
						ビジネスコンピューティング I	2	ビジネスコンピューティング II	2
						簿記会計・基礎	2	簿記会計・上級	2
								メディアリテラシー論	2
								起業と起業文化	2
								ボランティア活動論	2
						コミュニティビジネス	2		
						国内・海外留学認定科目			
						編入学時認定科目			

※ ㊦を付した授業科目については、下記「履修上の注意事項」を確認のうえ履修してください。



履修上の注意事項

1

配当年次に従い、選択して履修し、16単位を修得してください。

3年次		4年次				卒業要件 単位数		
春学期		秋学期		春学期			秋学期	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		授業科目	単位
京都モノ・コト探究 (PBL)	2							16
								1~16
								1~30

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

2 テクニカルスポーツ I・II は、2年次以降に、外国語学部で開講する「健康科学の実践と理論」の単位を修得したうえで履修してください。テクニカルスポーツの内容については、79ページを参照してください。

日本学インスティテュート科目

[グローバルスタディーズ学科・グローバル観光学科 共通]

科目区分	1年次				2年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
日本学 インスティテュート 選択	Business Administration in Japan	2	Japanese Major Corporations	2				
	Current Japan and Tradition	2	Japanese Perspectives on Global Peace-Building Initiatives	2				
	Japan Pop Cultures	2	Japanese Philosophy	2				
	Japan seen through Animations	2	Destination Kyoto	2				
	Japanese Diplomacy and Security	2	Media in Japan	2				
	Japanese Economy	2	Modern Japanese History	2				
	Japanese Geography	2	Religions in Japan	2				
	Japanese History	2						
	Japanese History and Culture	2						
	Research of Japanese Culture	2						



履修上の注意事項

配当年次に従い、選択して履修し、4単位を修得してください。

3年次		4年次				卒業要件 単位数		
春学期		秋学期		春学期			秋学期	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		授業科目	単位
								4

I 大学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

自由選択

自由選択は、以下のとおり修得した単位を算入する授業科目区分で、グローバルスタディーズ学科の人は12単位（日本語を母語としない人は18単位）を、グローバル観光学科の人は16単位（日本語を母語としない人は18単位）を修得してください。

- ・以下のとおり授業科目区分毎の卒業に必要な単位数を超えて修得した単位
 - 所定の Community Engagement の単位を修得した後に、他の Community Engagement で修得した単位
 - 日本語を母語とする人が、第2外国語科目で6単位を超えて修得した単位
 - 日本語を母語としない人が、第2外国語科目を履修して修得した単位
 - グローバルスタディーズ学科の日本語を母語としない人が、日本語演習科目で修得した単位
 - 英語強化科目を履修して修得した単位
 - 第3外国語を履修して修得した単位
- ・グローバルスタディーズ学科の人が、グローバル観光学科の専門科目（コア科目、ゼミ、英語演習科目および日本語演習科目を除く。）を履修して修得した単位
- ・グローバル観光学科の人が、グローバルスタディーズ学科の専門科目（コア科目、ゼミ、英語演習科目および日本語演習科目を除く。）を履修して修得した単位
- ・外国語学部で開講する授業科目の内、外国語学部が指定した授業科目を履修して修得した単位
- ・本学以外の教育施設等で修得した単位
- ・本学独自のプログラム等で修得した単位

国際貢献学部の学科間および外国語学部の授業科目の履修

グローバルスタディーズ学科の人はグローバル観光学科の専門科目（コア科目、ゼミ、英語演習科目および日本語演習科目を除く。）を、グローバル観光学科の人はグローバルスタディーズ学科の専門科目（コア科目、ゼミ、英語演習科目および日本語演習科目を除く。）を2年次から配当年次に従って履修することができます。

なお、修得した単位は6単位を上限として自由選択に算入します。

また、外国語学部で開講する授業科目の内、以下の授業科目を2年次から配当年次に従って履修することができます。

なお、修得した単位は6単位を上限として自由選択に算入します。

- ・外国語強化科目
 - ※所属学科で日本語能力の強化が必要と判断された人で、日本語インテンシブ（日本語C1～10）を履修して修得した単位は、卒業要件単位には算入しませんので注意してください。
- ・グローバル・スタディ科目群（ゼミを除く。）
- ・キャリア・スタディ科目群（ゼミを除く。）
- ・自由選択として開講する科目

障がい者初級スポーツ指導員の資格取得

（財）日本障がい者スポーツ協会公認の初級スポーツ指導員の資格とは、障がい者にスポーツ・レクリエーションの生活化を促進する指導技術を習得した人に対して、同協会が公認する資格です。本学の授業科目を履修することにより、この資格を取得することができます。希望する学生は、以下の科目一覧および必要単位数を参照し、履修計画を立ててください。

なお、申請する際には、申請・認定料、登録料として9,300円（予定）が必要です。申請は、以下の科目の単位の修得が見込まれる年度の1月に教務部で行ってください。

科目名（必修科目）	単位	備考
スポーツと国際交流	2	教養科目
スポーツ政策	2	教養科目
テクニカルスポーツⅠ・Ⅱ （ただし、ユニバーサルスポーツに限る）	1・1	教養科目
必要単位数	6	

Graduation Thesis・卒業論文・Project・卒業研究

4年次配当のゼミ科目Ⅲ・Ⅳを履修し、グローバルスタディーズ学科の人は「Graduation Thesis」または「Project」を、グローバル観光学科の人は「卒業論文」または「卒業研究」を提出してください。

1 Graduation Thesis・卒業論文

1. Graduation Thesis・卒業論文の題目および Graduation Thesis・卒業論文計画書

担当教員の指示に従って、担当教員に提出してください。また、Graduation Thesis・卒業論文の題目を変更する場合も担当教員の指示に従ってください。

2. Graduation Thesis・卒業論文の提出

(1) 提出期間

3月卒業	12月13日～20日	受付時間：9：00～17：00 受付場所：本学指定の場所
9月卒業	7月1日～20日	

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。

※提出期限に遅れた場合は受け付けませんので、注意してください。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長することがありますが、追試験に準じた手続きが必要となります。

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

(2) 本文の使用言語

グローバルスタディーズ学科：英語

グローバル観光学科：英語または日本語

(3) 本文の書式

< パソコンを使用する場合 >

以下のとおり設定してください。原則として英語で20枚以上とします。また、日本語の場合は16,000字以上を原則とします。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの文字数等	英語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、CenturyまたはTimes New Romanの12ポイント26行に設定。 日本語では、10.5または11ポイントの文字の大きさで、1枚につき一行40字（アルファベットは半角80字）30行で、横書きに設定。

< 手書きの場合 >

黒インクの万年筆またはボールペンを使用し、A4版400字詰原稿用紙40枚以上とします。

(4) 本文以外の添付書類（本文の枚数には含みません。）

① Graduation Thesis・卒業論文題目（本学所定用紙）

② 内題・検索用キーワード（本学所定用紙）

2部作成し、1部は本文に添付し、1部は Graduation Thesis・卒業論文とは別に提出してください。

③ 論文要旨

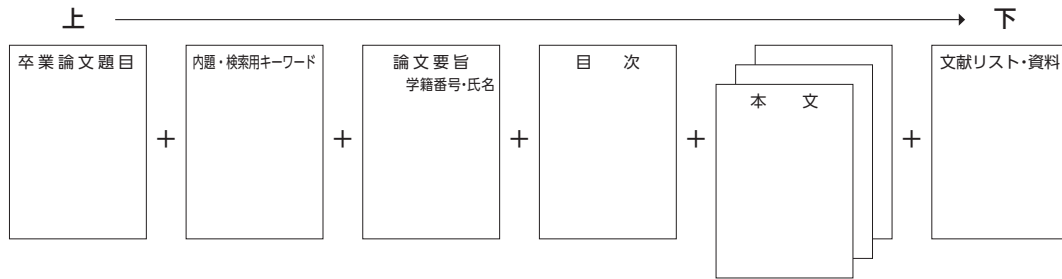
パソコンを使用し、日本語（A4用紙1～2枚・800～1,200字）で2部作成してください。1部は本文に添付し、1部は Graduation Thesis・卒業論文とは別に提出してください。なお、学籍番号および氏名を必ず記入してください。

④ 目次

⑤ 文献リスト・資料

(5) ファイルの綴じ方

本学所定のファイル (A 4縦型、透明のレールクリヤーホルダー) を使用し、以下のとおり綴じてください。



3. Graduation Thesis・卒業論文の評価

論文審査および口述試問により評価し、合格した場合は Graduation Thesis または卒業論文の単位として2単位を認定します。

2 Project・卒業研究

担当教員の指示に従って、Project・卒業研究を進めてください。

Project・卒業研究はプレゼンテーション、提出物等により評価し、合格した場合は Project または卒業研究の単位として2単位を認定します。

卒業判定

4年次生で、休学期間を除いて8学期以上在学した人を対象に、在学中に修得した単位数に基づき、年度末および春学期末に卒業判定を行います。

1. 3月卒業

判定結果は「卒業」、「保留」または「卒業延期」のいずれかとなります。

「保留」と判定された人は、所定の手続きを経て「再試験」を受験することができます。「再試験」の結果に基づき、再度卒業判定を行い、判定結果は「卒業」または「卒業延期」のいずれかとなります。

「卒業延期」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業することができず、在学を継続することになります。

なお、判定結果は所定の日(「Campus Schedule」参照)に京都外大 Web Campus でお知らせします。

2. 9月卒業

判定結果は「卒業」または「卒業延期」のいずれかとなります。

9月卒業を希望する人は、当該年度の4月の履修登録時に9月卒業の申請手続きを教務部で行ってください。9月卒業の申請手続きを行わない場合は、卒業要件単位数を満たしていても卒業できませんので注意してください。

「卒業延期」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業することができず、在学を継続することになります。

なお、判定結果は9月中旬に京都外大 Web Campus でお知らせします。

各種プログラム・ 制度等

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程



インターンシップ制度

インターンシップ制度とは、在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を企業等において実習・研修する制度のことです。

なお、**4年次生は、インターンシップにより修得した単位の認定が卒業判定に間に合わない可能性があるため卒業要件単位に含めないようにしてください。1～3年次生についても、単位の認定が翌年になる可能性があるため進級基準における「卒業要件の合計単位数」に含めないようにしてください。**

海外インターンシップの詳細は 195・196 ページを参照してください。



1. 本学独自のインターンシップ		対象年次：1～4年次生
<p>企業等で行う就業体験は「学生のうちに取り組むべきこと」に気づかせ、「業界・企業・自己を知ること」に大きな役割を果たします。仕事環境の中で「考え行動を起こし、実現したこと」が「強み」であり、自信に繋がります。プログラムの概要は、「事前学習」→「実習」→「事後学習」をひとつの枠組みとし、実習期間は原則として1週間から4週間です。</p>		
出願方法	詳細は説明会でお知らせします。説明会の日時等は京都外大 Web Campus でお知らせします。	
単位認定	<p>本学独自のインターンシップは、本人の申請に基づき、学習・実習時間数に応じて自由選択の「インターンシップ2」（1～4単位）として認定します。また、異なる種類のインターンシップに複数回参加する場合も同様に単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は「国内外インターンシップ」「エアラインスタディプログラム（JAL）」「国内外日本語教壇実習」で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。なお、単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（43ページ）を参照してください。</p>	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、実習日誌、事後学習レポート
	提出時期	9月下旬または3月下旬
	提出場所	キャリアセンター

2. 「大学コンソーシアム京都」のインターンシップ		対象年次：1～4年次生
コースの種類	ビジネスコース	一般企業・団体等において就業体験を行う
	パブリックコース	行政機関・非営利組織等においてインターンシップ実習を行う
	プログレスコース	長期・プロジェクト型インターンシップを行う
<p>プログラムの概要は、「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとし、各コースごとにその目的に沿ったものとなっています。</p>		
出願書類の配布	出願に必要な書類はキャリアセンター資料室に設置します。	
出願方法	受講を希望する学生は、インターンシップ実習生募集ガイドを熟読し、大学コンソーシアム京都事務局に直接申込みをしてください。	
単位認定	なし	
実習後の提出書類	提出書類	事後学習レポートまたはプロジェクト報告書
	提出時期	10月上旬または11月中旬
	提出場所	大学コンソーシアム京都

日本語教員養成プログラム

<外国語学部生対象>

このプログラムは、日本語を母語としない人に対して、外国語としての日本語を教えらるる日本語教員の養成を目的としています。本学では下表のとおり日本語学科の学生を対象とした「コース1」と日本語学科以外の学生を対象とした「コース2」を設けています。



教育職員免許法に定められた国語の教員とは異なりますので注意してください。

コース名	コース1	コース2
対象	日本語学科の学生を対象	日本語学科以外の7学科の学生を対象
コース登録	必要なし	2年次以降で4月にコース登録が必要です。 (コース登録は初年度に行いますので、登録済みの人は次年度以降に登録する必要はありません。)
日本語教育に必要な知識・能力	日本語教員に必要な知識と能力の各区分に、それぞれ基準単位数を定めています。 ① 社会・文化・地域 ② 言語と社会 ③ 言語と心理 ④ 言語と教育 ⑤ 言語	
基準単位数	45 単位以上 (詳細は 104 ページを参照)	30 単位以上 (詳細は 105・106 ページを参照)
証明書	それぞれの所定の授業科目を履修し、基準単位数を満たした人に証明書を発行 「日本語教員養成(主専攻)に係る単位 修得証明書」	「日本語教員養成(副専攻)に係る単位 修得証明書」

【日本語教育能力検定試験の受験について】

将来国内および海外において外国人に対して日本語を教授し、広く日本文化を紹介するという強い意思のある学生は、このプログラムの各コースを修めるだけでなく、公益財団法人が実施する「日本語教育能力検定試験」を受験するようにしてください。この試験は受験者の知識・能力が日本語教育の専門家として必要とされる水準に達しているかどうかを審査し証明するものです。

【SNS を活用した日本語教員養成支援プロジェクト】

多文化共生時代の協働による日本語教員養成

この支援プロジェクトは、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム(教育 GP)」の選定を受け、日本語教員養成プログラムの受講生の学習支援を行うものです。

本学の日本語教員養成プログラムは、多文化共生時代に対応できる「協働と内省により得た知見を再構築する能力」を備えた日本語教師の育成をめざしています。この支援プロジェクトでは、体験後の意識の変化や自己反省、前日からの成長などを「Web ダイアリー」に記録します。ダイアリーでは、授業での学びや授業見学などによるインプットと実習授業や支援活動などのアウトプットを順序だてて整理し、有機的に統合することができます。さらに、リアルタイムでの情報交換が常時可能なコミュニティ(SNS)を構築し、支援ネットワークを創出します。ダイアリーを Web で共有することによって、本学教員からタイムリーに直接指導を受けたり、学生間の対話を促進することができます。また「自己評価シート」・「日本語教育能力診断テスト」を活用し体験活動終了後に学生自身が問題点や課題を洗い出し、自ら解決するための支援も行います。これらによって、学生が体験する地域でのボランティア、海外でのインターンシップ、国内外での短期研修において、「学び」と「実践」を有機的に統合する教育を展開し、多文化共生時代に対応できる「協働と内省により得た知見を再構築する能力」を育成します。

この支援プロジェクトを有効に機能させるために、6号館の推進室には日本語教育に関するアドバイザーを配置し、書籍や教材・素材を用意しています。

1 コース1 (日本語学科の学生対象)

より高度で専門性の高い知識と技術を身につけるコースです。

下表に示す科目の中から日本語教員養成の基準単位数 45 単位以上修得して本学を卒業する人に対して「日本語教員養成 (主専攻) に係わる単位修得証明書」を発行します。

申請手続きは 4 年次の1月 (日程は「Campus Schedule」参照) に行ってください。

日本語教員に必要な知識・能力		本学における授業科目	単位	基準単位	選択単位	備考
①社会・文化・地域	世界と日本	日本文化の基礎知識Ⅰ	2	12		専門科目
		日本文化の基礎知識Ⅱ	2			
		日本近代文学Ⅰ	2			
		日本近代文学Ⅱ	2			
		世界と日本Ⅰ	2			
	異文化接触	和漢比較文学Ⅰ	2			GS/A (日本語圏)
		和漢比較文学Ⅱ	2			
		世界の言語と文化	2			
		漢字文化論Ⅰ	2			
		漢字文化論Ⅱ	2			
日本語教育の歴史と現状	比較文化論	2	GS/B (言語理論と応用)			
	日本語教育の基礎知識Ⅰ	2				
②言語と社会	言語と社会の関係	世界と日本Ⅱ	2	2		専門科目
		社会言語学Ⅰ	2			
	言語使用と社会	社会言語学Ⅱ	2			GS/A (日本語圏)
		言語政策	2			
		意味論・語用論入門	2			
異文化コミュニケーションと社会	現代日本社会論Ⅰ	2	CS (公共政策)			
	多文化間コミュニケーション	2				
③言語と心理	言語理解の過程	日本語教授法	2	2		GS/A (日本語圏)
	言語習得・発達	言語理解の過程	2			
		異文化理解と心理	第二言語習得論			2
	異文化理解と心理		日本語教育評価法			2
④言語と教育	言語教育法・実習	バイリンガルの言語形成	2	3	10	専門特別演習科目
		言語と行動	2			
		日本語教育の基礎知識Ⅱ	2			
		実践日本語教育Ⅰ	2			
		実践日本語教育Ⅱ	2			
	異文化間教育・コミュニケーション教育	実践日本語教育Ⅲ	2			GS/A (日本語圏)
		日本語教育実習Ⅰ	2			
		日本語教育実習Ⅱ	2			
		国内外日本語教育実習	1~8			
		日本語教育研究ゼミⅠ	2			
言語教育と情報	日本語教育研究ゼミⅡ	2	専門特別演習科目			
	日本語教育研究ゼミⅢ	2				
	日本語教育研究ゼミⅣ	2				
	日本語教育と国語教育Ⅰ	2				
	日本語教育と国語教育Ⅱ	2				
⑤言語	言語の構造一般	多文化理解と人権	2	16		CS (教育)
		現代日本社会論Ⅱ	2			
	日本語の構造	資格日本語教育	2			GS/A (日本語圏)
		言語学概論Ⅰ	2			
		言語学概論Ⅱ	2			
		日本語学の基礎知識Ⅰ	2			
		日本語学の基礎知識Ⅱ	2			
	言語研究	日本語音声概論	2			GS/A (日本語圏)
		日本語表記法	2			
		日本語教育文法Ⅰ	2			
日本語教育文法Ⅱ		2				
日本語の歴史Ⅰ		2				
日本語の歴史Ⅱ		2				
日本語学特論Ⅰ		2				
日本語学特論Ⅱ		2				
日英対照言語学		2				
日中対照言語学		2				
コミュニケーション能力	現代日本語研究ゼミⅠ	2	GS/A (日本語圏)			
	現代日本語研究ゼミⅡ	2				
	現代日本語研究ゼミⅢ	2				
	現代日本語研究ゼミⅣ	2				
	対照研究ゼミⅠ	2				
	対照研究ゼミⅡ	2				
	対照研究ゼミⅢ	2				
	対照研究ゼミⅣ	2				
日本語音声表現法	2	外国語強化科目 日本語インテンシブ				
日本語のスキルⅠ	2					
日本語のスキルⅡ-1	2					
日本語のスキルⅡ-2	2					
日本語のスキルⅢ	2					
日本語のスキルⅣ	2					
日本語のスキルⅤ	2					
日本語のスキルⅥ	2					
日本語のスキルⅦ	2					
日本語のスキルⅧ	2					
日本語のスキルⅧ	2					
必要単位数合計				45		

- (1) 各領域の基準単位数を超えて修得した単位は選択単位数に算入します。
- (2) 日本語インテンシブが履修できるのは日本語学科生およびコース2登録者のみで、修得した単位は外国語強化科目に算入します。
- (3) 備考欄の GS/A はグローバル・スタディ科目群 (エリア A)、GS/B はグローバル・スタディ科目群 (エリア B)、CS はキャリア・スタディ科目群の略称。

② コース2 (日本語学科以外の7学科の学生対象)

日本語学科以外の7学科の学生を対象に、それぞれの専攻語に根ざした日本語教育に必要な基礎的知識を身につけるコースです。コースを履修するためには、履修資格に定める授業科目を履修し、下記の履修資格を満たし、2年次以降にコース登録しなければなりません。コースの定員は50名で、希望者が多い場合は選考します。

1. 履修資格


履修を希望する学生は以下の履修資格を確認し、必要な授業科目の単位を修得してください。

以下の①～④のすべてに該当する学生は履修資格があります。

- ①日本語学科以外の学科に所属し、将来国内および海外において外国人に対して日本語を教授し、広く日本文化を紹介するという強い意志のある人。
- ②2年次以上で所属学科の進級基準を満たしている人。
- ③外国語強化科目のインターメディアイトまたはアドバンストの科目を履修するための基準を満たしている人。
- ④右表の授業科目をすべて修得している人。

授業科目	単位	配当年次	備考
言語と平和Ⅰ	2	1	総合科目
言語と平和Ⅱ	2	1	
基礎ゼミナール	2	1	基礎ゼミナール
世界の中の日本語Ⅰ	2	1	GS/B

※備考欄のGS/Bはグローバル・スタディ科目群(エリアB)を略している。

 **希望者が50名を超えた場合は、右表の4科目の平均点で選考します。**

2. オリエンテーションに参加 <2年次以降>

コース登録は初年度に行います。したがって登録済みの人は次年度以降に登録する必要はありません。

登録希望者を対象としたオリエンテーション(日時・場所はホームページ参照)を行いますので、必ず出席してください。希望者が多い場合は、履修資格に基づき選考を行います。

3. 登録許可の確認

京都外大Web Campusで確認してください。

コース2の登録を許可された学生は、「日本語教授法」、「日本語教育評価法」、「多文化理解と人権」を必修科目として履修し、それ以外の履修科目は原則として外国語強化科目の日本語インテンシブおよび展開科目の範囲内とします。ただし、日本語学科が学科間開放科目として提供していない専門特別演習科目の「実践日本語教育1～3」はコース2に登録が認められた学生に限り受講することができます。

4. 証明書の申請 <4年次>

4年次の1月(日程は「Campus Schedule」参照)に教務部で申請手続きを行ってください。

次表に示す科目の中から副専攻の基準単位数(選択単位を含む)の30単位以上を修得して本学を卒業する人に対して「日本語教員養成(副専攻)に係る単位修得証明書」を発行します。

コース2 (日本語学科以外の7学科の学生対象)

日本語教員に必要な知識・能力		本学における授業科目	単位	基準単位	選択単位	備考	
①社会・文化・地域	世界と日本	世界の言語と文化	2	4	8	GS/B (言語理論と応用)	
		世界史A - 政治・経済を中心に	2			GS/B(国際文化)	
		世界史B - 文化に注目して	2				
	世界史C - 地域交流に着目して	2					
	異文化接触	越境文化論Ⅰ	2			GS/B(国際文化)	
		越境文化論Ⅱ	2				
比較文化論		2					
②言語と社会	言語と社会の関係	◎ 言語と平和Ⅰ	2	4	履修資格科目		
		◎ 言語と平和Ⅱ	2				
	言語使用と社会	言語政策	2			CS (公共政策)	
③言語と心理	言語理解の過程	◎ 日本語教授法	2	4	CS(教育) [コース2必修科目]		
		◎ コミュニケーションの心理	2			CS(教育)	
	言語習得・発達	第二言語習得論	2			外国語強化科目日本語インテンシブ	
◎ 日本語教育評価法		2	CS(教育)				
④言語と教育	言語教育法・実習	生成文法Ⅰ	2	4	8	GS/B (言語理論と応用)	
		◆ 国内外日本語教壇実習	1~8			専門特別演習科目 卒業要件単位に含まれません	
		◎ 基礎ゼミナール	2			専門特別演習科目 自由選択に算入 履修資格科目	
	異文化間教育・コミュニケーション教育	日本語教育支援	1~2			自由選択	
		◇ 日本語教育と国語教育Ⅰ	2			専門特別演習科目	
		◇ 日本語教育と国語教育Ⅱ	2			卒業要件単位に含まれません	
言語教育と情報	◇ 日英表現比較 (P B L)	2	GS/B (言語理論と応用)				
	◎ 多文化理解と人権	2	CS(教育) [コース2必修科目]				
⑤言語	言語の構造一般	情報社会論	2	6	30	外国語強化科目日本語インテンシブ	
		資格日本語教育	2			GS/B (言語理論と応用)	
	日本語の構造	言語の仕組み	2			外国語強化科目日本語インテンシブ	
		言語の成り立ち	2			[選択必修]	
		○ 日本語音声学概論	2			CS(教育)	
		○ 日本語表記法	2				
	言語研究	日本語教育文法Ⅰ	2			履修資格科目	
		日本語教育文法Ⅱ	2				
		◎ 世界の中の日本語Ⅰ	2				GS/B (言語理論と応用)
		世界の中の日本語Ⅱ	2				
		日英対照言語学	2				
		日中対照言語学	2				
		認知意味論Ⅰ	2				
		認知意味論Ⅱ	2				
	認知構文論Ⅰ	2					
	認知構文論Ⅱ	2					
コミュニケーション能力	形式意味論	2	外国語強化科目日本語インテンシブ				
	国際コミュニケーション演習Ⅰ	2		GS/B(国際文化)			
	国際コミュニケーション演習Ⅱ	2					
	○ 日本語音声表現法	2		外国語強化科目日本語インテンシブ			
	○ 日本語のスキル1	2					
	○ 日本語のスキル2-1	2					
	○ 日本語のスキル2-2	2					
	○ 日本語のスキル3	2					
○ 日本語のスキル4	2						
○ 日本語のスキル5	2						
○ 日本語のスキル6	2						
○ 日本語のスキル7	2						
○ 日本語のスキル8	2						
必要単位数合計					30		

(1) 授業科目名の前に付されている記号

◎=必修科目

○=選択必修科目 (○印の科目から、最低1科目以上履修し単位を修得してください。)

◇=コース登録者のみ履修を許可する日本語学科開講の授業科目 (卒業要件単位には算入しません。)

◆=コース登録者のみ履修を許可する日本語学科開講の授業科目 (自由選択に算入します。)

(2) 各領域の基準単位数を超えて修得した単位は選択単位数に算入します。

(3) 日本語インテンシブが履修できるのは日本語学科生およびコース2登録者のみで、修得した単位は外国語強化科目に算入します。

(4) 備考欄のGS/Bはグローバル・スタディ科目群(エリアB)、CSはキャリア・スタディ科目群の略称。

京都研究プロジェクト

本学は、地域に根ざした大学として京都市と官学連携による観光振興を推進しています。

この取り組みは、「文化の翻訳・翻案」という新たなコンセプトにより、多言語で京都を表象（新たな京都の創造）し、世界に情報を発信することで、本学の教育研究を実践するものです。

京都研究プロジェクトでは、各自が外国語による情報発信に向けて、コーディネーター、外国人教員のチューター、ティーチング・アシスタントから指導を受けながら研究を重ね、それぞれの研究成果をまとめ、多言語データベースをWEB上に構築して情報を発信します。研究テーマは主要な観光地以外にも伝統文化、芸術、芸能、祭、食文化等の多種多様な分野から、学生個人またはグループで設定して、実地調査などのフィールドワークを経て研究成果をまとめていきます。

< 参加資格 >

以下のとおり、所定の単位を修得してください。

外国語学部

学科	必要単位数	授業科目名	単位	配当年次	備考
全学科	4	京都文化論 1	2	2	CS(サービス・ホスピタリティ)
		京都文化論 2	2	2	CS(サービス・ホスピタリティ)

国際貢献学部

学科	必要単位数	授業科目名	単位	配当年次	備考
グローバルスタディーズ学科	4	Japanese History	2	1	日本学インスティテュート
		Japanese History and Culture	2	1	日本学インスティテュート
		Destination Kyoto	2	1	日本学インスティテュート
グローバル観光学科	4	京都文化概論	2	1	コア科目
		京都の歴史	2	1	コース共通科目

※グローバルスタディーズ学科の人は、3科目の中から2科目4単位を修得してください。

< 単位認定 >

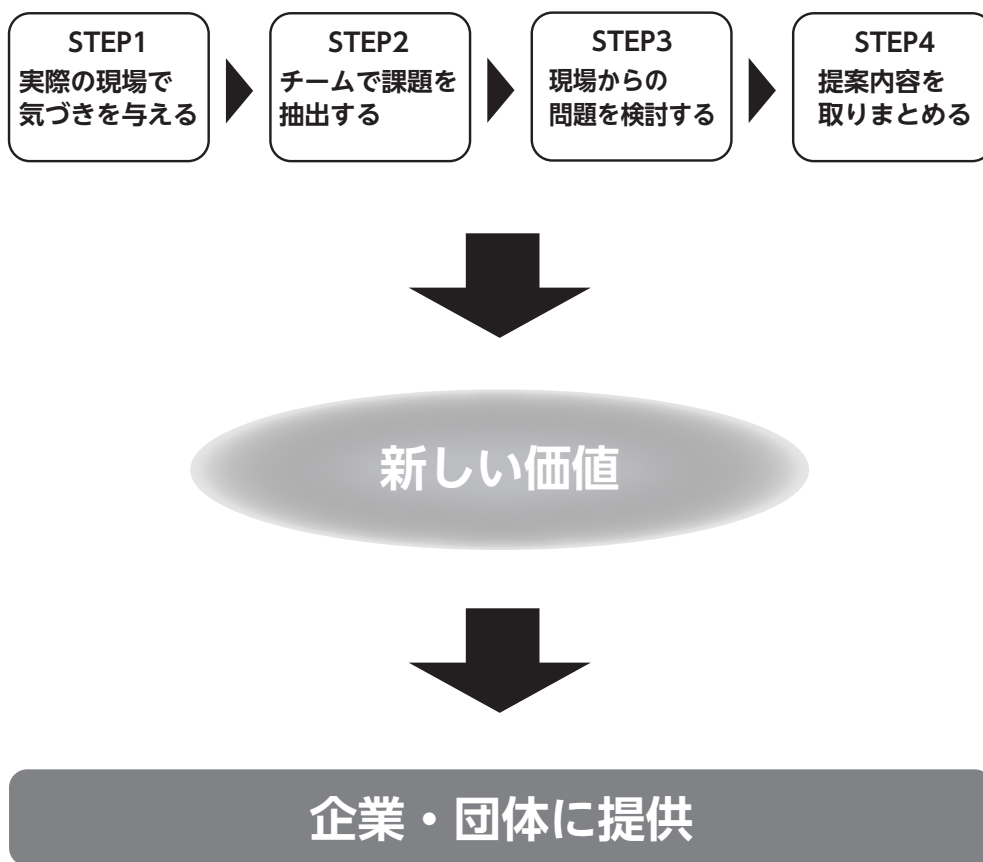
	外国語学部	国際貢献学部
言語	英語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語	
単位認定	研究成果の言語が外国語強化科目のインターミディエイト以上の履修基準を満たしている場合 ・外国語強化科目（インターミディエイト） 「Topic Study、トピック・スタディ(京都研究)」2単位 研究成果の言語が外国語強化科目のインターミディエイト以上の履修基準を満たしていない場合 ・自由選択 「京都研究プロジェクト」1～2単位	・自由選択 「京都研究プロジェクト」1～2単位
単位認定の上限	学期毎に2単位で8単位を上限としますが、卒業要件への算入は4単位	

※その他の外国語の場合は、自由選択の単位として認定します。

PBL科目

PBL (Project-Based Learning) とは、「実社会の課題」を生きた教材として取り入れ、課題解決に取り組む学びのスタイルです。本学のPBLでは、企業や団体等から与えられた課題に対し、学生各自が主体的に解決方法を考えることで、マーケティング力やプレゼンテーション力などを培います。授業は、グループワークを中心に進め、自己をアピールする力とともに協調性も養成し、将来社会で必要とされる多様な能力を身につけることができます。また、国際社会で活躍できるグローバル人材を育成するため、留学生と協働する体験型の科目を開講しているのも本学の特徴の一つです。本学で開講するPBLは科目名称の後に(PBL)を付記しています。

課題解決型学習プロセス



国内交換留学

国内交換留学とは、本学と国内交換留学協定を締結している神田外語大学と長崎外国語大学へ学内選考のうえ、学生を1学期間または2学期間派遣する制度です。

出願期間や選考方法等の詳細は、説明会(日時は「Campus Schedule」を参照)で配布する資料で確認してください。

なお、留学先大学で修得した単位は、1学期間の場合22単位、2学期間の場合45単位を上限として本学の科目区分に準じて認定します。

単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(43ページ)を参照してください。

海外帰国生徒等の履修特例

<外国語学部生対象>

外国において相当期間(おおむね2年以上)中等教育を受けた学生や、特に専攻外国語の能力が優れていると所属学科が判断した学生について、履修の特例として、1・2年次に履修すべき専攻語科目の20単位(年間10単位を上限)を、本人の申請に基づき、所属学科が指定する別の科目に振り替えて履修することができます。

1. 履修特例の適用

適用は1年次生からで、2年次生から新たに適用することはできません。1年次生で適用された場合でも2年次生で再度申請が必要です。

【振り替えて履修可能な科目の区分】

専攻する外国語の上級年次に配当する専攻語科目および外国語強化科目

2. 申請手続き

詳しくはクラス別の授業科目オリエンテーションで説明し、該当者に「履修特例相談用紙」を配布します。該当者は「履修特例相談用紙」を記入のうえアカデミック・アドバイザーから個別に指導を受けてください。その後、相談用紙を持参し、海外帰国生徒等の履修特例オリエンテーション(日時・場所はホームページ参照)に参加し、「履修特例願」を受け取ってください。

履修特例の適用の可否は、授業開始日に教務部で確認し、適用となった人は履修希望科目の1回目の授業に出席し、海外帰国生徒等の履修特例であることを担当教員に申し出てください。

すべての履修希望科目の1回目の授業に出席した後に「履修特例願」を記入し、アカデミック・アドバイザーの指導を受けたうえで4月中旬(「Campus Schedule」参照)に教務部に提出してください。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、以下のとおり所属している学部学科の正規課程以外の授業科目を履修できる制度です。

「科目等履修生制度」で修得した単位は、以下のとおり認定しますが、卒業要件に算入する単位数の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(43 ページ)を参照してください。

なお、出願の時期や履修可能な授業科目等の詳細は、学期初めに行うオリエンテーションで説明します。

内 容		単位認定	選考料	登録料	履修料
①	京都外国語短期大学の授業科目が履修できる制度	12 単位を上限に「自由選択」の単位として認定 (卒業要件に算入する単位数の上限は 4 単位)	—	1,000 円	1 科目 2,000 円
②	国際貢献学部が、外国語学部の教職課程の一部の授業科目が履修できる制度	教職に関する科目の単位 30 ～ 39 単位を認定 (卒業要件には含まない。)	—	1,000 円	1 科目 2,000 円
③	本学の大学院への進学希望者 4 年次生を対象に、大学院の授業科目が履修できる制度	博士前期課程進学後に、10 単位を上限に入学前の既修得単位として認定	10,000 円	10,000 円	1 単位 16,500 円

災害ボランティア活動

近年の台風による風水害や地震災害時には、ボランティア活動が大きな力を発揮しています。ボランティア活動を行う場合は、授業に支障がない範囲で、現地の受け入れ体制を確認し、十分な準備を整えてから参加してください。

災害ボランティア活動を行った場合の単位は、本人の申請に基づき自由選択の「災害ボランティア」(1～2 単位)に、活動時間 45 時間をもって 1 単位として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「海外フィールドワーク(ベトナム)」「エアラインスタディプログラム(ブリスベン)」「TECSOL&J-SHINE 認定取得プログラム」「学校教育支援活動」「日本語教育支援活動」での修得単位とあわせて 4 単位を上限とします。

単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(43 ページ)を参照してください。また、機関元の証明書が必要となりますので、活動を開始するまでに証明書の発行ができることを確認してください。

対象学生	1～4 年次生	
単位認定までの流れ	ボランティア活動届(学生部)→災害ボランティア活動開始→終了後証明書の発行→単位認定申請→単位認定	
単位認定の申請	提出書類	機関元の証明書 (活動時間が明記されていること)
	提出時期	「Campus Schedule」で確認してください。
	提出場所	教務部

大学コンソーシアム京都の単位互換制度

「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度とは、加盟している約 50 の大学・短期大学が単位互換協定を締結し、科目等履修生として相互に授業を履修できる制度です。ただし、**京都外国語短期大学の科目等履修生制度で開講する授業科目は対象になりません。**

この制度で修得した単位は、本人の申請に基づき、12 単位を上限として自由選択の「大学コンソーシアム京都科目」として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、4 単位を上限とします。単位認定全体の上限等については、「**本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定**」（43 ページ）を参照してください。

また、**4 年次生はこの単位互換制度により修得した単位の認定が卒業判定に間に合わない可能性があるため、卒業要件単位に含めないようにしてください。**2・3 年次生については、**単位の認定が進級判定に間に合わない可能性があるため、進級基準における「卒業要件の合計単位数」に含めないようにしてください。**

出願資格	2～4 年次生
出願方法	<p>大学コンソーシアム京都のホームページ (http://www.consortium.or.jp/) から各自で出願してください。</p> <p>【出願にあたっての注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開講科目には開講期間が前期・春学期、後期・秋学期、通年、集中等の科目がありますが、出願は下記出願期間内（年 1 回）に出願してください。 2. 当該大学の開講期間や通学時間などを考慮して出願してください。 3. 科目によっては書類選考により希望する授業科目履修できない場合があります。また、履修許可を受けた授業科目に一度も出席しない場合は、授業科目を開講する大学に迷惑がかかりますので、十分に履修計画を立てて出願してください。 4. 出願は自己責任で行ってください。
履修できる授業科目	開講科目は、大学コンソーシアム京都のホームページで確認してください。
出願期間	所定の期間内（京都外大 Web Campus でお知らせ）に大学コンソーシアム京都のホームページから出願（登録）してください。
受講の可否等の連絡	4 月中旬以降に授業科目を開講する大学より受講の可否について、出願時に登録したメールアドレスに連絡があります。連絡があるまでは「仮受講」として出願した授業科目を履修してください。
本学が単位互換制度に提供する授業科目	本学が提供する授業科目は、「授業科目時間表」等で確認してください。他大学の学生も履修します。

教育支援活動

この制度は「自己の資質向上」を図ることを目的とし、本学が指定している教育支援活動（ボランティア）に登録し依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ出向き活動を行うものです。

※オリエンテーションの日程は、京都外大 Web Campus でお知らせします。

1. 学校教育支援活動		対象年次：2～4年次生
<p>神戸市教育委員会が行っている「学生スクールサポーター制度」、京都市教育委員会が行っている「学生ボランティア」学校サポート事業や、京都府教育委員会が行っている「学校ボランティア」で募集や依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ放課後に出向き、一人ひとりの子どもに対して教科や部活動の指導補助等きめ細かな指導を行うものです。「学生ボランティア」学校サポート事業や「学校ボランティア」の内容等については下記ホームページを参照してください。 http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000002748.html http://www.kyoto-be.ne.jp/kyoshoku/cms/</p>		
登録資格	2～4年次生 特に教職課程に登録している学生は積極的に参加してください。	
派遣から単位認定までの流れ	希望者登録（教務部）→登録者はホームページで該当する活動を探す→教務部にて申請→該当校より連絡→活動開始→教育支援活動日誌、報告書等提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	<p>本人の申請に基づき、自由選択の「学校教育支援」（1～2単位）に、活動時間 30 時間をもって 1 単位として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「海外フィールドワーク（ベトナム・ネパール）」「エアラインスタディプログラム（プリズベン）」「TECSOL&J-SHINE 認定取得プログラム」「TESOL インターンシッププログラム」「災害ボランティア活動」「日本語教育支援活動」での修得単位とあわせて 4 単位を上限とします。</p> <p>単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出する際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（43 ページ）を参照してください。</p>	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌、報告書
	提出時期	「Campus Schedule」で確認してください。
	提出場所	教務部

2. 日本語教育支援活動		対象年次：2～4年次生
<p>日本語能力が不十分な外国人児童・生徒等に対し日本語能力向上のサポートを行います。原則として児童・生徒が属する学校へ放課後に出向き指導を行います。</p>		
登録資格	2～4年次生 ただし、日本語学科生または日本語教員養成プログラムを履修している人に限ります。	
派遣から単位認定までの流れ	希望者登録（教務部）→登録者の中から学科等で派遣学生を選考・決定またはホームページ等で該当する活動を探す→事前打合せ→指導開始→指導終了→教育支援活動日誌等提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	<p>本人の申請に基づき、自由選択の「日本語教育支援」（1～2単位）に、30 時間をもって 1 単位として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、「海外フィールドワーク（ベトナム・ネパール）」、「エアラインスタディプログラム（プリズベン）」、「TECSOL&J-SHINE 認定取得プログラム」、「TESOL インターンシッププログラム」、「学校教育支援活動」、「災害ボランティア活動」での修得単位とあわせて 4 単位を上限とします。</p> <p>単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出した際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（43 ページ）を参照してください。</p>	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌
	提出時期	「Campus Schedule」で確認してください。
	提出場所	教務部

資格検定試験の単位認定

在学中に資格検定試験等を受験し、本学の定める基準に達した場合は、本学において修得した単位として認定します。

単位の認定	3年次の1月に本人申請に基づき、それぞれの科目区分の中で認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、4単位を上限とします。
申請時に提出する書類	証明書（スコアカード・合格証書等）のコピーを用意してください。 単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（43ページ）を参照してください。
申請期間	「Campus Schedule」で確認してください。 ※一部の検定試験について締切日を2月末まで延長する場合があります。ただし、単位の認定が進級判定に間に合わない可能性があるため、申請した年次の進級基準における「卒業要件の合計単位数」に含めないようにしてください。

1 外国語の検定試験の単位認定

外国語学部

	外国語強化科目「〇〇語資格検定試験（2単位）」 認定基準 ※1		自由選択「第2外国語検定試験<〇〇語>（2単位）」 認定基準 ※2	
英語	TOEIC L&R（IPを除く）	850点以上	—	—
	TOEFL iBT	95点以上		
	IELTS	6.5以上		
	実用英語技能検定	1級		
スペイン語	スペイン語技能検定試験	3級以上	スペイン語技能検定試験	4級以上
	DELE	B1以上	DELE	A1以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	2級以上	実用フランス語技能検定試験	3級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	2級以上	ドイツ語技能検定試験	3級以上
	ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験	A2以上	ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験	A1以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	初級以上	外国語としてのポルトガル語検定試験	準初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	実用中国語技能検定試験	2級以上	実用中国語技能検定試験	3級以上
	新HSK・旧HSK	5級以上 (注1)	新HSK・旧HSK	4級以上
	中国語検定試験	2級以上	中国語検定試験	3級以上
日本語 (日本語学科生のみ)	日本漢字能力検定試験	準1級以上	—	—
イタリア語	実用イタリア語検定試験	3級以上	実用イタリア語検定試験	4級以上

※1 専攻する言語（日本語学科生を除く）を問わず3年次の1月までに基準に達した場合、申請により外国語強化科目の単位として「〇〇語資格検定試験（2単位）」を認定します。

日本語学科生で日本語の認定基準に達した場合、申請により専門特別演習科目の単位として「日本語資格検定試験（2単位）」を認定します。

※2 第2（第3）外国語として3年次の1月までに基準に達した場合は、申請により自由選択の単位として「第2外国語検定試験<〇〇語>（2単位）」を認定します。

※3 「〇〇語資格検定試験（2単位）」と「第2外国語検定試験<〇〇語>（2単位）」は、同一言語での単位認定の申請は認めません。

(注1) 新HSK 5級以上の単位認定については、6割（180点）以上のスコアが必要です。

国際貢献学部

自由選択「〇〇語資格検定試験（2単位）」として認定します。

卒業要件に算入する単位数は4単位を上限とし、同一言語での申請は認めません。

自由選択「〇〇語資格検定試験（2単位）」 認定基準		
英語	TOEIC L&R（IPを除く）	850点以上
	TOEFL iBT	95点以上
	IELTS	6.5以上
	実用英語技能検定	1級
スペイン語	スペイン語技能検定試験	4級以上
	DELE	A1以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	3級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	3級以上
	ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験	A1以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	準初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	実用中国語技能検定試験	3級以上
	新HSK・旧HSK	4級以上
	中国語検定試験	3級以上
イタリア語	実用イタリア語検定試験	4級以上

2 情報処理検定試験の単位認定

学修（資格検定試験）の種類	単位	申請年次	認定する科目区分と認定科目名
ITパスポート試験 （旧初級システムアドミニストレータ）	2	3年次	自由選択 情報処理検定試験1
基本情報技術者試験 （第2種情報処理技術者試験）	2	3年次	自由選択 情報処理検定試験2

語学検定試験受験料の助成申請方法

1 申請が可能な対象者

本学の学部 に在学する正規生で、後援会費を納入している人

2 対象となる検定試験の種類

英 語	● TOEIC L&R <領収書がない場合は 4,645 円 (予定) > ● TOEFL iBT ● IELTS IELTS for UKVI ● 実用英語技能検定 ● 国際連合公用語英語検定試験 (国連英検)
スペイン語	● スペイン語技能検定 ● DELE
フランス語	● 実用フランス語技能検定試験 ● TCF ● TEF ● DELF/DALF
ドイツ語	● ドイツ語技能検定試験 ● ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験
ポルトガル語	● 外国語としてのポルトガル語検定試験 ● 外国人のためのポルトガル語検定試験
中国語	● HSK ● 実用中国語技能検定試験 ● 中国語検定試験
日本語	● 日本語教育能力検定試験 ● 日本漢字能力検定
イタリア語	● 実用イタリア語検定試験 ● CILS

3 申請方法

申請期間内に京都外大 Web Campus の語学検定試験受験料助成金申請システムから必要な情報を入力し、以下の内容を確認できる書類の画像 (携帯電話等による撮影可) をアップロードしてください。

【申請に必要な書類の画像】

1. 氏名、受験日などが記載されている合格証・結果通知書スコア
2. 支払った金額が分かる領収書 (クレジットカードの明細可)
3. 振込先が確認できるキャッシュカード・通帳



4 申請期間

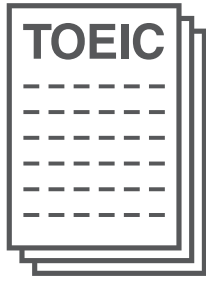
申請期間は、京都外大 Web Campus にてお知らせします。

5 申請受付担当部署

教務部 資格課程推進室 (1号館 1階)

e-mail : shikaku@kufs.ac.jp

TOEIC L&Rの団体受験 (IP)



現在、日本で実施されている英語力を判定する検定試験は、英検（実用英語技能検定）をはじめとして、その種類は 35 種以上になります。本学では、実用的な英語コミュニケーション能力を測定する TOEIC L&R の団体受験 (IP) をしており、学部生は入学時に全員が受験しなければなりません。また、英米語学科の1～4年次生全員と英語を第2外国語として選択している1年次生は1月に実施する試験を必ず受験しなければなりません。それ以外の学生についても希望者は受験することができます。試験結果は、客観的な数値として授業内容の検討や演習科目のクラス分け、外国語強化科目（英語）の履修基準に活用するほか、各自が自らの英語の運用能力を把握することで明確な努力目標を設定して授業に取り組むことにもつながっています。

なお、受験日時については京都外大 Web Campus および掲示でお知らせします。

TOEIC L&R (IP) のスコアにより履修者を決定する授業科目	
英米語学科	専攻語科目（必修）のすべて
第2外国語科目	英語Ⅰ－1・2
	英語Ⅱ－1・2
	英語Ⅲ－1・2
	英語Ⅳ－1・2

TOEIC は企業に深く浸透し、社内研修で活用され、海外派遣要員（一般的にはスコア 600 点以上）や海外駐在員（一般的にはスコア 730 点以上）の選考基準となっています。国際化している社会の中で、特にビジネスの分野では将来何らかの形で英語が必要となりますので、積極的にチャレンジしてください。なお、団体受験にかかる費用は本学が負担します。

【TOEIC L&R の概要】

TOEIC L&R はアメリカの ETS (Educational Testing Service) が開発・作成した総合的な英語のコミュニケーション能力を計る試験で、世界各地で実施されています。試験の問題構成はリスニングとリーディングの2つのセクションからなり、スコアはセクションごとに5点刻みで示され、総合得点 (Total score) は 10 ～ 990 点となっています。なお、TOEIC L&R (IP) は出題形式や採点方法は正規の TOEIC L&R に準じており、信頼性、客観性の高いテストです。

【TOEIC L&R とほかの検定試験と難易度の比較表】 (出題傾向が異なるため単純比較はできません。あくまで目安です。)

英 検	TOEIC L&R	TOEFL iBT
1 級	920	105
準1 級	770	83
2 級	550	52

TOEIC L&R 920 点で英検 1 級合格率は約 50%

TOEIC L&R 770 点で英検準 1 級合格率は約 50%

TOEIC L&R 550 点で英検 2 級合格率は約 50%

本学大学院への進学

本学大学院への進学は、以下を参照してください。

<本学大学院への進学>

本学の大学院は、外国語学研究科異言語・文化専攻を設置し、それぞれの専攻分野の教育研究を行う、標準修業年限2年の博士前期課程(修士)、標準修業年限3年の博士後期課程があります。また、博士前期課程の言語文化コースと実践言語教育コースにおいて、1年で修了要件単位の修得、1年次春学期のすべての授業科目で平均点が85点以上、論文等が優れていると認められること、といった条件を満たす場合は「優れた業績を上げた人」とみなし、在学期間を最短1年に短縮することも可能です。

異言語・文化専攻 博士前期課程

言語文化コース(英米地域、ヨーロッパ・ラテンアメリカ地域、東アジア地域)
実践言語教育コース(英語教育、日本語教育)

異言語・文化専攻 博士後期課程

言語文化領域
言語教育領域

入学試験

博士前期課程の入学試験は「学内推薦(9月)」、「一般Ⅰ期(9月)」、「一般Ⅱ期(2月)」があります。出願期間・資格や試験科目等の入試制度に関する詳細は、7月に大学院事務室から配布される「募集要項」で確認してください。

一般Ⅱ期の入学試験については、3年次終了時に卒業要件単位数93単位以上を修得し、特に成績優秀であるとして学長あるいは学科長から推薦を得た学生は飛び級として出願することができます。

説明会は12月中旬に行います。(日時・場所は後日掲示でお知らせします。)

大学院科目の科目等履修

本学の大学院進学を前提に、成績優秀な4年次生は科目等履修生制度により博士前期課程の授業科目を履修することができます。修得した単位は、本学の大学院に進学した場合、入学前の既修得単位として10単位を上限に認定します。

科目等履修の受講オリエンテーションの日程はホームページで確認してください。



資格課程



I 大学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

本学が開設する資格課程

本学が開設している資格課程は、教職課程、図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程、博物館学芸員課程です。

また、中学校教諭一種免許状取得のために修得した単位を利用し、佛教大学または聖徳大学の科目等履修生（別途費用が必要）として小学校教諭免許状を取得することができます。

■ 資格課程一覧

学 科	教職課程							学校図書館司書教諭課程	図書館司書課程	博物館学芸員課程	小学校教諭免許状取得プログラム	
	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状											
	外 国 語											
	英 語	ス ペ イ ン 語	フ ラ ン ス 語	ド イ ツ 語	ポ ル ト ガ ル 語	中 国 語	イ タ リ ア 語					国 語
英米語学科	●						△	注 1	注 2	注 2	注 3	
スペイン語学科	△	●					△					
フランス語学科	△		●				△					
ドイツ語学科	△			●			△					
ブラジルポルトガル語学科	△				●		△					
中国語学科	△					●	△					
イタリア語学科	△						●					△
日本語学科	△						●					
グローバルスタディーズ学科												
グローバル観光学科												



資格課程についての注意事項

●	中学校教諭一種免許状（以下、「中一種」という。）と高等学校教諭一種免許状（以下、「高一種」という。）を同時に取得します。
△	専攻語以外の免許状の取得 専攻語の免許状を取得することを条件として、他の学科における免許の教科（英語または国語の免許状）を取得することができます。
注 1	教職課程を登録していることが履修条件です。
注 2	課程で定められた科目を履修し、必要な単位を修得すれば取得できます。
注 3	小学校の免許のみを取得することはできません。必ず本学で中一種・高一種の免許状を取得する必要があります。

資格課程を登録している人で、派遣留学・認定留学・休学をする場合、および課程の履修を辞退する場合は、必ず事前に教務部へ届け出てください。

教師を目指す

教育職員免許状（以下、「免許状」という。）を取得するためには、学部の卒業に要する単位のほか、教職課程において、教育職員免許法に基づいた教育実習、その他必要な科目の単位を修得しなければなりません。

さらに、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づく介護等体験も必要になります。

学生として、教師として、社会人として、良識ある行動が求められ、自分なりのしっかりとした目標を持ち、努力を惜しまず行動できる人の履修を望みます。

教員になるためには免許状を取得し、各都道府県の採用試験または私立学校の採用試験に合格すれば教員として働くことができます。

1 取得できる免許状の種類 < 中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状 >

※学科によって取得できる免許の教科が異なります。

学科	免許の教科	免許状の種類
英米語学科	外国語（英語）	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状
スペイン語学科	外国語（スペイン語）	
フランス語学科	外国語（フランス語）	
ドイツ語学科	外国語（ドイツ語）	
ブラジルポルトガル語学科	外国語（ポルトガル語）	
中国語学科	外国語（中国語）	
日本語学科	国 語	
イタリア語学科	外国語（イタリア語）	

国際貢献学部の皆さんへ

本学では、課程認定を受けていない教科の教員免許状を取得するために特別なプログラムを用意していません。自らの努力で免許状取得をめざす場合は、以下の方法があります。

- ◎在学中に本学の「科目等履修生制度」で一部の教職に関する科目の単位を修得したうえで、卒業後に本学もしくは他大学の「科目等履修生制度」を利用して、免許状を取得する。

2 教職課程の登録

(1) 課程登録

教職課程は、2年次からの登録となります。2年次からの履修条件には、GPA評価の基準は設けていませんので、希望者は教職課程オリエンテーションに出席し、Web履修登録の際に、画面最下段の【課程登録】の中にある教職課程を「登録する」に変更し登録してください。課程登録は年度毎に行う必要があります。

教職課程を登録するにあたっては、課程登録を行った年次に登録履修費として9,000円(予定)を納入する必要がありますが、課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

(2) 1年次からの履修

在学中に派遣・認定留学等を検討している人を対象に、1年次の秋学期から一部の教職に関する科目を追加登録(課程登録を含みます。)することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1年次対象の「資格課程秋学期開講科目の追加登録オリエンテーション」(日時・場所は「Campus Schedule」参照)に出席してください。



1年次生が追加登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は以下の4科目です。ただし、1年次の春学期終了時点でGPAが2.0未満の場合は教職に関する科目を追加登録することはできません。

教職に関する科目：「教師論」「教育原理」「学校教育心理学」

教科または教職に関する科目：「介護と施設」

追加登録できる教職に関する科目は、1年次に履修登録できる単位数の上限(年間36単位)を超えて登録することができます。

特に4年間の在学期間で留学と教職課程を両立するためには、1年次に「介護と施設」を履修し、2年次に介護等体験を行うようにしてください。

前提条件

追加登録する科目が開講される秋学期の曜日・講時に登録科目がないことが前提となりますが、春学期の履修登録時に追加登録をするために該当する曜日・講時をあけておく必要はありません。

(3) オリエンテーションへの出席

免許状取得に必要な単位、注意事項等を、年次ごとに実施している3月の「教職課程オリエンテーション」で説明しますので、必ず出席してください。なお、教職課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録を認めないことがありますので、十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教務部まで申し出てください。

免許取得にかかわる介護等体験および教育実習等のスケジュールについて、個別に説明します。

(5) 教職課程の辞退

教職課程を登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教務部へ「辞退届」を提出してください。

よくある質問

Q

留学と教職課程は両立できますか。

A

留学と教職課程の両立はできますが、留学の方法や時期により、4年間の在学期間で免許状を取得できない場合もありますので、必ず事前に教務部で相談してください。特に派遣留学の場合は、学内の選考試験を受ける前に相談してください。

3 教育職員免許状取得に必要な科目・単位数

教育職員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位のほかに、以下の授業科目を履修し、単位を修得する必要があります。

免許状取得に必要な科目	教育職員免許法で定める最低修得単位数		本学における授業科目	備考
	中一種	高一種		
教職に関する科目	31 単位	23 単位	124 ページ参照	注 1
教科に関する科目	20 単位	20 単位	126 ~ 133 ページ参照	注 2
教科または教職に関する科目	8 単位	16 単位	134 ページ参照	注 3
教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目	日本国憲法に関する科目	2 単位	CS (公共政策) 「日本国憲法」	注 4
	体育に関する科目	2 単位	自由選択 「健康科学の実践と理論」	
	外国語コミュニケーションに関する科目	4 単位	第 2 外国語科目	注 5
	情報機器の操作に関する科目	2 単位	自由選択 「情報技術の実践」	



免許状取得に必要な科目の単位修得上の注意事項

本学では中一種と高一種の免許状を同時に取得するため、上表の最低修得単位数の内、多い方の単位数を充足する必要があります。

注 1	教職に関する科目は、 卒業要件の単位には含みませんが 、本学で定めた教員免許状取得のための必修科目として単位を修得する必要があります。また、 本学における教育実習参加資格の要件でもあります。
注 2	教科に関する科目は、卒業要件の単位に含みます。卒業要件として選択および選択必修になっている授業科目が教育職員免許状の教科に関する科目として必修となっている場合は、卒業までに必ず単位を修得してください。
注 3	卒業要件の単位に含む科目と含まない科目があります。
注 4	CS は、キャリア・スタディ科目群の略称です。
注 5	日本語学科外国人留学生は、第 3 外国語科目を必ず履修し、単位を修得してください。(言語の指定があるので必ず履修指導を受けてください。)

3-1 教職に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目		本学で 修得が必要な 単位数		本学における授業科目	単位	配当 年次	備考					
		中一種	高一種									
教職の意義等に 関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障 等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	2	教師論	2	1・2	★					
教育の基礎理論に 関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習 の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の 心身の発達及び学習の過程を含む。）	2	2	教育原理	2	1・2	★					
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 教育課程の意義及び編成の方法	2	2	学校教育心理学	2	1・2	★					
教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法	4	4	教育行政学	2	2・3	注1					
				教育課程論	2	2・3						
				英語教育法1	2	2						
				英語教育法2	2	3						
				スペイン語教育法1	2	2						
				スペイン語教育法2	2	3						
				フランス語教育法1	2	2						
				フランス語教育法2	2	3						
				ドイツ語教育法1	2	2						
				ドイツ語教育法2	2	3						
				ポルトガル語教育法1	2	2						
				ポルトガル語教育法2	2	3						
				中国語教育法1	2	2						
				中国語教育法2	2	3						
				国語教育法1	2	2						
				国語教育法2	2	3						
				イタリア語教育法1	2	2						
				イタリア語教育法2	2	3						
				—	—	—		—	英語教育法3・4	2・2	3・4	注2
									スペイン語教育法3・4	2・2	3・4	
フランス語教育法3・4	2・2	3・4										
ドイツ語教育法3・4	2・2	3・4										
ポルトガル語教育法3・4	2・2	3・4										
中国語教育法3・4	2・2	3・4										
国語教育法3・4	2・2	3・4										
イタリア語教育法3・4	2・2	3・4										
道徳の指導法	2	—	道徳教育の研究	2	2・3	注3						
特別活動の指導法	2	2	特別活動指導論	2	2・3							
教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	2	2	教育の方法及び技術	2	2・3							
生徒指導、 進路指導等に 関する科目 及び 教育相談及び	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	2	2	生徒指導・進路指導論	2	2・3						
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的 な知識を含む。）の理論及び方法	2	2	教育相談	2	2・3						
教育実習		2	—	教育実習1	2	3・4	注4					
		2	2	教育実習2	2	4						
教職実践演習		1	1	教育実習指導	1	4	注5					
教職実践演習		2	2	教職実践演習（中・高）	2	4	注6					

必要単位数：「中一種」免許状取得に必要な「31単位」を必ず修得してください。

※選択の教科指導法の履修により、本学で修得が必要な単位数と免許法で修得が必要な単位数は異なります。



履修上の注意事項

【教職に関する科目の履修登録】

教職に関する科目は、1年次に履修登録できる単位数の上限（年間36単位）、2～4年次に履修登録できる単位数の上限（年間48単位）を超えて登録することができます。また、履修登録できる単位数の上限はありませんが、配当年次に従って履修計画をしっかりと立て、負担のないように履修してください。

教職に関する科目の履修登録は、年1回（4月）のみ（9月復学者は除く）で、秋学期選択科目の変更期間には、教職に関する科目の追加や削除をすることができません。

ただし、1年次で資格課程の秋学期開講科目の追加登録オリエンテーションに参加をした人は、秋学期の選択科目の変更期間に追加登録することができます。また、選択科目（〇〇語教育法3・4）についても、所定の変更期間に追加および削除することができます。

【教育実習参加資格】

教職に関する科目は、教育実習参加資格の要件の一つです。

3年次春から、もしくは秋から1年間の派遣・認定留学する人で、教育実習参加資格の授業科目をすべて履修登録できない場合は、必ず教務部に申し出てください。

【修得単位】

中一種および高一種に必要な単位数を超えて修得した単位は、『教科または教職に関する科目』に算入します。

★	★印の科目を1年次生が履修する場合は、秋学期に追加登録してください。（4月の履修登録時には登録できません。）										
注1	取得免許に該当する「〇〇語教育法1」は2年次の秋学期に、「〇〇語教育法2」は3年次春学期に必ず履修登録してください。 また、スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語学科の学生は、英語教育法1（2年次の秋学期）・英語教育法2（3年次春学期）をあわせて履修してください。 ただし、専攻語で実習を行う場合は英語教育法1・2の履修は不要です。 履修登録の方法の詳細は、4月のオリエンテーションでお知らせします。										
注2	取得免許に該当する選択科目で、履修することが望ましい授業科目です。 ・英語教育法3・4の履修登録 英語の免許状取得を強く希望する人は、「英語教育法3・4」を履修してください。 登録の条件：英語教育法1・2を既に履修し、単位を修得済みであることが条件です。 スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語・日本語学科の人は、複数免許の取得を許可した人に限ります。										
注3	中一種・高一種免許状を同時に取得するため、必ず履修する必要があります。										
注4	履修登録は必要ありません。教育実習終了後に、本学で単位を認定します。										
注5	教育実習を行う年度に「教育実習指導」の履修登録を行います。教育実習の期間により、履修登録する学期が異なりますので、以下の期間を参考に履修登録してください。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">教育実習期間</th> <th style="width: 20%;">履修登録する学期</th> <th style="width: 50%;">学科別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">4月1日～8月31日の期間に 教育実習が完了する場合</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">春学期</td> <td style="text-align: center;">日本語学科</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本語学科以外 (クラス・学科指定あり)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9月1日以降に教育実習を行う場合</td> <td style="text-align: center;">秋学期</td> <td style="text-align: center;">日本語学科 日本語学科以外</td> </tr> </tbody> </table> <p>【秋学期の「教育実習指導」（日本語学科以外）授業について】 14回の授業を春・秋学期に分けて行います。</p>	教育実習期間	履修登録する学期	学科別	4月1日～8月31日の期間に 教育実習が完了する場合	春学期	日本語学科	日本語学科以外 (クラス・学科指定あり)	9月1日以降に教育実習を行う場合	秋学期	日本語学科 日本語学科以外
教育実習期間	履修登録する学期	学科別									
4月1日～8月31日の期間に 教育実習が完了する場合	春学期	日本語学科									
		日本語学科以外 (クラス・学科指定あり)									
9月1日以降に教育実習を行う場合	秋学期	日本語学科 日本語学科以外									
注6	教職課程としての総まとめの授業科目として位置づけているため、4年次の秋学期に開講します。したがって、4年次の秋学期に留学（派遣・認定）する場合は、4年間の在学期間で免許状を取得することができませんので、注意してください。また、「教職実践演習（中・高）」の履修には、『教職履修カルテ』の作成および提出を義務付けていますので、授業開始までに準備が整わない場合は、授業を履修することができませんので、注意してください。 ※「教職実践演習（中・高）」の履修登録 受講者数を調整し、結果をWeb履修登録画面でお知らせしますので、各自確認してください。										

3-2 教科に関する科目



履修上の注意事項

①	必要単位数 20 単位を超えて修得した単位は、『教科または教職に関する科目』に算入します。
②	教科に関する科目の単位修得は、教育実習の参加資格ではありません。
③	備考欄の GS / A はグローバル・スタディ科目群（エリア A）の略称です。

免許教科 外国語（英語）：英米語学科

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当年次	備考	
		必修	選択			
英語学	Academic English Skills I	2		1	専攻語科目	
	Academic English Skills II	2		1		
	英語学概論	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]	
	How Languages are Learned in TEFL I		2	2	外国語強化科目 英語教員インテンシブ	
	How Languages are Learned in TEFL II		2	2		
	Teaching Listening/Speaking and Pronunciation I		2	2		
	Teaching Listening/Speaking and Pronunciation II		2	2		
	Foreign Language Activities in Elementary School		2	2		
	Second Language Acquisition in TEFL		2	3		
	Teaching and Testing		2	3		
	TEFL Special Studies		2	3		
	英語音声学		2	2		GS / A
	英語意味論		2	2		
	英語語法文法 I		2	2		
	英語語法文法 II		2	3		
英語音韻論		2	3			
英語語用論		2	3			
英米文学	英米の文学と芸術入門 I	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]	
	英米の文学と芸術入門 II	2		2		
	英語圏文学と芸術の研究 I		2	3	GS / A	
	英語圏文学と芸術の研究 II		2	3		
英語 コミュニケーション	English Seminar I	1		1	専攻語科目	
	English Seminar II	1		1		
	Pronunciation Clinic		1	1	外国語強化科目 英語インテンシブ	
	Integrated Skills Workshop		2	2		
	Debate I		2	2		
	Debate II		2	2		
	Discussion Skills I		2	2		
	Discussion Skills II		2	2		
	Public Speaking I		2	2		
	Public Speaking II		2	2		
	English for Interpreters & Guides I		2	2		外国語強化科目 英語通訳・翻訳インテンシブ
	English for Interpreters & Guides II		2	2		
	English-Japanese Translation I		2	2		
	English-Japanese Translation II		2	2		
	Japanese-English Translation I		2	2		
Japanese-English Translation II		2	2			
Simultaneous Interpretation I		2	2			
Simultaneous Interpretation II		2	2			
異文化理解	English Workshop I	2		1	専攻語科目	
	English Workshop II	2		1		
	英米地域研究入門 I	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]	
	英語圏地域研究 I	2		3		
	Intercultural Communication in Practice I		2	2	外国語強化科目 英語インテンシブ	
	Intercultural Communication in Practice II		2	2		
	英米地域研究入門 II		2	2		
	英語圏地域研究 II		2	3	GS / A	
	必要単位数		20			

免許教科 外国語（スペイン語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当 年次	備考
		必修	選択		
スペイン語学	チャレンジスペイン語 A- I	1		1	専攻語科目
	チャレンジスペイン語 A- II	1		1	
	リーディングスペイン語 I	1		2	
	リーディングスペイン語 II	1		2	
	リーディングスペイン語 III	1		3	
	リーディングスペイン語 IV	1		3	
	スペイン語学入門 I		2	2	GS / A
	スペイン語学入門 II		2	2	
	スペイン語上級文法 I		2	3	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	スペイン語上級文法 II		2	3	
スペイン文学	スペイン語圏文学作品研究 I	2		3	GS / A (教科に関する必修科目)
	スペイン語圏文学作品研究 II	2		3	
	スペイン語圏芸術入門 I		2	2	GS / A
	スペイン語圏芸術入門 II		2	2	
スペイン語 コミュニケーション	実践スペイン語 I	1		1	専攻語科目
	実践スペイン語 II	1		1	
	実践スペイン語 III -1	1		2	
	実践スペイン語 IV -1	1		2	
	マルチスペイン語 III	1		2	
	マルチスペイン語 IV	1		2	
	実践スペイン語 V -1	1		3	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	実践スペイン語 VI -1	1		3	
	スペイン語通訳・翻訳演習 I		2	3	
	スペイン語通訳・翻訳演習 II		2	3	
異文化理解	スペイン語圏の基礎知識 I	2		1	GS / A
	スペイン語圏の基礎知識 II	2		1	
	スペインの社会と文化 I		2	2	
	スペインの社会と文化 II		2	2	
	ラテンアメリカ文明史 I		2	2	
	ラテンアメリカ文明史 II		2	2	
必要単位数		20			

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

免許教科 外国語（フランス語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当年次	備考
		必修	選択		
フランス語学	フランス語学の基礎知識	2		2	GS / A
	フランス語総合演習Ⅰ-2	1		2	専攻語科目
	フランス語総合演習Ⅱ-2	1		2	
	COMPREHENSION ECRITEⅠ	1		3	
	COMPREHENSION ECRITEⅡ	1		3	
	フランス語学概論Ⅰ		2	2	
	フランス語学概論Ⅱ		2	2	GS / A
	フランス語史Ⅰ		2	2	【4科目中1科目を選択必修】
	フランス語史Ⅱ		2	2	
	フランス語学演習Ⅰ		2	3	GS / A
	フランス語学演習Ⅱ		2	3	
フランス文学	フランス文学の基礎知識	2		2	GS / A
	フランス文学概論Ⅰ		2	2	GS / A 【4科目中1科目を選択必修】
	フランス文学概論Ⅱ		2	2	
	フランス文学史Ⅰ		2	2	
	フランス文学史Ⅱ		2	2	
	フランス語作品研究Ⅰ		2	2	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	フランス語作品研究Ⅱ		2	3	
	フランス文学演習Ⅰ		2	3	GS / A
フランス文学演習Ⅱ		2	3		
フランス語コミュニケーション	フランス語会話Ⅰ-1	1		1	専攻語科目
	フランス語会話Ⅱ-1	1		1	
	フランス語会話Ⅲ-1	1		2	
	フランス語会話Ⅳ-1	1		2	
	COMPREHENSION ORALEⅠ	1		3	
	COMPREHENSION ORALEⅡ	1		3	
異文化理解	フランスの基礎知識Ⅰ	2		1	GS / A
	フランスの基礎知識Ⅱ	2		1	
	フランス文化史Ⅰ		2	2	
	フランス文化史Ⅱ		2	2	
	フランス文化概論Ⅰ		2	2	
	フランス文化概論Ⅱ		2	2	
	フランス文化演習Ⅰ-1		2	3	
	フランス文化演習Ⅱ-1		2	3	
	時事フランス語Ⅰ		2	3	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	時事フランス語Ⅱ		2	3	
	フランス文化演習Ⅰ-2		2	3	GS / A
	フランス文化演習Ⅱ-2		2	3	
必要単位数		20			

免許教科 外国語（ドイツ語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当年次	備考
		必修	選択		
ドイツ語学	ドイツ語学の基礎知識	2		2	GS / A
	ドイツ語学概論	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]
	ドイツ語作文・読解Ⅲ	1		2	専攻語科目
	ドイツ語作文・読解Ⅳ	1		2	
ドイツ文学	ドイツ文学の基礎知識	2		2	GS / A
	ドイツ文学概論		2	2	
ドイツ語 コミュニケーション	ドイツ語会話Ⅰ-1	1		1	専攻語科目
	ドイツ語会話Ⅱ-1	1		1	
	ドイツ語会話Ⅲ-1	1		2	
	ドイツ語会話Ⅳ-1	1		2	
	ドイツ語会話Ⅴ-1	1		3	
	ドイツ語会話Ⅵ-1	1		3	
	視聴覚ドイツ語Ⅲ	1		2	
	視聴覚ドイツ語Ⅳ	1		2	
	資格ドイツ語中級1		2	2	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	資格ドイツ語中級2		2	2	
異文化理解	ドイツ語圏の文化	2		1	GS / A
	ドイツ語圏の社会	2		1	
	ドイツ文化概論		2	2	
	ドイツ語圏の現代事情Ⅰ		2	2	
	ドイツ語圏の現代事情Ⅱ		2	2	
	ドイツ文化演習Ⅰ		2	3	
	ドイツ文化演習Ⅱ		2	3	
	ビジネスドイツ語1		2	3	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	ビジネスドイツ語2		2	3	
必要単位数		20			

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

免許教科 外国語（ポルトガル語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当年次	備考
		必修	選択		
ポルトガル語学	ポルトガル語基礎演習Ⅰ	2		1	専攻語科目
	ポルトガル語基礎演習Ⅱ	2		1	
	ポルトガル文化圏語学の基礎	2		1	GS / A
	ポルトガル語学入門Ⅰ	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]
	ポルトガル語学入門Ⅱ	2		2	
	ポルトガル語の音声Ⅰ		2	2	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	ポルトガル語の音声Ⅱ		2	2	
	ポルトガル語学演習Ⅰ		2	3	GS / A
	ポルトガル語学演習Ⅱ		2	3	
ポルトガル文学	ポルトガル文化圏文学の基礎	2		1	GS / A
	ポルトガル語圏文学演習Ⅰ		2	3	
	ポルトガル語圏文学演習Ⅱ		2	3	
	ポルトガル語圏文学入門Ⅰ		2	2	
	ポルトガル語圏文学入門Ⅱ		2	2	
ポルトガル語 コミュニケーション	ポルトガル語作文Ⅱ	1		2	専攻語科目
	ポルトガル語作文Ⅲ	1		2	
	ポルトガル語初級会話Ⅰ	1		1	
	ポルトガル語初級会話Ⅱ	1		1	
	ポルトガル語中級会話Ⅰ	1		2	
	ポルトガル語中級会話Ⅱ	1		2	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	ポルトガル語口頭表現Ⅰ		2	2	
	ポルトガル語口頭表現Ⅱ		2	2	
	ポルトガル語文章表現Ⅰ		2	2	
	ポルトガル語文章表現Ⅱ		2	2	
	ポルトガル語読解Ⅰ		2	2	
	ポルトガル語読解Ⅱ		2	2	
異文化理解	ポルトガル語圏文化の基礎	2		1	GS / A
	ポルトガル語圏社会の基礎	2		1	
	現代ブラジル事情		2	2	
	現代ポルトガル事情		2	2	
	現代ポルトガルとEU事情		2	2	
	ポルトガルの歴史と地理		2	2	
	ブラジルの歴史と地理		2	2	
	ポルトガル語圏地域文化演習Ⅰ		2	3	
	ポルトガル語圏地域文化演習Ⅱ		2	3	
必要単位数		20			

免許教科 外国語 (中国語)

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当年次	備考
		必修	選択		
中国語学	中国語講読Ⅰ	1		2	専攻語科目
	中国語講読Ⅱ	1		2	
	中国語学概論	2		2	GS / A (教科に関する必修科目)
	中国語学研究Ⅰ		2	3	GS / A
	中国語学研究Ⅱ		2	3	
中国文学	中国文学概論	2		2	GS / A (教科に関する必修科目)
	古典中国語Ⅰ		2	3	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	古典中国語Ⅱ		2	3	
	中国文学研究Ⅰ		2	3	GS / A
	中国文学研究Ⅱ		2	3	
中国語コミュニケーション	中国語基礎演習Ⅰ	2		1	専攻語科目
	中国語基礎演習Ⅱ	2		1	
	中国語作文Ⅰ	1		1	
	中国語作文Ⅱ	1		2	
	中国語会話Ⅰ-A	1		1	
	中国語会話Ⅱ-A	1		1	
	中国語会話Ⅲ-A	1		2	
	中国語会話Ⅳ-A	1		2	
	中国語会話Ⅴ	1		3	
	中国語会話Ⅵ	1		3	
異文化理解	中国の基礎知識Ⅰ	2		1	GS / A (教科に関する必修科目)
	中国の基礎知識Ⅱ	2		1	
	時事メディア中国語Ⅰ		2	2	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	時事メディア中国語Ⅱ		2	3	
	時事メディア中国語Ⅲ		2	3	
	時事メディア中国語Ⅳ		2	4	
	中国政治概論		2	2	GS / A
	中国経済概論		2	2	
	中国文化研究Ⅰ		2	3	
	中国文化研究Ⅱ		2	3	
	中国経済研究Ⅰ		2	3	
	中国経済研究Ⅱ		2	3	
	必要単位数		20		

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

免許教科 国語

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当年次	備考
		必修	選択		
国語学 (音声言語学および文章表現に関するものを含む)	日本語学の基礎知識Ⅰ	2		1	専門科目
	日本語の歴史Ⅰ	2		2	
	日本語の歴史Ⅱ	2		2	
	日本語音声学概論	2		1	外国語強化科目 日本語インテンシブ 【教科に関する必修科目】
	日本語音声表現法	2		1	
	日本語表記法	2		2	GS / A
	社会言語学Ⅰ		2	2	
	社会言語学Ⅱ		2	2	外国語強化科目 日本語インテンシブ
	日本語のスキル1		2	1	
	日本語のスキル2 - 1		2	2	
	日本語のスキル3		2	2	
	日本語のスキル4		2	2	
	日本語のスキル5		2	3	
	日本語のスキル6		2	3	
日本語のスキル7		2	3		
日本語のスキル8		2	3		
国文学 (国文学史を含む)	日本近代文学Ⅰ	2		2	専門科目
	日本近代文学Ⅱ	2		2	
	日本古典文学Ⅰ		2	2	GS / A
	日本古典文学Ⅱ		2	2	
	日本文学史Ⅰ		2	2	【4科目中2科目を選択必修】
	日本文学史Ⅱ		2	2	
	日本文学特論Ⅰ		2	3	専門特別演習科目
	日本文学特論Ⅱ		2	3	
漢文学	漢文学Ⅰ	2		1	専門特別演習科目【教科に関する必修科目】
	漢文学Ⅱ	2		1	
	和漢比較文学Ⅰ		2	2	GS / A
	和漢比較文学Ⅱ		2	2	
	漢字文化論Ⅰ		2	2	
	漢字文化論Ⅱ		2	2	
書道 (書写を中心とする)	書道Ⅰ	2		1	専門特別演習科目 【中一種のみ】
	書道Ⅱ	2		2	
必要単位数		20			

免許教科 外国語（イタリア語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める科目	本学における授業科目	単位		配当年次	備考
		必修	選択		
イタリア語学	基礎イタリア語Ⅰ	2		1	専攻語科目
	基礎イタリア語Ⅱ	2		1	
	イタリア語学の基礎知識	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]
	イタリア語総合演習Ⅰ		2	1	専攻語科目
	イタリア語総合演習Ⅱ		2	1	
	イタリア語翻訳演習Ⅰ		2	3	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	イタリア語翻訳演習Ⅱ		2	3	
	イタリア語学特殊研究Ⅰ		2	3	GS / A
イタリア語学特殊研究Ⅱ		2	3		
イタリア文学	イタリア文学の基礎知識	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]
	イタリア文学特殊研究Ⅰ		2	3	GS / A
	イタリア文学特殊研究Ⅱ		2	3	
イタリア語コミュニケーション	イタリア語会話Ⅰ-1	1		1	専攻語科目
	イタリア語会話Ⅱ-1	1		1	
	イタリア語会話Ⅲ-1	1		2	
	イタリア語会話Ⅳ-1	1		2	
	イタリア語会話Ⅴ-1	1		3	
	イタリア語会話Ⅵ-1	1		3	
	通訳イタリア語Ⅰ		2	3	外国語強化科目 初習外国語インテンシブ
	通訳イタリア語Ⅱ		2	3	
異文化理解	イタリアの歴史	2		1	GS / A [教科に関する必修科目]
	イタリアの現代社会	2		1	
	イタリア文化の基礎知識	2		2	GS / A [教科に関する必修科目]
	イタリア社会の基礎知識	2		2	
	イタリアの芸術Ⅰ		2	2	GS / A
	イタリアの芸術Ⅱ		2	2	
	イタリア文化特殊研究Ⅰ		2	3	
	イタリア文化特殊研究Ⅱ		2	3	
イタリア生活文化論		2	3		
必要単位数		20			

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

3-3 教科または教職に関する科目

本学における授業科目	単位	配当年次	備考
道徳教育の研究	2	2・3	注1
同和教育と人権	2	1	注2
多文化理解と人権	2	2	
教育の課題Ⅰ	2	1	注3
教育の課題Ⅱ	2	2	
コミュニケーションの心理	2	2	
臨床心理学	2	2	
青少年の行動と心理	2	2	
学校教育支援活動演習	2	2	
読書と豊かな人間性	2	3・4	注4
介護と施設	1	1・2・3	注5

※必要単位数：「高一種」免許状取得に必要な単位「16単位」を必ず修得してください。



履修上の注意事項

注1	『教職に関する科目』と同一の授業科目のため、履修する必要はありません。
注2	「同和教育と人権」は必修とします。また、「多文化理解と人権」は、履修することが望ましい授業科目です。いずれの科目も卒業要件に含めて履修することができます。
注3	キャリア・スタディ科目群の授業科目で、卒業要件の単位に含みます。
注4	学校図書館司書教諭の専門科目で、卒業要件の単位には含みません。
注5	介護等体験を行う前年度までに修得してください。1年次生対象の資格課程の秋学期開講科目の追加登録オリエンテーションで追加登録（1年次春学期終了時にGPAが2.0以上の場合のみ）できる授業科目です。卒業要件の単位には含みません。

よくある質問

Q

免許状を取得する場合、1年次生から履修すべき科目はありますか。

A

1年次生が履修できる「同和教育と人権」「教育の課題Ⅰ」「日本国憲法」は、免許状を取得するために必要な科目です。

4 介護等体験

介護等体験は、教育職員を志す人が、障害者や高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験を通じて「個人の尊厳と社会連帯の理念」を深めることを目指すとともに、教育を担う人に求められる幅広い社会観・人生観がもてるよう、人間的に成長できるきっかけを得るために行うものです。

介護等体験は、以下の実習要領に基づいて行います。

介護等体験実習要領	
①	「介護と施設」(集中講義)の単位を修得した翌年度に体験を行います。 集中講義 春学期…2・3年次生対象 秋学期…1年次生対象
②	原則として、2年次または3年次までに行います。 教職課程を辞退した場合でも、申し込みをした人は辞退できませんので、十分注意してください。
③	体験期間は7日間(特別支援学校2日間、社会福祉施設等5日間)とします。 体験先は、都道府県により体験する時期・場所を希望できる場合とできない場合があります。申し込み後は、決定通知で体験日時を確認し、スケジュール管理には十分注意してください。
④	体験は本学より一括して、各都道府県教育委員会(特別支援学校)および各都道府県社会福祉協議会(社会福祉施設)に受け入れを依頼します。 <体験までの流れ> 1. 春学期または秋学期に、「介護と施設」の集中講義を履修し単位を修得する。 2. 春学期または秋学期に開催する「介護等体験に関するオリエンテーション」に参加する。 3. 6月または10月中旬から開催する各都道府県別の「介護等体験申込みオリエンテーション」に参加する。 <日程の告知は、Gmailで行います。> 4. 進級した年次の5月下旬から体験を行う。 ----- 一部の都道府県を除いて、体験の申し込みは京都府とし、 京都府内・市内で体験を行います。 詳細は「教職課程履修ハンドブック」を参照してください。
⑤	体験後、体験校・施設において「 介護等の体験に関する証明書 」が発行されますので、卒業年次の免許状申請時まで大切に保管してください。

介護等体験先の連絡について

Gmailで連絡します。

体験場所・体験日・体験先への持ち物など重要なお知らせは、教職履修カルテの「関連ファイル」にすべてアップロードします。個別にGmailで連絡しますので、転送設定をするなどして、こまめにメールをチェックしてください。

介護等体験と留学について

留学(派遣・認定・休学)を検討している人は、体験先・体験時期の変更も可能です。準備の段階から教務部に申し出てください。

よくある質問

Q

集中講義とは、どのような授業ですか。

A

通常の授業は、週1回もしくは2回行いますが、集中講義は、限られた日程で集中的に授業を行います。

5 教育実習

教育実習は、教育職員を志す人が、学校教育の現場をあらかじめ体験研究する唯一の機会といえます。大学で学んだ知識や理論を生かして、実践的な知識・技能・姿勢等、教師という職務の重大さ、社会における使命感を十分に自覚して実習に臨んでください。

教育実習は以下の要領に基づいて行います。また、本学では実習に参加するためには、実習時期に応じて教育実習参加資格を満たす必要があります。

①	原則として、4年次に実習を行います。
②	教科は日本語学科が「国語」、それ以外の学科は原則として「英語」で実習を行います。
③	実習期間は3週間以上とします。
④	実習校は、実習をする前年度に、出身中学校または出身高等学校に交渉して各自で実習の内諾を得てください。
	ただし、一部の地域では当該教育委員会が実習校を配当校制により決定しますので、各自で実習の内諾を得ることはできません。 配当校制度 配当校制を実施するための特別な申請手続きが必要な地域は以下のとおりです。 名古屋市立中学校・京都市立中学校・神戸市立中学校・北九州市立中学校 ※上記以外でも特別な手続きを行う地域がありますので、教務部で確認してください。

教育実習参加資格 教育実習を行うためには、以下の条件を満たす必要があります。

$$\text{教育実習参加資格} = \text{A 教職に関する科目} + \text{B 教育実習を行う場合の語学力等の基準}$$

教育実習を行う時期と参加資格

教育実習を行う時期により、参加資格を満たす時期も異なりますので、十分注意してください。

■ 4年次の春学期（4月1日～8月31日）に教育実習を行う場合

Ⓐ教職に関する科目	3年次の秋学期終了までに必要な単位を修得してください。
Ⓑ教育実習を行う場合の語学力等の基準	学生サポートシステムに表示している以外のスコアを取得している場合は、3年次終了（3月31日）までに基準を満たした証明書等のコピーを提出してください。

■ 4年次の秋学期（9月1日～翌年3月31日）に教育実習を行う場合

Ⓐ教職に関する科目	4年次春学期終了までに必要な単位を修得してください。
Ⓑ教育実習を行う場合の語学力等の基準	学生サポートシステムに表示されている以外のスコアを取得している場合は、4年次の5月31日までに基準を満たした証明書等のコピーを提出してください。

Ⓐ教職に関する科目

教職に関する科目のうち以下の授業科目の単位を修得しておいてください。

教師論	教育原理	学校教育心理学	教育行政学	教育課程論
各教科の指導法1・2	道徳教育の研究	特別活動指導論	教育の方法および技術	
生徒指導・進路指導論	教育相談			

英米語学科の人で、英語で教育実習を行う場合「英語教育法1・2」の単位を修得しておいてください。

注：派遣・認定留学等にもない教育実習を行う前年度末までに、教育実習参加資格の単位が修得できない場合は、事前に教務部に申し出てください。

②教育実習を行う場合の語学力等の基準

専攻語で教育実習を行う場合

免許の教科で教育実習を行う場合の基準を以下の期間までに満たしてください。

専攻語で教育実習を行わない場合

スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語学科の人が英語で教育実習を行う場合は、免許の教科で教育実習を行う場合の基準と英語で教育実習を行う場合の基準の両方を以下の期間までに満たしてください。

4年次の春学期に教育実習を行う (4月1日～8月31日)	学生サポートシステムに表示している以外のスコアを取得している場合は、3年次終了(3月31日)までに基準を満たした証明書等のコピーを提出してください。
4年次の秋学期に教育実習を行う (9月1日～翌年3月31日)	学生サポートシステムに表示している以外のスコアを取得している場合は、4年次の5月31日までに基準を満たした証明書等のコピーを提出してください。

免許の教科	免許教科で教育実習を行う場合の基準 ※いずれか一つを必ず取得する必要があります。	英語で教育実習を行う場合の基準 (英米語以外の学科対象)
英語	TOEIC L&R (IPを含む) 650点以上 TOEFL iBT 68点以上 IELTS 5以上 実用英語技能検定準1級以上 ※いずれか一つ	TOEIC L&R (IPを含む) 550点以上 TOEFL iBT 57点以上 IELTS 4.5以上 ※いずれか一つ ただし、専攻語で実習を行う場合は取得する必要はありません。
スペイン語	DELE A2以上 学内スペイン語統一試験 70点以上 ※いずれか一つ	
フランス語	実用フランス語技能検定試験 2級以上 学内フランス語統一試験 85点以上 DELF・DALF B1以上 TCF 300以上 ※いずれか一つ	
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 3級以上 ゲーテ・インスティトゥート A2以上 学内ドイツ語統一試験 80点以上 ※いずれか一つ	
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験(旧:国際ポルトガル語検定試験) 初級以上 学内ポルトガル語統一試験 80点以上 ※いずれか一つ	
中国語	実用中国語技能検定試験 3級以上 新HSK・旧HSK 4級以上 中国語検定試験 3級以上 学内中国語統一試験 80点以上 ※いずれか一つ	
イタリア語	実用イタリア語検定試験 3級以上 CILS B1以上 学内イタリア語統一試験 80点以上 ※いずれか一つ	
国語	教科に関する科目の一般的包括的科目をすべて修得済みであること。	

※学内語学統一試験の点数は、100点満点に換算した点数。

※教育実習参加資格を満たせなかった場合

参加資格を満たせなかった場合は、実習校へ教育実習を辞退することを知らせる必要がありますので、必ず教務部へ連絡してください。

6 専攻語以外の免許状取得

専攻語の免許状を取得することを条件として、英語または国語の免許状を同時に取得することができます。

申請および詳細の説明は、「専攻する言語以外の教員免許状取得オリエンテーション」(日時・場所はホームページ参照)で行いますので必ず出席してください。

なお、1・2年次終了までに以下の基準を満たすことが必要です。

対象：英米語学科以外の人

外国語（英語）の免許状を取得する場合	
2年次から履修する場合 1年次終了(3月31日)までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次配当の専攻語科目(必修)、日本語学科は専門科目(必修)の単位をすべて修得済みであること。 ・1年次配当の第2外国語科目(必修分)の単位をすべて修得済みであること。(1年次配当の第2外国語科目は、英語の単位を修得することが望ましい。)
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語強化科目4単位以上を修得済みであること。 ・外国語強化科目のインターミディエイトの履修基準のいずれか1つを、1年次終了(3月31日)までに満たすこと。 TOEIC L&R(IPを含む) 550点以上, TOEFL iBT 57点以上, IELTS 4.5以上
③	3年次終了までに43ページ記載の免許教科(英語)の教育実習を行う場合の基準を満たすことが望ましい。
3年次から履修する場合 2年次終了(3月31日)までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次配当の専攻語科目(必修)、日本語学科は専門科目(必修)の単位を原則としてすべて修得済みであること。 ・1・2年次配当の第2外国語科目(必修分)の単位をすべて修得済みであること。(1・2年次配当の第2外国語科目(必修分)は、英語の単位を修得することが望ましい。)
	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次配当のグローバル・スタディ科目群[エリアA]学科指定の8単位以上を修得済みであること。 ・外国語強化科目のインターミディエイトの履修基準のいずれか1つを、2年次終了(3月31日)までに満たすこと。 TOEIC L&R(IPを含む) 550点以上, TOEFL iBT 57点以上, IELTS 4.5以上
③	3年次終了までに43ページ記載の免許教科(英語)の教育実習を行う場合の基準を満たすことが望ましい。

対象：日本語学科以外の人

国語の免許状を取得する場合	
2年次から履修する場合 1年次終了(3月31日)までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験する予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次配当の専攻語科目(必修)の単位をすべて修得済みであること。 ・ 1年次配当の第2外国語科目(必修分)の単位をすべて修得済みであること。 ・ 外国語強化科目4単位以上を修得済みであること。
③	下表の専攻する言語の外国語強化科目インターミディエイト履修基準を1年次終了(3月31日)までに満たしていること。
3年次から履修する場合 2年次終了(3月31日)までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年次配当の専攻語科目(必修)の単位をすべて修得済みであること。 ・ 1・2年次配当の第2外国語科目(必修分)の単位をすべて修得済みであること。 ・ 1・2年次配当のグローバル・スタディ科目群[エリアA]学科指定の8単位以上を修得済みであること。
③	下表の専攻する言語の外国語強化科目インターミディエイト履修基準を2年次終了(3月31日)までに満たしていること。

免許の教科	外国語強化科目のインターミディエイト履修基準
英語	TOEIC L&R (IP を含む) 550 点以上 TOEFL iBT 57 点以上 IELTS 4.5 以上 ※いずれか一つ
スペイン語	スペイン語技能検定試験 4 級以上 学内スペイン語統一試験 50 点以上 ※いずれか一つ
フランス語	実用フランス語技能検定試験 3 級以上 学内フランス語統一試験 50 点以上 ※いずれか一つ
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4 級以上 ゲーテ・インスティトゥート A1 以上 学内ドイツ語統一試験 60 点以上 ※いずれか一つ
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験 (旧：国際ポルトガル語検定試験) 準初級以上 学内ポルトガル語統一試験 55 点以上 ※いずれか一つ
中国語	実用中国語技能検定試験 4 級以上 新HSK・旧HSK 3 級以上 中国語検定試験 4 級以上 学内中国語統一試験 60 点以上 ※いずれか一つ
イタリア語	実用イタリア語検定試験 4 級以上 CILS A1 以上 学内イタリア語統一試験 60 点以上 ※いずれか一つ

7 教育職員免許状申請の手続き

免許状は、都道府県の教育委員会が授与します。授与された免許状は、すべての都道府県において効力を有します。

(1) 卒業時に免許状の取得を希望する場合

4年次生は介護等体験証明書の提出オリエンテーションと教育職員免許状申請オリエンテーション（日時・場所は「Campus Schedule」参照）に出席し、必要な書類を提出してください。

本学が一括して京都府教育委員会に免許状の申請を行い、学位記授与式当日に免許状を授与します。

なお、所定期間に書類を提出できない場合は、その旨を教務部に連絡してください。

(2) 個人申請

「教育職員免許状申請オリエンテーション」を無断で欠席した場合や書類の提出を怠った場合、あるいは卒業判定において「保留」になった場合は、卒業後に個人で申請することになります。申請手続きについては、各都道府県で申請様式が異なり、かつ申請から交付まで相当の日数がかかります。

詳しくは、直接当該の教育委員会へ問い合わせてください。

8 教員免許状の有効期限

平成19年に教育職員免許法が改正されたことにもない、皆さんが取得する教員免許状には有効期限があり、法律によって義務付けられた教員免許状更新講習会を受講しなければ、失効することになります。

この教員免許更新制とは、その時々時代と社会のなかで教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることをめざすものです。

教員免許状の有効期限は10年です。

平成21年4月1日以降に取得した教員免許状には10年間の有効期限が付されています。

有効期限の2年2ヵ月前から2ヵ月前までに教員免許状更新講習を修了しなければ、免許状は失効します。

また卒業後、教職に就かなかった人（ペーパー・ティーチャー）は、教員免許状更新講習を受講することができませんので、この場合も免許状は失効します。

ただし、免許状が失効した場合（修了確認期限までに更新講習を修了していない場合）でも、免許状を取得した際に、授与の基礎となった教職課程の単位は無効になりません。失効後でも、教員採用試験を受験し合格した場合、あるいは臨時的任用者として採用される場合は、就任時までに更新講習を修了することで、免許状の再交付を受けることができます。

9 教職課程履修についての注意事項

教職課程を履修するうえで重要なのは、4年間の履修計画です。

1年次の秋学期から教職課程を履修することができますが、2年次・3年次と複数年計画で実習参加資格の科目を履修するようにしてください。科目を履修するということは、課題の提出・試験等もほぼ同じ時期に重なりますので、紙の上では可能なことも、実際授業を受けてみるとかなりハードな場合がほとんどですので時間割に余裕を持たせましょう。

また、教育職員を目指すうえで必要な教育支援活動（教育現場でのボランティア活動）などの時間も必要となりますので、時間を調整して活動してください。

小学校教諭免許状取得支援プログラム <外国語学部生対象>

このプログラムの目的は、キャリア支援の一環として、在学中に小学校教諭免許の取得に必要な科目の単位修得を支援することにあります。

このプログラムは、佛教大学通信教育課程が提供する小学校教諭一種免許状の取得に必要な科目を科目等履修生として履修することで、本学卒業後に小学校教諭一種免許状を取得することができます。ただし、本学の教職課程で中学校・高等学校教諭一種免許状を取得し、小学校教諭免許状取得に必要な単位を修得する必要があります。

1 出願資格

募集人員は20名 面接および GPA 評価により選考します。

出願時に次の1～4のすべてに該当する1年次生

1	教職課程を登録している人または、登録予定の人
2	専攻語科目（必修）、日本語学科は専門科目（必修）のGPAが、2.0以上の人
3	教職に就くことを強く希望し、教員採用試験の受験を誓約する人
4	在学中に1年間の留学（派遣・認定）をしない人

このプログラムに参加する人は、年度ごとに教務部による履修指導を受ける必要があります。

2 受講料等

	佛教大学
取得できる免許状	一種免許状
修得単位数	51 単位
履修費（予定） （スクーリング参加のための 交通費・宿泊費は除く）	約 500,000 円（※） （別途テキスト代約 36,000 円）
スクーリング科目	5 科目
スクーリング会場	佛教大学
修了試験会場	佛教大学 その他全国で開催
所在地	〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96

（※）一旦納入した受講料などは返金できませんので、注意してください。

3 オリエンテーションの開催

小学校教諭免許状取得プログラムオリエンテーション（日時・場所はホームページ参照）で、プログラムの内容および出願方法について詳しく説明します。

4 教員免許状の申請

小学校教諭免許状については、本学卒業後、出身の都道府県教育委員会へ個人申請することにより免許状が授与されます。なお、申請方法については、4年次に行う「小学校教諭免許状申請オリエンテーション」（日時・場所は「Campus Schedule」参照）で説明します。

学校図書館司書教諭課程

<外国語学部生対象>

小学校・中学校・高等学校の図書館で専門的職務を行うのが「学校図書館司書教諭」です。司書教諭は、教諭をもって充て、さらに司書教諭の講習を修了した人でなければなりません。本学で、司書教諭の資格を取得するために開設しているのが、学校図書館司書教諭課程です。

1 学校図書館司書教諭課程の登録

(1) 課程登録

学校図書館司書教諭課程は、2年次または3年次からの登録となりますので、希望者は2年次または3年次のWeb履修登録の際に、画面最下段の【課程登録】の中にある学校図書館司書教諭課程を「登録する」に変更し登録してください。課程登録は年度毎に行う必要があります。

学校図書館司書教諭の専門科目の登録は、年1回(4月)のみ(9月に復学する人は除く。)です。秋学期の選択科目の変更期間に追加や削除はできませんので、注意してください。

(2) オリエンテーションへの出席

年次ごとに実施している3月の「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション」に必ず出席してください。

学校図書館司書教諭課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録を認めないことがありますので、十分注意してください。

(3) 派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教務部まで申し出てください。

(4) 学校図書館司書教諭課程の辞退

学校図書館司書教諭課程に登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教務部へ「辞退届」を提出してください。

2 学校図書館司書教諭課程の科目

下表の本学における授業科目を全て履修し、10単位を修得してください。

	学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次
必修科目	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	3・4
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2・3・4
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3・4
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	3・4
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2・3・4
	合計	10	合計	10	



登録上の注意事項

学校図書館司書教諭課程の必修科目は、2～4年次に登録できる単位数の上限(年間48単位)を超えて履修登録することができますが、登録は年1回(4月)のみ(9月に復学する人は除く。)です。

秋学期の選択科目の変更期間に追加や削除はできませんので、注意してください。

3 修了証書の交付

教育職員免許状を授与された学生が、「学校図書館司書教諭課程」で定められた科目の単位を修得し、4年次に学校図書館司書教諭講習修了証申請オリエンテーションで所定の申請を行った場合、学校図書館法に基づき文部科学省から約1年後に学校図書館司書教諭講習修了証書が交付されます。

公立または私立図書館で職員として専門業務を行うためには、図書館法で定める「司書」の資格が必要です。本学で司書の資格を取得するために開講しているのが、図書館司書課程です。

1 図書館司書課程の登録

(1) 課程登録

司書課程は、2年次または3年次からの登録となりますので、希望者は2年次または3年次のWeb履修登録の際に、画面最下段の【課程登録】の中にある図書館司書課程を「登録する」に変更し登録してください。課程登録は年度毎に行う必要があります。

図書館司書課程の専門科目の登録は、年1回(4月)のみ(9月に復学する人は除く。)です。秋学期の選択科目の変更期間に、追加や削除できませんので、注意してください。

(2) 1年次からの履修

1年次の秋学期から追加登録(課程登録を含みます。)をすることができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1年次対象の「資格課程秋学期開講科目の追加登録オリエンテーション」(日時・場所は「Campus Schedule」参照)に出席してください。



1年次生が追加登録する場合の注意事項

履修登録できる授業科目は「生涯学習概論」「図書館情報技術論」の2科目ですが、1年次の春学期終了時点でGPAが2.0未満の場合は、図書館司書課程の必修科目「図書館情報技術論」を、追加登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの出席

年次ごとに実施している3月の「図書館司書課程オリエンテーション」に必ず出席してください。

図書館司書課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学する場合は、必ず事前に教務部まで申し出てください。

(5) 図書館司書課程の辞退

図書館司書課程を登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教務部へ「辞退届」を提出してください。

2 図書館司書課程の科目

下表の本学における授業科目の必修科目を 22 単位、選択科目から 2 科目以上を選択して 4 単位以上、あわせて 26 単位以上を修得してください。

	図書館法施行規則に定める科目	単位	本学における授業科目	配当年次	単位	備考
甲群 (必修科目)	生涯学習概論	2	生涯学習概論	1	2	CS (教育)
	図書館概論	2	図書館概論	2・3・4	2	
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2・3・4	2	
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	1	2	
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2・3・4	2	注 1
	情報サービス論	2	情報サービス論	2・3・4	2	
	児童サービス論	2	児童サービス論	3・4	2	
	情報サービス演習	2	情報サービス演習 I	2・3・4	1	注 2
			情報サービス演習 II	3・4	1	
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2・3・4	2	
情報資源組織論	2	情報資源組織論	3・4	2	注 3	
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習 I	3・4	1		
		情報資源組織演習 II	3・4	1		
乙群 (選択科目)	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	2・3・4	2	
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論	3・4	2	
	図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論	3・4	1	注 4
	図書館施設論	1	図書館施設論	2・3・4	2	注 5
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	3・4	2	
	合計	24	必要単位数		26	



履修上の注意事項

注 1	児童サービス論は履修することが望ましい。
注 2	情報サービス論を履修していること。
注 3	情報資源組織論を履修していること。
注 4	図書館情報資源概論を履修していることが望ましい。
注 5	図書館制度・経営論を履修していることが望ましい。
	図書館司書課程の必修科目の生涯学習概論以外は、1 年次に登録できる単位数の上限（年間 36 単位）、2～4 年次に登録できる単位数の上限（年間 48 単位）を超えて履修登録することができますが、登録は年 1 回（4 月）のみ（9 月に復学する人は除く。）です。秋学期の選択科目の変更期間に図書館司書課程の必修科目を追加および削除することはできませんので、注意してください。
	備考欄の CS はキャリア・スタディ科目群の略称。
	2・3 年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。

3 図書館司書課程修了証書の交付

図書館司書課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「図書館司書課程修了証書」を交付します。

公立または私立の博物館に専門的職員として従事するためには、博物館法により「学芸員」の資格を取得しなければなりません。本学で学芸員の資格を取得するために開講しているのが、博物館学芸員課程です。

1 博物館学芸員課程の登録

(1) 課程登録

博物館学芸員課程は、2年次または3年次からの登録となりますので、希望者は2年次または3年次のweb履修登録の際に、画面最下段の【課程登録】の中にある博物館学芸員課程を「登録する」に変更し登録してください。課程登録は年度毎に行う必要があります。

博物館学芸員課程の専門科目の登録は、年1回(4月)のみ(9月に復学する人は除く。)です。秋学期の選択科目の変更期間に追加や削除はできませんので、注意してください。

博物館学芸員課程を登録するにあたって、課程登録を行った年次に登録履修費として5,000円(予定)を納入する必要がありますが、登録履修費は課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

(2) 1年次からの履修

1年次の秋学期から追加登録(課程登録を含みます。)することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1年次対象の「資格課程秋学期開講科目の追加登録オリエンテーション(日時・場所は「Campus Schedule」参照)に出席してください。



1年次生が追加登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は「生涯学習概論」「博物館概論」の2科目ですが、1年次の春学期終了時点で、GPAが2.0未満の場合は、博物館学芸員課程の必修科目「博物館概論」を、追加登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの出席

年次ごとに実施している3月の「博物館学芸員課程オリエンテーション」に必ず出席してください。

オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教務部まで申し出てください。

(5) 博物館学芸員課程の辞退

博物館学芸員課程を登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教務部へ「辞退届」を提出してください。

2 博物館学芸員課程の科目

下表の本学における授業科目から**必修科目 20 単位**、**外国語学部**の人は**選択科目**の「美術」・「考古学」・「民俗学」・「自然科学」の4分野から3科目6単位以上と「歴史」・「人類学」の2分野から1科目2単位以上を、**国際貢献学部**の人は分野にかかわらず**4科目8単位以上**を修得してください。

< 必修科目 (学部共通) >

博物館法施行規則に定める科目	単位	本学における授業科目	配当年次	単位	備考
生涯学習概論	2	生涯学習概論	1	2	CS (教育)
博物館概論	2	博物館概論	1	2	
博物館経営論	2	博物館経営論	3・4	2	
博物館資料論	2	博物館資料論	2・3・4	2	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	3・4	2	
博物館展示論	2	博物館展示論	2・3・4	2	
博物館教育論	2	博物館教育論	2・3・4	2	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	3・4	2	
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2・3・4	2	
		博物館実習Ⅱ	3・4	1	
		博物館実習Ⅲ	3・4	1	
合計	19	必要単位数		20	

< 選択科目 >

外国語学部					国際貢献学部				
分野	授業科目名	配当年次	単位	備考	分野	授業科目名	配当年次	単位	備考
美術	ヨーロッパの美術Ⅰ	2	2	GS/B (欧米地域)	考古学	ミュージアムマネジメント(PBL)	2	2	
	アートマネジメント	2	2	CS (公共政策)		文化遺産と観光	1	2	
	生活と芸術	2	2	CS (生活環境)	民俗学	京都モノ・コト学	2	2	
考古学	異文化理解のための考古学	1	2	GS/B (国際文化)		京都モノ・コト研究(PBL)	3	2	
	考古学から復元する生活文化史	2	2	CS (生活・環境)		日本のものづくり(PBL)	2	2	
	ミュージアムマネジメント	2	2	CS (公共政策)	美術・ 工芸	Current Japan and Tradition	1	2	
民俗学	民俗学から見た衣食住	2	2	CS (生活・環境)		Research of Japanese Culture	1	2	
	自然科学	科学技術の歴史	2	2		CS (情報・メディア)	Destination Kyoto	1	2
		生活と環境	2	2	CS (生活・環境)	人類学	京都文化概論	1	2
宇宙の科学		2	2	アフリカ文化事情			2	2	
歴史	世界史 B-文化に注目して	1	2	GS/B (国際文化)	歴史	Japanese History	1	2	
	日本の歴史と文化Ⅰ	2	2	GS/B (アジア・中東・アフリカ地域)		Japanese History and Culture	1	2	
	中東の歴史と文化Ⅰ	2	2	GS/B (国際文化)		Modern Japanese History	1	2	
	ユーラシアの歴史と文化Ⅰ	2	2			京都の歴史	1	2	
	アジアの歴史と文化Ⅰ	2	2	GS/B (アジア・中東・アフリカ地域)		南アジアの歴史と文化Ⅰ	2	2	
人類学	異文化理解のための人類学	1	2	GS/B (国際文化)		南アジアの歴史と文化Ⅱ	2	2	
	東西文化の交流Ⅰ	2	2	GS/B (アジア・中東・アフリカ地域)		自然科学	生活と環境	1	2
	アフリカ文化事情	2	2		グローバル環境論		1	2	
必要単位数	8			Environmental Issues	2		2		
				Sustainable Development	2	2			
				必要単位数	8				



履修上の注意事項

博物館学芸員課程の必修科目の生涯学習概論以外は、1年次に登録できる単位数の上限(年間36単位)、2～4年次に登録できる単位数の上限(年間48単位)を超えて履修登録することができませんが、登録は年1回(4月)のみ(9月に復学する人は除く。)です。秋学期の選択科目の変更期間に博物館学芸員課程の必修科目を追加および削除することはできませんので、注意してください。

博物館学芸員課程を終了するまでに「アートマネジメント」もしくは、「ミュージアムマネジメント」のいずれかの科目を履修することが望ましいです。

備考欄のGS/Bはグローバル・スタディ科目群(エリアB)を、CSはキャリア・スタディ科目群の略称。

2・3年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。

3 博物館実習

博物館実習は、受入れ側の博物館等と本学との綿密な計画のもとに実施しますので、所定の手続きや指導事項および書類の提出期限を厳守してください。また、本学では実習に参加するために、実習時期に応じて実習参加資格を満たす必要があります。

詳細は博物館実習オリエンテーション(日時・場所は「Campus Schedule」参照)で説明します。

博物館実習参加資格		
実習期間	参加資格を満たす時期	参加資格
春学期(4月1日～8月31日)	前年度終了時まで	[博物館概論][博物館資料論][博物館教育論][博物館展示論][博物館実習Ⅰ]の単位を修得済みで、外国語学部の人は選択科目の中で、「美術」・「考古学」・「民俗学」・「自然科学」の4分野から3科目6単位以上と「歴史」・「人類学」の2分野から1科目2単位以上を、国際貢献学部の人は選択科目の中で、分野にかかわらず4科目8単位以上を修得済みであること。
秋学期(9月1日～翌年3月31日)	当該年度の春学期終了時まで	

4 実習館の選択

実習館は下表の「A本学指定の実習館」「B出身地等に所在する博物館等(個人交渉)」のいずれかを選択しなければなりません。

なお、「A本学指定の実習館」では、受入れ人数に制限がありますので、実習を希望する人が多い場合は、選考を行うことがあります。

【注】A・Bいずれの場合も内諾を得た後に、博物館実習を辞退することはできません。

A 本学指定の実習館			
都道府県	実習館		住所
京都府	京都府京都文化博物館	〒604-8183	京都市中京区三条高倉上ル
	京都府埋蔵文化財調査研究センター	〒617-0002	向日市寺戸町南垣内40-3
	向日市埋蔵文化財センター	〒617-0004	向日市鶏冠井町上古23
	京都府立山城郷土資料館	〒619-0204	相楽郡山城町上狛千両岩
	京都府立丹後郷土資料館	〒629-2234	宮津市国分小学天王山611-1
滋賀県	霊山歴史館	〒605-0861	京都市東山区清閑寺霊山町1
兵庫県	滋賀県立陶芸の森陶芸館	〒529-1804	甲賀市信楽町勅旨2188-7
	篠山市立歴史美術館	〒669-2322	篠山市呉服町53
	神戸市立博物館 [神戸市出身の学生に限る]	〒650-0034	神戸市中央区京町24
大阪府	芦屋市立美術館	〒659-0052	芦屋市伊勢町12-25
	堺市博物館 [堺市在住の学生に限る]	〒590-0802	堺市百舌鳥夕雲町2丁目
静岡県	伊豆シャボテン公園	〒413-0231	伊東市富戸1090

B 出身地等に所在する博物館等

学生が出身地等に所在する博物館等に直接交渉して実習することができますが、その場合は、実習を行う前年度に内諾交渉を行う必要があります。ただし、内諾交渉や実習のために春学期定期試験を欠席した場合は、追試験を認めませんので、十分注意してください。

海外での実習

実習先はコスタリカ中央銀行博物館またはヒスイ博物館となります。実習参加には言語等の条件などがありますので、詳細は本学の国際文化資料館で確認してください。

5 博物館実習の評価

博物館実習の評価は、実習館から報告される「博物館実習成績報告票」の評価と「博物館実習Ⅲ」の成績に基づき総合的に評価します。実習を行う年度に留学する場合は、事前に教務部で相談のうえ、履修登録してください。

春学期（4月10日から7月31日）に実習を行った場合は、「博物館実習Ⅱ」の成績も評価の対象となります。

6 国際文化資料館の利用

国際文化資料館（10号館4F）は、通常の博物館業務とともに博物館学芸員課程における生きた実習の場として日常的に活用してください。

7 博物館学芸員課程修了証書の交付

博物館学芸員課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「博物館学芸員課程修了証書」を交付します。